

令和元年度(平成31年度)本部事業報告書

社会福祉法人 ささゆり会

令和元年度の運営スローガンは、『助け合って難局を乗り切る』になっております。

法改正により、2019年4月より有給休暇5日以上の取得義務化になりました。各事業所職員に有給休暇5日を促し、目標達成しています。2019年10月に消費税の増税があり、介護報酬を0.39%引き上げられています。軽減税率もあり会計の処理等に大変苦労しています。

2018年11月21日に姫路市より、小規模多機能型居宅介護事業所を整備する法人に決定し4月オープン予定のサンライフ岡田(仮)の開設が予定より遅れています。2020年10月1日に開設予定です。

8月1日にはベトナムからのEPA(経済連携協定)候補生が各事業所に配属になりました。法人全体で10名のEPAの候補生が来ました。サンライフ御立に2名、サンライフ土山に4名、サンライフ魚崎に2名、介護型ケアハウスサンライフ魚崎に2名配属になりました。来年度のEPA候補生マッチングでは、サンライフひろみね、サンライフ西庄、フレール魚崎も参加しベトナム候補生の面談を行いました。サンライフひろみね、サンライフ西庄はマッチングが出来ませんでした。先輩職員がいる所を希望する傾向があります。EPA候補生の日本語及び介護福祉士の資格取得の勉強にも力を入れています。2月24日に技能実習性がインドネシアから来ています。サンライフ御立に4名、サンライフ魚崎に1名配属しています。EPA候補生、外国人技能実習生共に介護福祉士の資格所得に向けた勉強と日本語勉強を行っています。

令和元年6月からは、地域貢献事業として子供食堂「リストランテ・ヴォーノ」をサンライフ田寺で開設し、サンライフ西庄に続いて2つ目の子ども食堂になります。

今年度の下半期では、1月からの新型コロナウイルスにより職員や入居者様、利用者様の感染予防に務めてまいりました。

令和元年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記3つの重点項目である。

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・サンライフ岡田(仮)の開設準備
 - ・外国人技能実習生受け入れ
2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ICT導入による業務改善
3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
 - ・EPA(経済連携協定)の研修生の採用と育成

- ・技能実習生の日本語研修と介護研修

以下、令和元年度の事業推進結果を主要運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議と大別して、その概要を報告する。

I. 主要運営の経緯

1. 定款の変更と諸規程の改正

- R1. 6. 11 社会福祉法人ささゆり会定款変更について
社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
- R1. 10. 4 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
- R1. 12. 13 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
- R2. 2. 14 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定、改定について

2. その他行事等の主要運営

- H31. 4. 1 サンライフ御立入社式、サンライフ魚崎入社式
- R1. 5. 4, 5 だんじり見物(神戸)
- R1. 6. 1 御立祭り
- R1. 6. 4 監事監査
- R. 6. 11 第1回理事会
- R. 6. 12 ふれあい子供食堂(レストランテヴォーノ田寺)開設
- R1. 6. 26 サンライフ魚崎納涼祭
- R1. 6. 27 定時評議員会
- R1. 7. 9 第3回理事会
- R1. 8. 2 第4回理事会
- R1. 8. 1 サンライフ魚崎 EPA 候補生入社式
- R1. 8. 9 評議委員選任・解任委員会
- R1. 8. 9 第5回理事会
- R1. 8. 9 第1回臨時評議員会
- R1. 9. 4 サンライフ岡田地鎮祭
- R1. 9. 16 サンライフ御立敬老会
- R1. 9. 20 サンライフ魚崎敬老会
- R1. 11. 2 HCC(播磨介護技術競技大会)
- R1. 10. 4 第6回理事会
- R1. 10. 15 第2回臨時評議員会
- R1. 11. 21 第1回介護保険推進委員会(魚崎)
- R1. 11. 22 第7回理事会
- R1. 12. 6 監事監査
- R1. 12. 13 第8回理事会
- R1. 12. 20 第9回理事会
- R1. 12. 20 第3回臨時評議員会
- R1. 12. 12 サンライフ魚崎クリスマス会
- R1. 12. 13 サンライフ御立クリスマス会
- R1. 12. 27 サンライフ魚崎もちつき大会
- R2. 1. 1, 2 サンライフ魚崎初詣
- R2. 2. 14 第10回理事会

- R2. 3. 14 彼岸法要
- R2. 3. 17 第 11 回理事会
- R2. 3. 19 第 4 回臨時評議員会

II. 施設経営と介護サービス

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実

令和元年 6 月に子ども食堂「レストランテ・ヴォーノ」をデイサービスサンライフ田寺で開設。2 つ目の子ども食堂になります。

2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築

サンライフ御立の特養フロアに wifi の設備工事を行いました。

3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保

新入職員の入社は、姫路が 7 名、魚崎 5 名となっています。EPA 候補生は、姫路 6 名、魚崎 4 名の入社となりました。EPA 候補生の受け入れ人数は増加しています。前年度と比べて、高校生、大学生とも入社人数が減って来ているように思えます。

4. 地域貢献事業等の推進（介護実習等）

姫路事業所

受 入 先	人数
神戸医療福祉大学	3
兵庫県立飾磨高等学校	1
姫路保育福祉専門学校	5
ハーベスト医療福祉専門学校	3
NHK 学園	2
関西福祉大学	1
姫路市医師会看護専門学校	12
兵庫大学	1
兵庫県立龍野北高校	7
兵庫県立播磨高等学校	5
姫路しらすぎ特別支援学校	1
大原学園	1

合計 42

魚崎事業所

受 入 先	人数
兵庫県自治研修所	2
甲子園短期大学	3
神戸常盤大学短期大学	9
兵庫県立総合衛生学院	4
神戸医療福祉大学	3
神戸学院大学	1
西神戸高等特別支援学校	1
神戸市立魚崎中学校	6
星槎大学	1
同志社大学	1
神戸大学	3
関西学院大学	1

合計 35

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ西庄）

	4/11	5/9	6/13	7/11	7/25	8/8	8/22	9/12	10/10	11/14	12/12	12/26	1/9	2/13	合計
子ども人数	23	23	25	23	22	14	14	12	10	26	26	24	17	24	283
ボランティア	19	9	13	17	8	15	12	12	11	13	15	6	10	5	165

※3月の開催は、新型コロナウイルスの影響により中止

ボランティア：民生委員、飾磨高校学生、地域住民（西庄地域）

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ田寺）

	6/12	7/18	8/21	9/18	10/16	11/20	12/18	1/15	2/19	合計
子ども人数	23	23	13	13	20	40	42	31	28	233
ボランティア	15	21	11	6	10	12	14	10	10	109

※3月の開催は、新型コロナウイルスの影響により中止

ボランティア：民生委員、姫路高校学生

福祉無料なんでも相談所

	開設 日数	相談 件数	相談経路		相談種別					相談項目			
			電 話	来 所	高齢者	障がい者	精神	その他	生活	介護	入所	虐待	その他
2019年度	147	256	55	201	93	93	62	8	144	21	23	1	67

5. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

御立事業所：森下 万悠華 植木 美帆 上野 史寛 是川 由起子

（小計 4名）

・介護支援専門員

神戸事業所：長谷川 絢子 田中 由佳（小計 2名）

合計 6名

Ⅲ. 会議

定款の変更、規定の改正、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

ア. 監事会・理事会・評議員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第1回監事会	1. 平成30年度事業報告・決算などの監査	R1.6.4	
第1回理事会	1. 平成30年度監事監査報告について 2. 平成30年度事業報告承認について 3. 平成30年度会計決算承認について 4. 福祉充実計画の評議員会への上程議案の承認について 5. 社会福祉法人ささゆり会定款変更について 6. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 7. 定時評議委員会の招集日時、場所、議題等の決定について	R1.6.11	御立 2F 会議室
定時評議員会	1. 平成30年度監事監査報告 2. 平成30年度事業報告承認について 3. 平成30年度会計決算承認について 4. 福祉充実計画の承認について 5. 役員の選任について 6. 会計監査人の選任について 7. 社会福祉法人ささゆり会定款変更について	R1.6.27	御立 2F 会議室
第2回理事会	1. 理事長及び副理事長(業務執行理事)の選任について	R1.6.27	御立 2F 会議室
第3回理事会	1. (仮称)小規模多機能ホームサンライフ岡田新築工事入札に関する公告方法、公告事項の決定について	R1.7.9	御立 2F 会議室
第4回理事会	1. 木村理事死去に伴う新たな理事の推薦の件 2. 第1回臨時評議委員会の開催について 3. 評議員1名退任の為、新たな評議委員の推薦の件	R1.8.2	御立 2F 会議室

	4. 評議員選任・解任委員会の開催について		
第5回理事会	1. (仮称)小規模多機能ホームサンライフ岡田新築工事の入札について	R1.8.9	御立 2F 会議室
第1回臨時評議員会	1. 理事の欠員による、新理事の選任の件	R1.8.9	御立 2F 会議室
評議委員選任・解任委員会	1. 評議委員選任・解任委員会	R1.8.9	
第6回理事会	1. 監査結果報告と改善措置状況 2. 事業の追加 登録支援機関の設置 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について 4. 職務執行状況の報告について 5. 評議員会の開催について	R1.10.4	御立 2F 会議室
第2回臨時評議員会	1. 定款変更 事業の追加について 2. 登録支援機関の事業について 3. 職務執行状況の報告	R1.10.15	御立 2F 会議室
第7回理事会	1. 外国人奨学金貸付規定の制定について	R1.11.22	御立 2F 会議室
第2回監事監査報告	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題	R1.12.6	御立 2F 会議室
第8回理事会	1. 魚崎高齢者介護支援センター通所介護入浴装置(チェアインバス)の入札 2. 令和元年度上半期監事監査報告について 3. 令和元年度上半期事業報告について 4. 令和元年度上半期会計決算報告について 5. 令和元年度第1次補正予算(案)承認について 6. 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について 7. 特定技能登録支援機関の初年度における事業計画 8. 第3回臨時評議委員会の開催について	R1.12.13	御立 2F 会議室

第9回理事会	1. 社会福祉法人パートタイマー給与規程について	R1. 12. 20	魚崎
第3回臨時評議員会	1. 令和元年度上半期事業報告について 2. 令和元年度上半期会計決算報告について 3. 令和元年度第一次補正承認について	R1. 12. 20	魚崎
第10回理事会	1. サンライフ岡田(仮称)美品予定価格、業者選定 2. サンライフ岡田(仮称)備品入札 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規定の制定、改定について 4. 姫路市の社会福祉施設等実地指導監査の結果について 5. 管理者の変更について 6. インドネシア留学生の奨学金の件について	R2. 2. 14	御立 2 F 会議室
第11回理事会	1. 令和2年度本部・施設事業計画案承認について 2. 令和元年補正予算案承認について 3. 平成2年度法人・拠点区分会計予算案承認について 4. 定款変更認可申請の取り下げについて	R2. 3. 17	御立 2 F 会議室
第4回臨時評議員会	1. 令和2年年度本部・施設事業計画案承認について 2. 令和元年補正予算案承認について 3. 令和2年度会計予算案承認について	R2. 3. 19	書面

イ. 介護保険推進委員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第1回介護保険推進委員会	令和元年度(平成31年度)上半期事業推進状況報告と課題検討	H30. 11. 21	ケアハウス魚崎 4 F 会議室
第2回介護保険推進委員会	令和2年度事業計画の策定案について	コロナにより中止	

以上

令和元年度 特別養護老人ホームサンライフ御立

事業報告書

令和元年度のささゆり会経営スローガンである「助け合って難局を乗り切る」を基に、ご利用者一人ひとりに合った個別サービスが実施できるよう他職種連携を図り、ご利用者の生活環境の整備、職員の職場環境の整備に努めました。退職や異動に伴い、ささゆり会での経験年数の短いスタッフが多い中、各班で情報共有を行い、個別サービスが提供に向けて試行錯誤しながら業務に当たり、業務改善に努めました。ご利用者、ご家族との信頼関係構築に繋がっていると考えます。

感染症については、昨年度までの複数のインフルエンザ罹患患者発生の経験から、本年度は、ショートステイでの流行が懸念されたため、早期に面会制限措置を講じ、蔓延予防に繋がりました。年末年始の長期休暇期間が含まれたため、遠方からの来園に関しては、ご利用者、ご家族双方の体調確認の元、別室を準備しご面会いただく措置を取りました。また、他の感染症として、疥癬の発生が見られ、なかなか完全終息には至っていませんが、初期からの経過を踏まえ、再発防止に取り組みながら、少しでも掻痒感など皮膚症状に異常が現れた場合には、医務へ報告し、医務から嘱託医や皮膚科へと連携を図り、早期終息に向け努めています。

入院については、誤嚥性肺炎によるものが大半を占めており、医務と連携し早期受診には努めています。加齢に伴う身体的機能の低下、介護度の上昇は否めないものの、姿勢の調整や介助方法の見直しによって防ぐことが出来るケースも少なくないと考えています。今後も可能な限り防ぐことが出来るケースを増やせる様、他職種の連携を図り、介護の質の向上を目指したいと考えます。

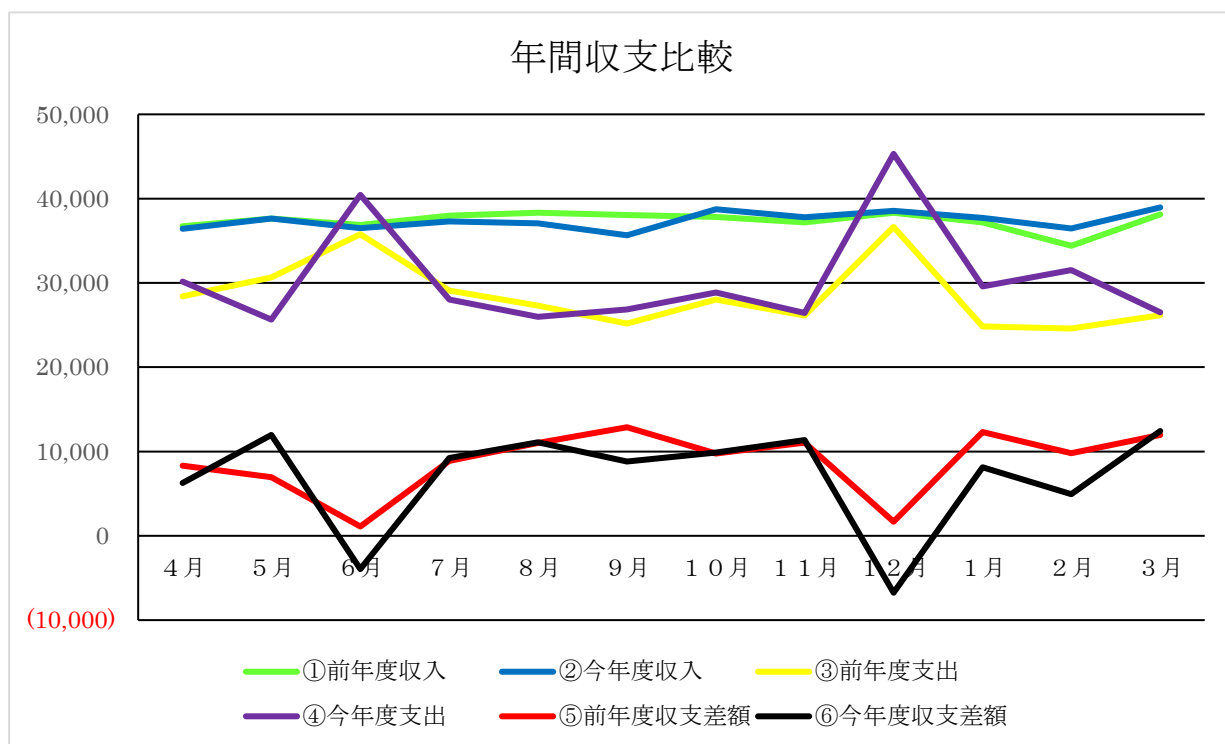
介護事故については、合計件数は 223 件から 176 件と減少しているものの、A ランクの事故は 2 件から 5 件と増加しており、内出血や表皮剥離は、依然多くの割合を占めています。各班でも班会議で事故防止策を講じ、特に体調変化、環境変化があった場合には、見守り強化に努めました。今後も事故防止に向け危険予測を強化し、大きな事故に繋がらないよう意識改革に努めます。

1. 年間収支比較

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	36,727	37,624	36,877	37,992	38,328	38,062	225,610	—
②今年度収入	36,439	37,631	36,483	37,278	37,062	35,651	220,544	97.8%
③前年度支出	28,405	30,663	35,773	29,097	27,309	25,181	176,428	—
④今年度支出	30,172	25,650	40,447	28,029	25,974	26,856	177,128	100.4%
⑤前年度収支差額	8,322	6,961	1,104	8,895	11,019	12,881	49,182	—
⑥今年度収支差額	6,267	11,981	-3,964	9,249	11,088	8,795	43,416	88.3%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	37,816	37,192	38,323	37,174	34,404	38,117	448,636	—
②今年度収入	38,753	37,777	38,560	37,705	36,469	38,957	448,765	100.0%
③前年度支出	28,044	26,126	36,641	24,857	24,591	26,157	342,844	—
④今年度支出	28,870	26,434	45,310	29,584	31,528	26,526	365,380	106.6%
⑤前年度収支差額	9,772	11,066	1,682	12,317	9,813	11,960	105,792	—
⑥今年度収支差額	9,883	11,343	-6,750	8,121	4,941	12,431	83,385	78.8%



2. 利用者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
30年度実績	2,973	3,043	2,927	3,068	3,100	2,995	18,106
元年度実績	2,936	3,038	2,927	2,998	2,983	2,872	17,754
前年度との差異	-37	-5	0	-70	-117	-123	-352

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	3,049	2,990	3,068	3,068	2,769	3,069	36,119
元年度実績	3,056	2,987	3,038	2,995	2,857	3,052	35,739
前年度との差異	7	-3	-30	-73	88	-17	-380

3. 入院日数 (単位:日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
30年度実績	51	65	71	27	0	6	220
元年度実績	99	99	107	124	101	134	664
前年度との差異	48	34	36	97	101	128	444
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	48	20	54	143	34	37	556
元年度実績	38	0	64	99	26	20	911
前年度との差異	-10	-20	10	-44	-8	-17	355

4. 稼働率 (単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
30年度実績	99.1	98.2	97.6	99.0	100.0	99.8	98.9
元年度実績	97.9	98.0	97.6	96.7	96.2	95.7	97.0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	98.4	99.7	96.6	96.5	98.9	99.0	98.5
元年度実績	98.6	99.6	98.0	96.6	98.5	98.5	97.7

5. 特養空床数 (単位:床)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
平成30年度	25	46	62	29	0	1	163
令和元年度	65	53	62	91	86	86	443
前年度との差異	40	7	0	62	86	85	280

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	43	9	25	125	28	17	410
令和元年度	39	3	55	91	45	52	728
前年度との差異	-4	-6	30	-34	17	35	318

6. 事故分類別発生数 (単位:件)

	A	B	C	合計
合計	5	7	167	176

A:入院加療を要する事故 B:受診・通院を要する事故 C:受診・通院を要さない事故

A ランク内容:左大腿骨骨折…4件、腰椎圧迫骨折

7. 退所者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	1	1	1	1	1	1	6
病院	1	1	2	2	3	2	11
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	2	3	3	4	3	17
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	2	2	2	1	1	0	14
病院	2	0	1	1	1	1	17
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	2	3	2	2	1	31

令和元年度 サンライフ御立ショートステイ

事業報告書

本年度ささゆり会経営スローガンである「助け合って難局を乗り越える」をもとに、ショートステイとして「利用者様が楽しく過ごせる場所となることで、家族様にも安心して利用して頂きたい」という目標をもって、EPA職員含め全員が持っているアイデアを出し合い、介護の基本を大切に、「選ばれる事業所」をめざして取り組んだ。

1.現場での取り組み

I.レクリエーション

- ・毎月のおやつレク、イベントについては、フロア会議で企画アイデアを出し、EPA職員も含め全員が一回以上企画担当をし利用者様から好評を得た。
- ・出勤人数や入退所の多い日によって毎日のレクリエーションがおろそかになることがあった。
- ・パズルや塗り絵などを個別に提供し、「暇な時間」を出来るだけ少なくするよう意識した。
- ・屋上での園芸、農園も大変好評であったため今後も継続していきたい。

II. 介護の基本

- ・軟膏塗布、その他細かい依頼について、出来ていない事が目立った。サービスとして受けていることは必ず行っていくようホワイトボードを使用した確認体制を作ったが、あまり活かしておらず新たな方法を模索している。

III.家族様とのコミュニケーションを大切にする。

- ・面会時はどの職員も挨拶をし、日中の様子や必要な物を伝えるなどコミュニケーションをとることが出来ていた。2月に面会を制限してからは、手紙や写真で状況報告をおこなっている。

IV. 認知症対応の強化

- ・「他者が聞いて不快に感じる言葉や態度はしない」を基準にしているが、名前だけを呼んで行動を制止しようとしたり、慣れ慣れしすぎる言動がみられたり、まだまだ改善しなければならない点がある。

2.職員の介護力、資質の向上と人材育成

I.内部研修

特養とともに内部研修を実施する予定であったが人員の入れ替わりが多く実施できなかった。

II.一人一人の責任意識の向上

委員会活動やQC活動において、各自しっかりと取り組むことが出来ていた。

III.資格取得について

- ・1名が介護福祉士試験に合格することができた。

IV.EPA 候補生育成について

- ・居室担当として、分からないことがあればリーダーや他職員に声をかけながらこなせていた。送迎確認の電話も行なうようにしているが、掛かってきた外線に対してはなかなか積極的な対応が出来ていなかった。遅出帯については2人とも一人の業務もおこなえるようになったが、夜勤については、ショートの日本人職員と組む日に限定している。日替わりで多くの方の利用があるため、今後もこの体制で行く予定である。
- ・介護内容や対応方法が変わった時に、会議録や連絡帳などで発信をしているが、理解できていないままになっていることがあり、どこまで理解が出来ているか確認する必要がある。新規利用の方についても、まず出来るだけ口頭で伝え、理解の確認が必要である。

V. 職員の専門知識

ケアマネ対応については、マニュアルを作成し、誰もが対応しやすいように準備することができたが、ショートの仕組みについての勉強の機会は作ることが出来なかった。

3.有休取得強化

- I.リフレッシュ休暇を含む年間8日以上の有休取得ができた。

4. 事故防止の取り組み

- ・今年度の事故件数は82件で、昨年度より1件減少しただけとなった。しかし、誤嚥による窒息での死亡事故、夜間居室での転倒による骨折とAランクの事故が2件発生した。
- I.ショート独自のヒヤリハットの記入をし月一回見直し検討を行った。
- II.フロアでの見守りを重視し、必ず誰か一人見守りの職員がいるように声をかけ合うように努めたが、黙って離れた為にフロアが無人になってしまうことがあった。
- III.ロング利用の方の事故が続く傾向にある。対応策など月一回のフロア会議で話し合うなどしているが、センサー程度の対応策しかない場合や、ふいの動作で転倒するなど対策が困難なことが多く、同じ方の事故が続く傾向が見られている。

5.感染症対策について

- ・10月に長期利用者の方1名に疥癬が発生、隔離対応をおこなった。12月には短期利用の方を発端にインフルエンザが発生、職員1名、ロング利用者6名に感染が拡がり、特養フロアも含め面会制限を実施することになった。短期利用予定の方、ケアマネには電話連絡で利用確認を行ない、キャンセルが相次ぐ事となってしまった。特養との往来は早めの時期から止めており、感染が拡がることはなかったが、大きな痛手となった。
- 入所3日目の夕方に発熱し退所してから感染が判明したため、近くの席にいた方などを隔離としたが次々に症状が出て感染が判明する結果となってしまった。

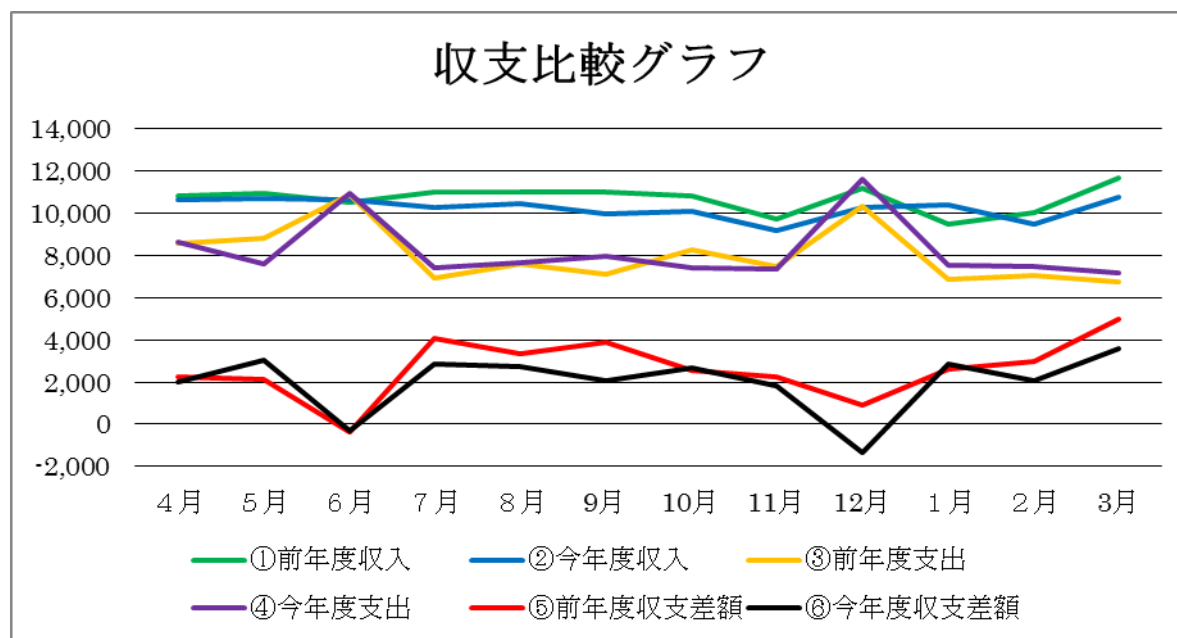
6. 収入の確保について

・平均稼働率は100%で昨年度から0.5%減少しており収入も約530万円の減収となってしまった。インフルエンザ流行時の利用減少もあるが、全体としてロング利用の方が特養入所した後、次期ロングの方の入所まで間が空いてしまうことが1番の要因と思われる。ケアマネ経由の相談や入所申込みからの面談など特養の相談員、主任とも協力して次期候補を確保し、スムーズな入所に繋げていくことが必須である。

年間収支比較

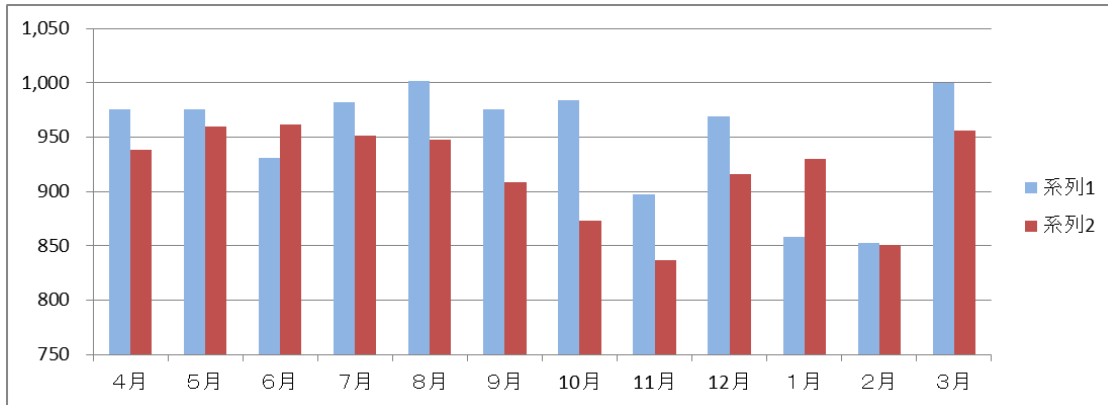
(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	10,792	10,947	10,531	10,964	10,972	10,977	65,183	-
②今年度収入	10,638	10,667	10,645	10,282	10,431	9,962	62,625	96
③前年度支出	8,548	8,794	10,893	6,921	7,606	7,090	49,852	-
④今年度支出	8,633	7,613	10,958	7,425	7,669	7,925	50,223	100.7
⑤前年度収支差額	2,243	2,153	△ 362	4,043	3,366	3,886	15,329	-
⑥今年度収支差額	2,005	3,053	△ 312	2,856	2,761	2,037	12,400	80.9
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	10,801	9,716	11,182	9,496	10,003	11,672	128,053	-
②今年度収入	10,068	9,161	10,279	10,388	9,482	10,729	122,732	95.8
③前年度支出	8,238	7,442	10,295	6,889	7,016	6,720	96,452	-
④今年度支出	7,379	7,344	11,601	7,531	7,449	7,146	98,673	102.3
⑤前年度収支差額	2,563	2,274	886	2,607	2,987	4,952	31,598	-
⑥今年度収支差額	2,689	1,816	△ 1,321	2,856	2,033	3,583	24,056	76.1



●年度別利用人数比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H30年度実績	976	976	931	982	1,002	976	5,843
R1年度実績	938	960	962	951	948	909	5,668
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度実績	984	897	969	858	853	1,000	11,404
R1年度実績	873	837	916	930	851	956	11,031



●年度別事故発生件数比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H30年度	7	5	5	10	9	9	45
R1年度	14	7	14	4	4	7	50
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30年度	5	5	5	5	8	10	83
R1年度	1	1	5	7	8	10	82

●令和元年度分類別事故発生件数

	A	B	C	合計
4月			14	14
5月			7	7
6月			14	14
7月			4	4
8月	1		3	4
9月			7	7
10月			1	1
11月			1	1
12月			5	5
1月			7	7
2月			8	8
3月	1		9	10
計	2		80	82

【A】入院、加療を伴う事故

- ・ミキサー食を摂取していて誤嚥、窒息し救急搬送。搬送先の病院で死亡
- ・夜間居室で起きられた際転倒、胸椎圧迫骨折で入院

【C】その他 歩行時の転倒、立ち上がり時の転倒などが多数を占める

令和元年度 特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

事業報告書

医務室では、「助け合って難局を乗り切る」という今年度法人の経営スローガンを全員で共有し、日々業務に励んでまいりました。

今年度を振り返るにあたり、事業計画書で列挙した以下の目標に沿って評価・考察を行い、来年度以降へ繋げていきたいと考えています。

1. 他職種との協働と連携

介護現場の人手不足を鑑み、日々の食事・入浴介助を中心に出来る限り介護職と協働してきました。2月より技能実習生も加わったことで、介護技術のスキルアップを図るべく介入するバランスを考え、今後も他職種との協働と連携に関しては継続していきたいと考えています。

2. 職員・利用者様の健康増進

I 利用者様の健康診断を年1回実施

利用者様は8月29日と9月5日に嘱託医の協力のもと健康診断を実施しました。毎年実施することによって潜在性疾患を継続的に検索し、異常の早期発見・早期対応に繋げることができています。

これまで皮膚科疾患については皮膚科医による往診にて対応していましたが、今年度途中からは受診対応に変更となりました。また、後述する疥癬感染の影響もありますが、今年度受診件数は年間286件と昨年の209件より大幅に増加しました。入院件数を抑えるために可能な限り嘱託医や近医受診で対応することを目指した結果でもありますが、今年度年間入院件数は35件(昨年度36件)、年間ベッド稼働率は97.65%(昨年度98.55%)でした。

今年度入院数の特徴としては、利用者様8名で入院件数18件と、同一利用者様が繰り返し入院となるケースが多く見られました。これは年間入院件数の半数を超えており、多くの原因は誤嚥性肺炎を含む肺炎でした。誤嚥性肺炎は、年齢や介護度が進むにあたって嚥下機能の低下が起こり、また入院によっても身体機能も大きく低下していくことから、再発や入院が長期化していく可能性が高くなります。そのため、改めて食事形態や姿勢、介助方法について担当者会議等を通して多職種と話し合い、可能な限り予防に繋げていけるよう努めていきました。

また、今年度では看取り対応のため施設で永眠された利用者様が14名ありました。家族様から多数感謝の言葉をいただけていることから、看取り対応の有意性を再認識すると共に、今後も可能な限り施設での看取り対応を勧めていきたいと考えています。

II 職員の健康診断を年2回（深夜業に従事する者を含む）

職員については11月28日に実施しました。腰痛検査の結果も含め要精密検査や要受診の所見がある職員に対しては、個別に書類を配布し受診を促すことで安全な就労への啓発を行いました。（有

所見者：93名中40名)

3. 資格取得

介護職員からの質問や周知すべき項目については、海外職員も増加しているため可能な限り紙資料や写真を用い、視覚的にも理解しやすいよう伝達方法を工夫しました。

マニュアルを作成、または変更していく際にもフリガナを付け加えるなど、EPA や技能実習生が理解できる媒体となるよう配慮しました。

4. 感染予防

I インフルエンザ

今年度では、12月にショートステイ利用者7名、ショートステイ職員1名のインフルエンザ感染がありました。発覚当初よりインフルエンザマニュアルに添った感染予防策を朝礼や委員会にて呼びかけ、居室隔離を実施しました。多床室の場合では同室者への感染が確認されましたが、班や部署を超えての感染はなく、その後職員への感染もありませんでした。面会制限による効果も大きかったと考えられますが、これらの結果から昨年度に比べて初動対応やマニュアルの定着が進んでいるように感じています。

また、新型コロナウイルスへの危機感からも職員の手洗い・うがい・消毒習慣が定着してきているように感じます。

II その他感染症

今年度は、疥癬の感染が特養19名、ショート2名、職員4名確認されました。発端はロングショート利用者の施設外からの持ち込み、以降は利用者や職員を介して規模が拡大していったものと推測されます。感染者増加の原因としては、嘱託医の回診や皮膚科受診をしていたにも関わらず疥癬発覚までに時間を要し、その間に予防策や初期対応を取ることができなかつたためではないかと考察しています。

これらの経験から、現在では少しでも疥癬を疑う所見がある場合は早めに専門医へ受診し、疑わしい場合でも駆虫剤を念入りに処方していただいています。また嘱託医へも駆虫剤の処方を依頼し可能な範囲で予防薬投与を実施しています。職員に対しては、感染予防と早期発見の観点から各班に疥癬の資料を配布。また衣類や寝具からの間接感染も考慮して3・4階それぞれフロア全体にバルサンを焚くなどの対応を状況に応じて行いました。

しかし、これらの対応策を実施しても年間を通して完全に終息していないのが現状です。来年度では更に詳しく感染経路を推定し、より効果的なアプローチが出来るよう医務室全員で取り組んでいきます。

令和元年度 特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

事業報告書

前年度の計画で掲げていた人材の育成・定着は改善された。だが一部の時間帯・業務で不足している状態が続いている。また、欠員により1人当たりの仕事の負荷が増え体調を崩す方も見られた。そのため作業効率の改良・作業工程の予定を事前に職員で確認しあった。

在籍している職員の定着・育成、さらなる人員の確保に努めつつ業務マニュアルの徹底に取り組んだ。

1 人材の定着・育成

厨房の職員の入れ替わりはほぼ見られなかったが、12月より1名産休に入られたことにより業務が一部職員に負担が偏っている。そのため時間外労働が以前に比べ増加した。時間外労働の削減のために作業効率を見直し人員不足のカバーに努めた。また引き継ぎ時間の短縮、時間外労働の削減につなげるために、それぞれの勤務時間の業務マニュアルの作成・周知を行い欠員が出ても時間通り食事を提供することができた。

2 食事サービスの充実

前回の課題だった調理技術・個人差は安定してきて、少なくなってきた。また、人材の定着により利用者様からの要望に沿ったメニューを提供できる機会が増えた。だが、献立の意見反映について不十分な点も見られた。そのため前年9月よりケアハウス・事務職員による検食表をスタートした。結果味の感想を個々に把握できるようになった。

3 衛生管理

前年度の課題として異物混入の防止を掲げていた。異物混入について報告は以前より減少した。しかし、厨房内で害虫が見られることが多くなったため早急な害虫駆除・厨房工事を行った。その結果害虫を見るのが少なくなった。また、異物混入防止のために、①備品などの位置変更、②盛り付け時に異物の混入がないか確認を行った。また衛生管理マニュアルに沿って、現在の衛生状態の見直し、周知を職員に徹底させた。異物混入の報告が0件となるように、より一層衛生管理を徹底していきたい。

4 栄養ケアマネジメント

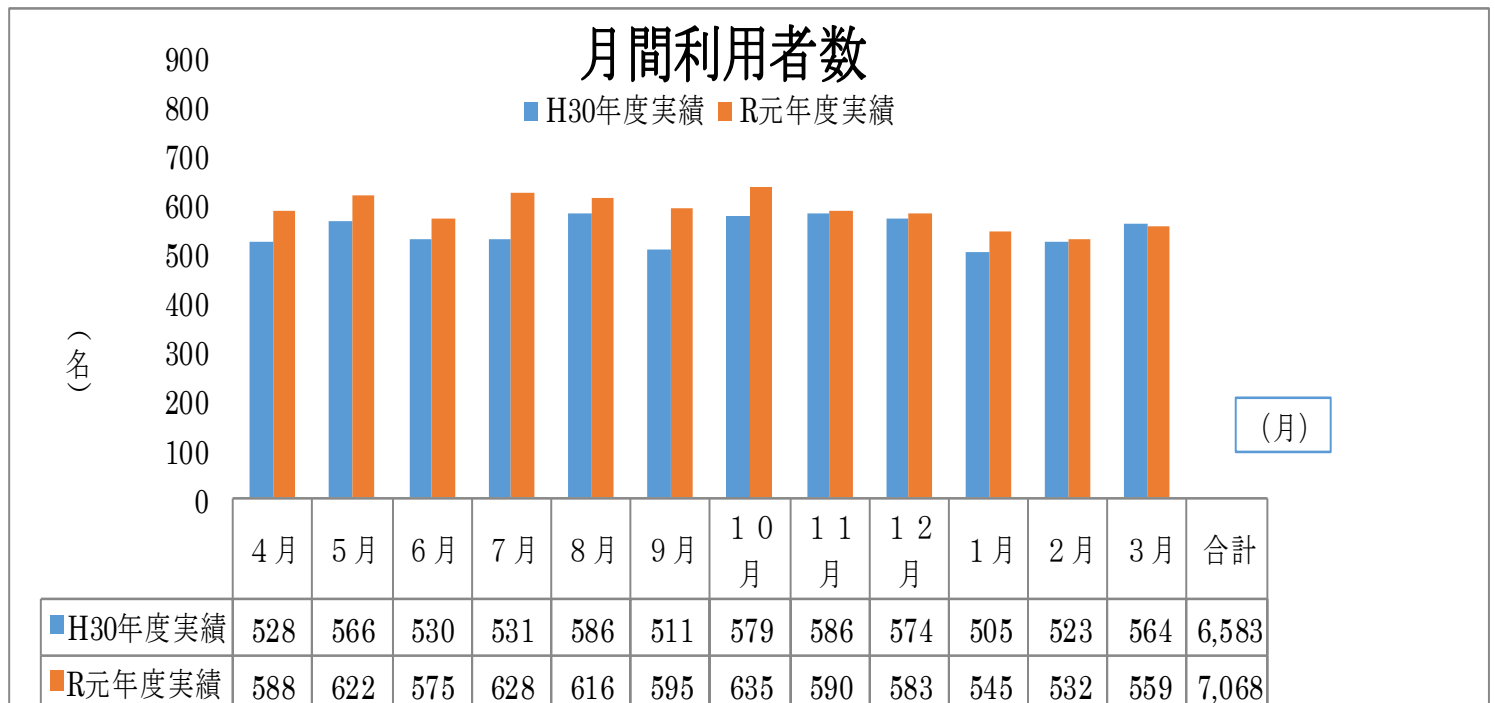
前半は担当の職員の定着により栄養ケアプランの作成に滞りなく力を注ぐことができた。また各階の担当者会議において、利用者様の問題点の明確化により栄養ケアプラン作成が行いやすくなった。しかし12月からの人員不足により個々の栄養状態と食事の様子を見る機会が以前に比べ減少した。そのため利用者様の栄養状態の変化の連絡をとり、利用者様の状態の把握に努めた。

令和元年度 デイサービスセンターサンライフ御立

事業報告書

令和元年度は、利用者様が楽しく安全に利用できるようサービス内容の見直しを行うとともに常勤職員の異動により新たな体制の構築を行い介護職員、看護師の負担の軽減に取り組んだ。サービス内容に関しては希望が多かった外出レクリエーションを取り入れながら個別レクリエーションの充実を図り、一人ひとりに合わせたサービスを提供し楽しみを持っていただけるよう支援した。介護職員の現場での負担が増えている事に関しては相談員、介護リーダーの役割をしっかりと分けることで現場での人手を増やし職員の負担軽減を図った。しかし、新たなサービスの構築ができずマンネリ化していることもあり次年度への課題となっている。収入に関しては全体を通して収入増となったが、下半期は入院やロングショート入所が続き新規利用者獲得ができなかった。

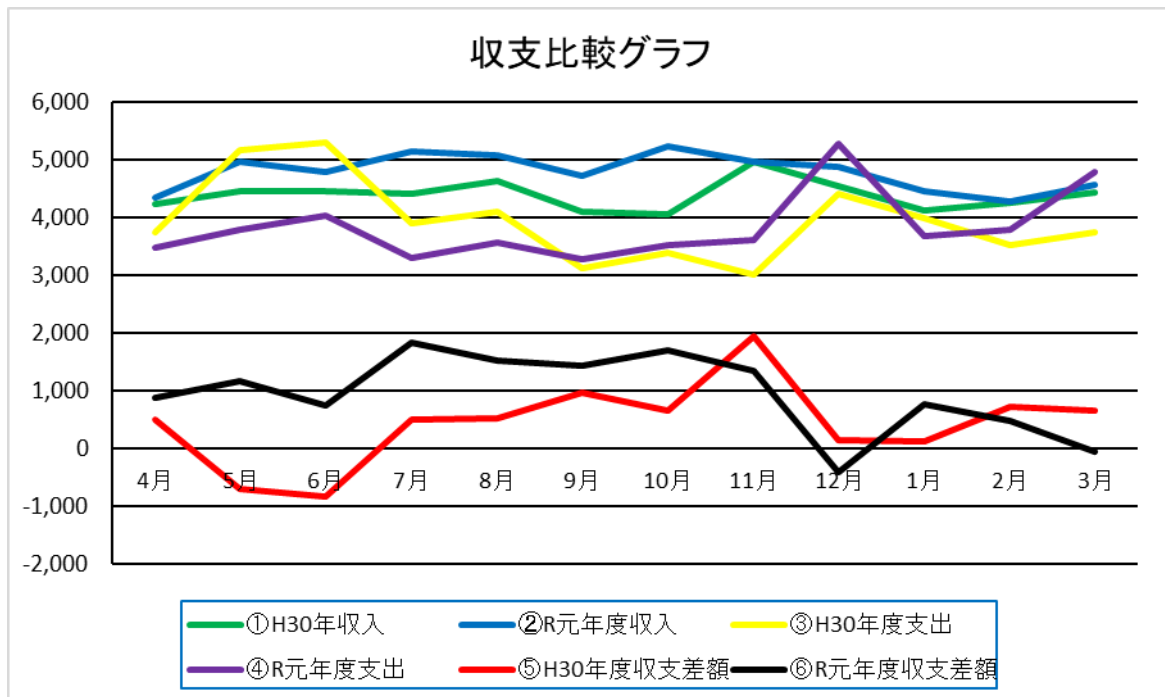
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①H30 年度収入	4,241	4,468	4,466	4,417	4,639	4,102	26,333	—
②R 元年度収入	4,359	4,985	4,790	5,143	5,091	4,732	29,100	110.5
③H30 年度支出	3,741	5,166	5,302	3,906	4,099	3,127	25,341	—
④R 元年度支出	3,482	3,800	4,046	3,305	3,569	3,291	21,493	84.8
⑤H30 年度収支差額	500	-698	-835	511	540	975	993	—
⑥R 元年度収支差額	876	1,184	743	1,838	1,522	1,441	7,604	765.8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①H30 年度収入	4,073	4,985	4,555	4,138	4,259	4,430	52,773	—
②R 元年度収入	5,235	4,978	4,894	4,474	4,295	4,566	57,542	109.0
③H30 年度支出	3,403	3,027	4,413	4,005	3,531	3,755	47,475	—
④R 元年度支出	3,530	3,619	5,287	3,695	3,804	4,792	46,220	97.4
⑤H30 年度収支差額	669	1,958	141	133	728	674	5,296	—
⑥R 元年度収支差額	1,705	1,358	-393	778	491	-47	11,496	217



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	90.2 (1)	90.3 (1)	90.3 (1)	90.4 (1)	90.5 (1)	90.6 (1)	90.7 (1)	90.8 (1)	90.8 (1)	90.9 (1)	91.0 (1)	91.1 (1)	90.6 (12)
要支援1	87.8 (3)	87.8 (3)	87.0 (2)	87.1 (1)	87.2 (1)	87.3 (1)	87.4 (1)	87.4 (1)	87.5 (1)	87.6 (1)	87.7 (2)	90.8 (2)	87.9 (19)
要支援2	84.2 (8)	84.4 (8)	85.1 (10)	84.8 (10)	86.9 (11)	86.9 (13)	87.1 (12)	87.2 (12)	87.3 (12)	87.4 (12)	88.4 (12)	88.5 (12)	86.7 (132)
要介護1	85.4 (26)	85.5 (26)	85.8 (26)	85.9 (26)	85.9 (25)	85.7 (22)	85.0 (23)	85.0 (22)	85.1 (21)	85.0 (22)	84.6 (23)	84.6 (23)	85.3 (285)
要介護2	86.6 (15)	86.7 (15)	86.7 (15)	86.7 (14)	86.8 (14)	85.8 (13)	86.5 (14)	87.2 (14)	86.6 (14)	86.2 (13)	86.3 (13)	86.3 (13)	86.5 (167)
要介護3	82.5 (9)	82.7 (9)	82.8 (10)	84.1 (10)	84.1 (10)	86.0 (10)	86.1 (10)	85.1 (9)	82.2 (10)	84.6 (9)	87.4 (13)	83.5 (13)	84.3 (122)
要介護4	88.4 (10)	88.5 (10)	88.6 (10)	90.5 (12)	87.1 (14)	87.4 (13)	89.8 (13)	91.0 (13)	91.0 (13)	89.2 (11)	90.1 (9)	89.2 (8)	89.2 (136)
要介護5	88.3 (4)	88.3 (4)	89.8 (3)	89.9 (3)	92.2 (2)	92.3 (2)	92.4 (2)	92.5 (2)	92.5 (2)	92.6 (3)	90.4 (4)	87.2 (4)	90.3 (35)
合計	85.8 (76)	86.0 (76)	86.1 (77)	86.4 (77)	86.5 (78)	86.6 (75)	86.9 (76)	87.1 (74)	86.8 (74)	86.4 (72)	86.8 (77)	86.1 (76)	86.5 (908)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度 (R2年3月現在)

職員 17 名 (正職員 3 名 非常勤看護師 2 名 非常勤介護職員 12 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員/日	職員一人 対	職員/ 日	職員一人対
4月	26	588	1662.5	22.3	10	2.2	9	2.5
5月	27	622	1543	23	9.2	2.5	8.2	2.8
6月	25	575	1448.5	23	8.6	2.7	7.6	3
7月	27	628	1339.5	23.3	8	2.9	7	3.3
8月	26	616	1431	23.7	8.5	2.8	7.5	3.2
9月	25	595	1422.5	23.8	8.5	2.8	7.5	3.2
10月	27	635	1635	23.5	9.7	2.4	8.7	2.7
11月	26	590	1591.5	22.7	9.5	2.4	8.5	2.7
12月	26	583	1501.5	22.5	8.9	2.5	7.9	2.8
1月	25	545	1505	21.8	9	2.4	8	2.7
2月	25	532	1515.5	21.3	9	2.4	8	2.7
3月	26	559	1567.5	21.5	9.3	2.3	8.3	2.6

令和元年度 ケアハウス サンライフ御立

事業報告書

入居者が、日々の生活において心穏やかに安心して過ごせる様サポート体制の充実を重点項目に掲げた。職員一人ひとりが自覚をもって取り組めたと思う。

各種行事への参加を促し、相談サービスの充実や各部署との連携を図った。

行事やクラブ活動等を計画し、メリハリのある楽しい日常生活が送れる様サポートした。日頃の生活状態の変化に気付き、身元保証人との連携を密にして対応した。

2月に新型コロナウイルス感染拡大の予防対策で、身元保証人等の面会制限が開始された。

1. 健康面や精神面の相談サービスの充実

かかりつけ医に定期受診をして健康管理がなされていた。月2回健康チェック、9月には健康診断を実施し、体調の変化に留意した。日頃から入居者の身体面や精神面の変化や悩みをくみ取り、安心した生活ができる様サポートした。

新型コロナウイルス感染症の予防対策として不要不急の外出制限、外出時のマスクの着用。又、帰園時の手洗い、うがいの励行を促した。

①介護認定状況 (R2. 3. 31 現在)

単位：人

	自立	支援1	支援2	介護1	介護2	合計
5階	4	3	3	5	1	16
6階	6	2	5	4	1	18
合計	10	5	8	9	2	34

②サービス利用状況 (R2. 3. 31 現在)

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	デイサービス	訪問リハビリ	福祉用具貸与
5階	8	2	8	1	5
6階	11	3	6	2	9
合計	19	5	14	3	14

③入居者年齢・性別状況 (R2. 3. 31 現在)

単位：人

	～69才	～74才	～79才	～89才	～99才	合計	平均年齢
男性	2	0	1	4	1	8	78.9才
女性	2	2	1	12	9	26	85.3才
合計	4	2	2	16	10	35	83.8才

最高年齢：95才(女性)

最低年齢：62才(男性)

2. 各種行事・クラブ活動への参加支援

現行の行事やクラブ活動を充実させ継続する様努めた。特に、午前9:15から実施しているラジオ体操、及びいきいき百歳体操についてはフレイル状態に陥らない様参加を促した。

四季の誕生会、季節ごとの外食やバスハイク等の行事を行った。

学習療法は13年目になるが、内容を見直し自由にプリントを持ち帰れるようにし、入居者の意欲を高める支援をした。

フラワーアレンジメント教室は、生花に触れることの癒し効果を期待できるので継続実施した。

しかし、各種行事、教室についても徐々に新型コロナウイルスの影響が出始めた。入居者各々で、気軽に体を動かせる情報等は紙面にて配布した。

3. 空室ゼロの対策

情報誌「リビング姫路」に4月、8月、9月に入居者募集を掲載した。入居に関する問合せ及び見学は順調だったが、入居に至らないケースもあった。

如何に退去からその後の入居を短期間でやり遂げるかがポイントだったが、やはり退去者の荷物の搬出、リフォームに時間を要した。

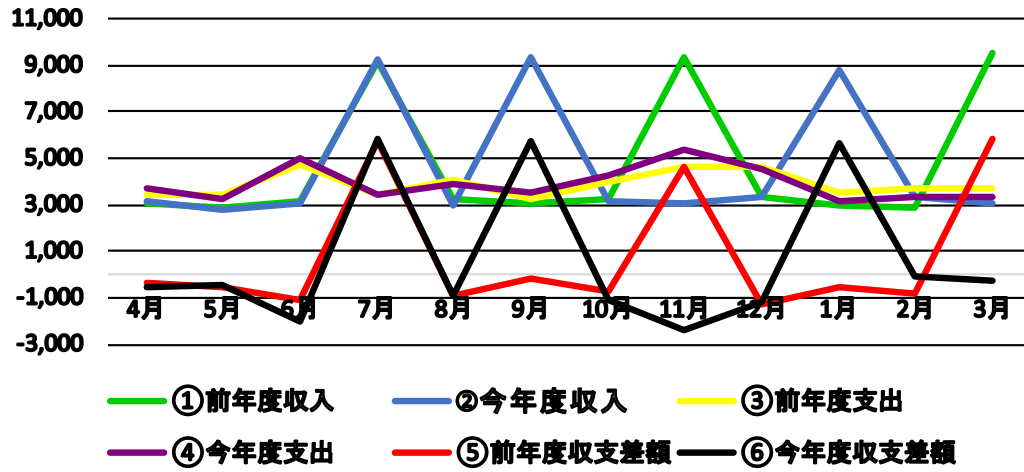
年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,071	2,872	3,196	9,133	3,209	3,036	24,517	—
②今年度収入	3,147	2,764	3,049	9,255	2,970	9,333	30,518	124.5
③前年度支出	3,414	3,426	4,705	3,406	4,130	3,249	22,330	—
④今年度支出	3,725	3,237	5,023	3,404	3,891	3,568	22,848	102.3
⑤前年度収支差額	-343	-554	-1,509	5,727	-921	-213	2,187	—
⑥今年度収支差額	-578	-473	-1,974	5,851	-921	5,765	7,670	350.7
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	3,259	9,333	3,359	2,957	2,867	9,569	55,861	—
②今年度収入	3,201	3,058	3,315	8,816	3,302	3,085	55,295	99.0
③前年度支出	3,954	4,683	4,668	3,497	3,702	3,702	46,536	—
④今年度支出	4,306	5,401	4,525	3,157	3,342	3,342	46,921	100.8
⑤前年度収支差額	-695	4,650	-1,309	-540	-835	5,867	9,325	—
⑥今年度収支差額	-1,105	-2,343	-1,210	5,659	-40	-257	8,373	89.8

(千円)

収支比較グラフ



令和元年度 ユニット型老人ホームサンライフひろみね 事業報告書

経営スローガンである「助け合って難局を乗り越える」をもとに、職員の新規採用やEPAの募集を行う事で人材確保に努めた。外部研修への参加、QC活動や施設内研修を実施することで人材育成を図り、家族や職員が連携しターミナルケアを含めた個別ケアを協働で実施した。新型コロナウイルス感染予防の為 3 月から面会やボランティアの受け入れ制限を行い掃除や消毒、マスクの着用等対策を実施している。

1. 生活の質

和喫茶や洋喫茶等を企画しほかのユニットとの交流の機会を持つことが出来た。買い物外出や散歩、ボランティアの受け入れ、運営推進会議を2カ月に1度実施することで地域の方との交流を持つことが出来た。「KT バランスチャートを用いた常食率向上」というQC活動で実施した施設内外での余暇活動の機会を増加、マンツーマンでの食事介助、食事環境やポジショニングの調整、スベラカーゼミートを使用した柔らかか食の提供を行う事で4月に 62%であった常食化率が 86%となり質の向上につなげることが出来た。

毎月1度実施しているフロア会議・リーダー会議を継続して実施することで情報共有や施設職員の意識統一が行え、質の向上にもつながっている。

2. 介護負担の軽減

介護業務においてはフレックスボードの導入や下用タオルやおしぼりをディスポに変更し僅かながら介護業務負担を軽減できた。

EPAでの人材確保は適わなかったが、人材紹介業者や職員からの紹介で人材確保が出来た。職員の健康増進については生活支援休暇の活用やリフレッシュ休暇を計画的に使用できるように配慮し順調に取得できている。人間ドッグ助成対象者は助成を積極的に活用するように勧め実施することが出来た。

3. 施設内研修の実施

施設内研修計画を作成し、緊急時の対応・身体拘束廃止・感染症対策・虐待防止・ポジショニング・介護技術などの施設内研修を実施した。内容は専門職による技術指導と外部研修へ参加した職員が研修内容を伝達する形で実施した。

4. 資格取得について

資格取得においては定期的を書いて覚えるテキストを配布し介護福祉士の取得を支援することで受験資格者1名が合格することが出来た。喀痰吸引等2号研修には今年度3名が取得できた。

5. 労働災害

9月に職員が通勤中に自転車でバス停のベンチに足をぶつけ骨折する通勤労働災害が1件、2月には介助中に腕を痛める等の業務労働災害が2件発生してしまった。通勤だけではなく業務時における介助方法の見直しや指導を行った。また、全体会議や運営会議で情報共有を行い同法人施設への情報発信も行えた。

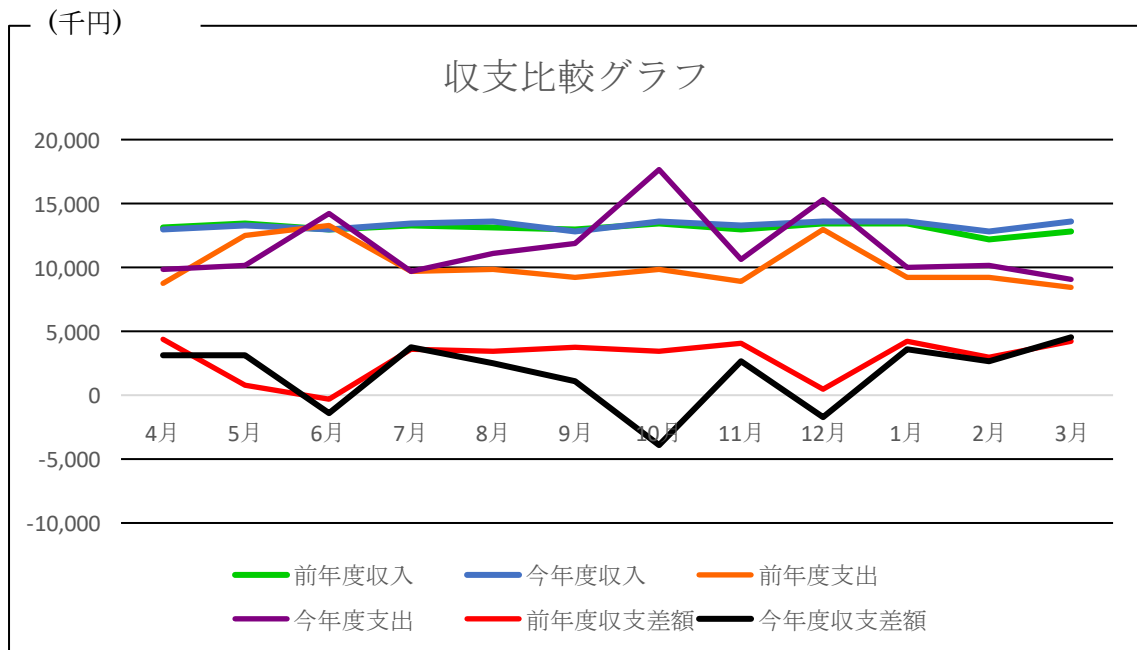
6. 収入の確保

稼働率においては、入院時には病院・家族との連携を行い早期退院に繋げ、毎食後の口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防や、施設内での異常の早期発見を行い、早期の施設での点滴投与を実施することにより、目標であった99%を達成出来た。10月からは特定処遇改善加算の算定が行えた。しかし、栄養マネジメント加算については本体施設サンライフ御立の管理栄養士配置人数が2名から1名になったことで12月19日から算定できていないこともあり、目標よりは38万円の減収となった。また、パソコン入れ替え費用130万円、複合機の入替え費22万円と紹介料や職員増員による人件費800万円、設立後の設備改修費用として1000万円かかってしまった。その為、収支差額が前年に比べて1500万円程度減少してしまった。

年間収支比較

(千円)

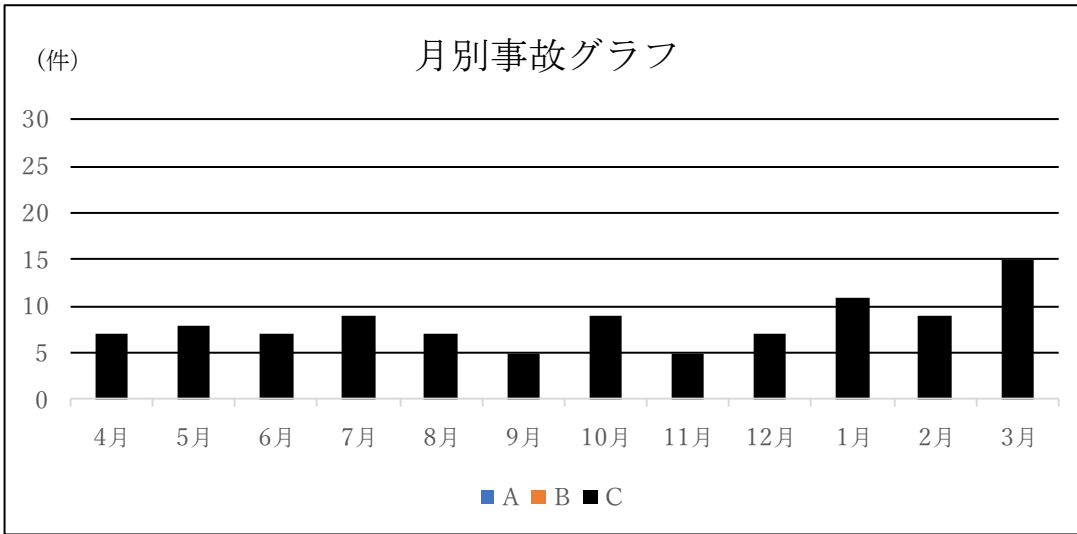
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	13,117	13,408	12,987	13,297	13,224	12,943	78,976	—
②今年度収入	13,082	13,294	12,990	13,418	13,575	12,903	79,262	100.3
③前年度支出	8,741	12,597	13,353	9,711	9,840	9,175	63,417	—
④今年度支出	9,912	10,165	14,343	9,667	11,123	11,847	67,057	105.7
⑤前年度収支差額	4,376	811	▲366	3,586	3,384	3,768	4,376	—
⑥今年度収支差額	3,170	3,129	▲1,353	3,751	2,452	1,056	12,205	278.9
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	13,452	12,999	13,422	13,418	12,205	12,811	157,283	—
②今年度収入	13,674	13,357	13,689	13,652	12,796	13,643	160,073	101.7
③前年度支出	9,951	8,868	12,982	9,214	9,191	8,501	122,124	—
④今年度支出	17,664	10,657	15,356	10,097	10,161	9,041	140,033	114.6
⑤前年度収支差額	3,501	4,131	440	4,204	3,014	4,310	35,159	—
⑥今年度収支差額	▲3,990	2,700	▲1,667	3,555	2,635	4,602	20,040	56.9



事故件数

(単位：件)

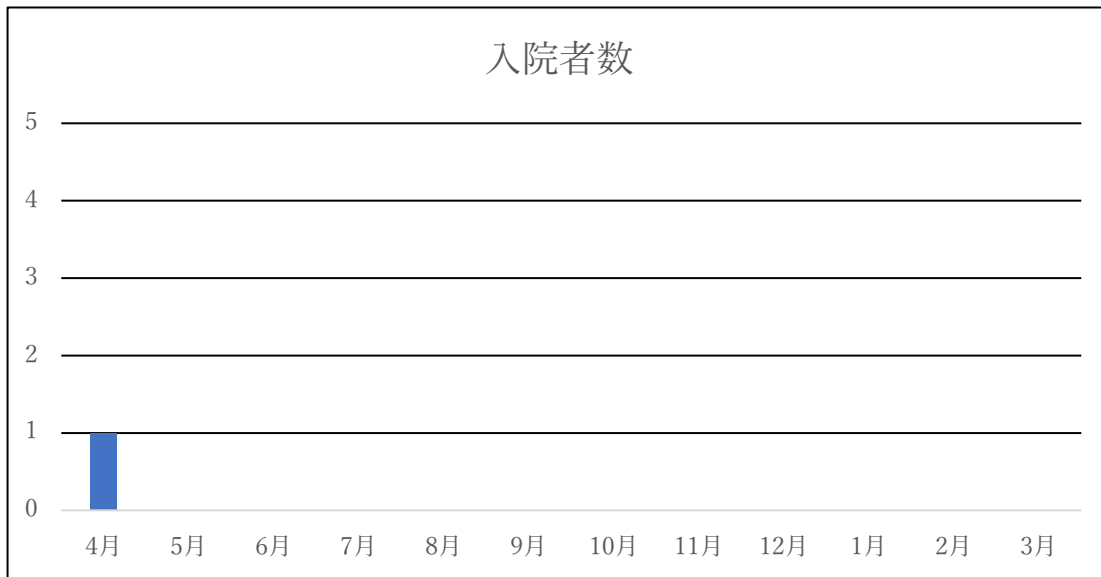
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
総数	7	8	7	9	7	5	43
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	0	0
C	7	8	7	9	7	5	43
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総数	9	5	7	11	9	15	99
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	1	0	0	0	0
C	9	5	7	11	9	15	99



入院者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和元年度 理由	1 肺炎	0	0	0	0	0	1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度 理由	0	0	0	0	0	0	1



令和元年度 デイサービスサンライフ田寺

事業報告書

令和元年度ささゆり会経営スローガンである「助け合って難局を乗り切る」に基づき、職員の生活状況の配慮などやりがいある職場環境を整えた。また、他施設への応援やHCCなど異なった環境でもしっかりと介助を行う事ができる環境作りを目指した。利用者様に対してのサービスは、体調不良にならないようにサポートを行う事を目的に支援を行ったが、レクリエーションのマンネリ化により利用人数は今一つ伸び悩んだ。

1. 歯科衛生士の採用による加算の算定

4月より口腔機能向上加算を算定し、要介護、要支援の利用者の利用者47%が取り組んでいる。結果として、誤嚥性肺炎やインフルエンザなどの風邪でお休みされる方は減少した。また、サービス提供体制強化加算Ⅱを算定。

2. 有給の取得と時間外

有給の取得は10日以上支給される全職員が5日以上取得ができた。事務員の確保が出来なかったため、国保請求関係の時間外が目立った。

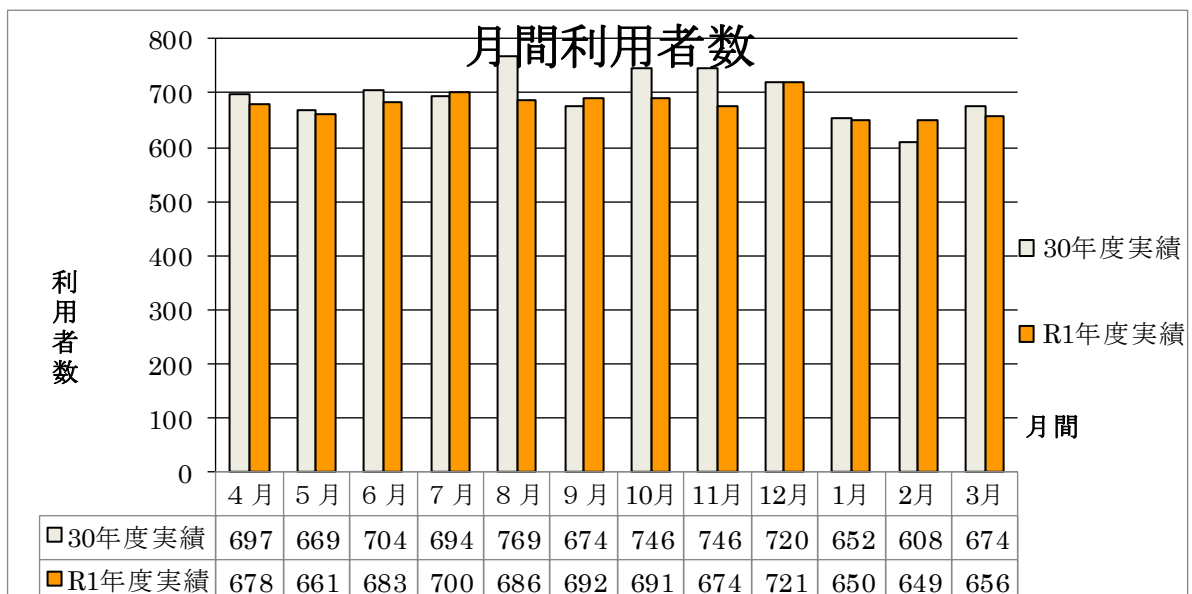
3. ふれあいレストランレストランテヴォーノ田寺

6月からはふれあいレストラン「レストランテヴォーノ田寺」がオープンし、利用人数は増加したが、ボランティアの確保が難しかった。

4. 収支について

収入は利用者数の確保が出来なかったため100万円の減少となった。支出については、看護師が1名退職のため紹介で1名採用した。備品としては大きな物品としてスチコンの購入と車両の修理などの費用が大きかった。

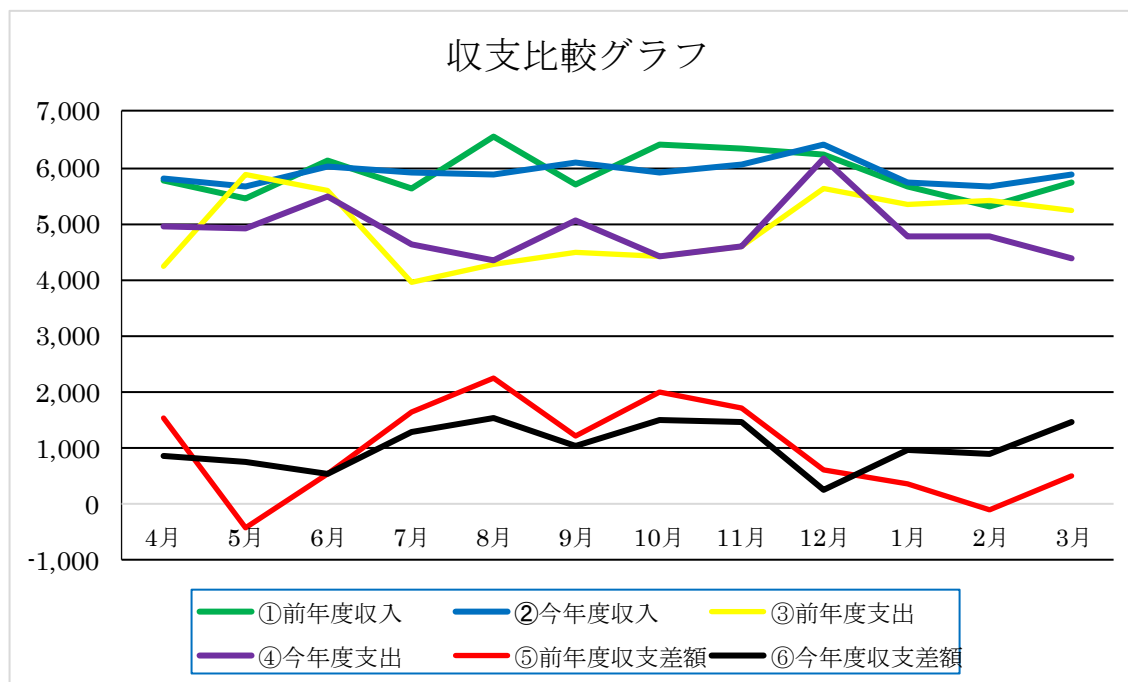
1. 月間利用者数



2. 前年度収支比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	5,786	5,438	6,120	5,620	6,542	5,701	35,207	—
② 今年度収入	5,797	5,660	6,014	5,929	5,891	6,097	35,388	100%
③ 前年度支出	4,241	5,874	5,593	3,965	4,279	4,483	28,435	—
④ 今年度支出	4,954	4,904	5,482	4,632	4,353	5,064	29,389	103%
⑤ 前年度収支差額	1,545	-436	527	1,655	2,263	1,218	6,772	—
⑥ 今年度収支差額	843	756	532	1,297	1,538	1,033	5,999	88%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	6,396	6,322	6,248	5,681	5,311	5,752	70,917	—
② 今年度収入	5,921	6,061	6,393	5,734	5,680	5,860	69,843	98%
⑦ 前年度支出	4,410	4,610	5,627	5,327	5,421	5,240	59,070	—
⑧ 今年度支出	4,411	4,611	6,150	4,768	4,779	4,394	58,502	99%
④ 前年度収支差額	1,986	1,712	621	354	-110	512	11,847	—
⑤ 今年度収支差額	1,510	1,450	243	966	901	1,466	11,341	104%



4.職員充足度（R1年3月現在）

職員 19 名（正職員 3 名 非常勤看護師 4 名 非常勤歯科衛生士 1 名
非常勤介護職員 12 名）

個別機能指導員（看護師）1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	26	678	2083	26.08	12.4	2.1	11.4	2.3
5 月	26	661	2109	25.42	12.6	2.0	12.4	2.1
6 月	26	683	1983	26.27	11.8	2.2	10.8	2.4
7 月	26	700	2250	26.92	13.4	2.0	11.8	2.3
8 月	26	686	2232	26.38	13.3	2.0	12.3	2.1
9 月	26	692	2008	26.62	12.0	2.2	11.0	2.4
10 月	26	691	1976	26.58	11.8	2.3	10.8	2.5
11 月	26	674	1982	25.92	11.8	2.2	10.8	2.4
12 月	27	721	2145	26.70	12.8	2.1	11.8	2.3
1 月	25	650	2153	26.00	12.8	2.0	11.8	2.2
2 月	24	649	2092	27.04	12.5	2.2	11.5	2.4
3 月	27	656	2016	24.30	12.0	2.0	11.0	2.2

5.リストランテヴォーノ田寺

開催日	6/12	7/18	8/21	9/18	10/16	11/20	12/18	1/15	2/19
参加者（名）	23	23	13	13	20	40	42	31	28
ボランティア（名）	15	21	11	6	10	12	14	10	10

※3 月は開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により中止。

令和元年度 ヘルパーステーションサンライフ御立

事業報告書

今年度目標に掲げた、「職員の役割分担」「責任の明確化」。責任意識のバラツキを担当業務を明確化する事によって、更に向上へと繋げていくよう努めた。業務の簡素化・見える化・チェック機能を作ることにより、担当業務・個人業務を漏れなく行える様な体制を整えた。その結果、決められた時間でしっかり優先順位を考え、行動出来ていると感じる。出来ていない職員には、管理者でなくとも指摘出来る関係性、事業所全体の空気の構築も少しずつではあるが、実践出来ている。

日々の業務に追われる中でも、「報告・連絡・相談」は必ず行う。共有はチームワークの基本である事を全員が念頭に置き、日々サービスに向き合うことにより、事業所内での今以上の信頼関係の構築に努め、その結果、円滑な事業所運営に取り組んでいると感じる。訪問介護は、見えない自宅でのサービスであるが言え、決して個人プレーではない。全員が、情報・サービス内容を共有し、全員が、同じ方向を向いて歩んでいけると感じる事が出来た。引き続き、継続していけたらと強く感じる。

今年度は、11月に登録ヘルパーが利用者宅にてサービス中、労働災害となる事故を起こしてしまい、2ヶ月間の休養となる事例が発生した。重ねて3月には同じく利用者宅にて掃除援助中、職員が物損事故を起こしてしまい損害保険を使用し、損害賠償を行なう事となり、今一度、全ての行動にてヒヤリハットを確認し、責任を持った行動を取れるよう、再確認に努め継続して行く。今後も、常に現状に満足せず、「利用し続けたい」と皆様に思っていただけの事業所運営を日々心掛ける様、努めていきたい。

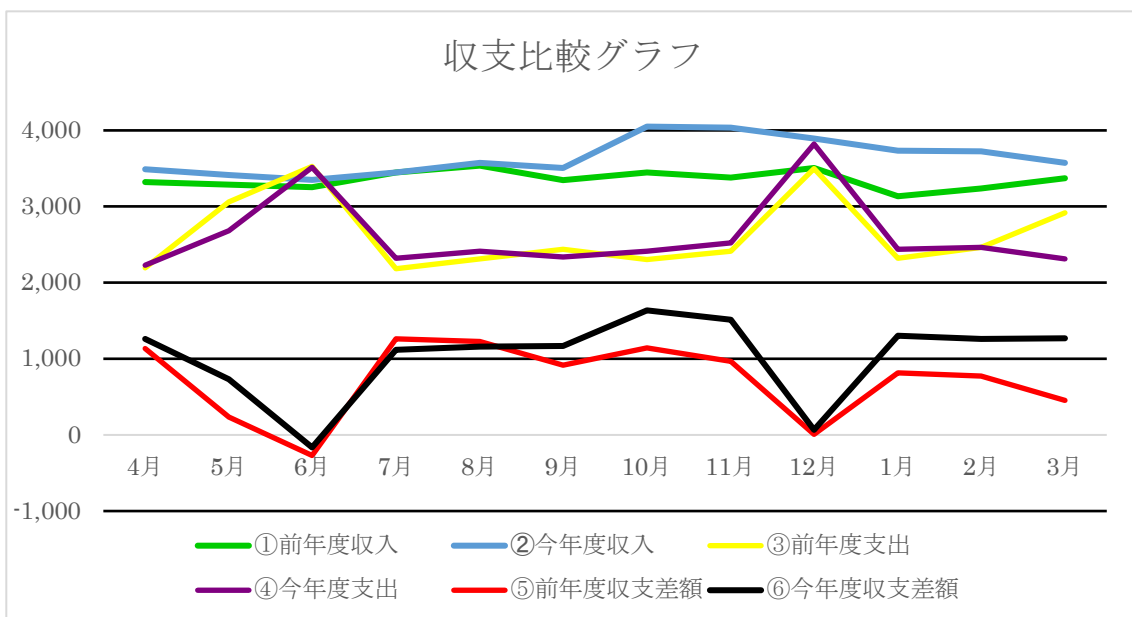
令和元年度 内部研修内容

4月	「接遇」「ヘルパーはチームワーク」等事例検討
5月	実技 症状別の「立ち上がり・歩行介助」
6月	脱水・熱中症の予防
7月	人事考課表・個人面談
8月	服薬・利用者様目線で考えるプライバシーの保護
9月	虐待防止「利用者様の思い」を起点に
10月	法令遵守・倫理 事例をもとにクレームの実態
11月	適切な転倒対策・骨粗しょう症予防（運動・食事）
12月	ヘルパーに出来る見取りケアとは？・聴く力を身につける
2年1月	個人面談
2月	ヘルパーのメンタルケア・服薬の知識
3月	口腔ケアで利用者様の健康をサポート

年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,325	3,291	3,257	3,445	3,537	3,350	20,205	—
②今年度収入	3,488	3,415	3,350	3,444	3,574	3,510	20,781	103
③前年度支出	2,194	3,057	3,527	2,183	2,311	2,437	15,709	—
④今年度支出	2,229	2,682	3,514	2,323	2,412	2,339	15,499	99
⑤前年度収支差額	1,131	234	-270	1,262	1,226	913	4,496	—
⑥今年度収支差額	1,259	733	-164	1,121	1,162	1,171	5,282	117
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	3,450	3,381	3,505	3,135	3,235	3,374	40,285	—
②今年度収入	4,050	4,033	3,890	3,737	3,722	3,577	43,791	109
③前年度支出	2,305	2,413	3,500	2,323	2,461	2,921	31,632	—
④今年度支出	2,414	2,521	3,821	2,437	2,460	2,309	31,461	99
⑤前年度収支差額	1,145	968	5	812	774	453	8,653	—
⑥今年度収支差額	1,636	1,512	70	1,300	1,262	1,268	12,330	142



収入面では、多職種との信頼構築の為に時間の許す限り事業所への訪問は惜しまない。月1回の報告書提出時の訪問や毎月発行の「ヘルパーステーション通信」を活用し事業所の内部発信・新規受け入れ可能時間帯を記載し、居宅介護支援事業所との連携を密にとる事で、利用者様増・訪問回数増に繋がり、収入も360万円増となっている。

今年度も引き続き、ヘルパーの人員確保（労働力の確保）及び、信頼して貰える事業所への取り組みに更に力を注ぎ、常に新しい事へ眼を向け、収入確保に繋げていきたい。

令和元年度 サンライフ御立居宅介護支援事業所

事業報告書

令和元年度は非常勤職員の退職に伴い、求人を行ったが成果はなく、常勤職員の異動により人材を確保できた。課題であった引き継ぎも、地域包括支援センターで働いた経験があり滞りなく行えた。総収入はやや増加し、総支出はやや減少した。

利用者様に満足して頂けるサービス利用であったかについては、令和元年10月のアンケート結果でみると、まだまだである。

1. 担当利用者の確保

期間途中で、1名退職し1名補充で変わらず4名体勢で経過している。安定した事業所運営と稼働効率の向上のために各介護支援専門員の担当件数についての把握を定期的に行い、職員間で報告・連絡・相談を密に行うことで新規相談者への対応を迅速に行えるよう努めた。また、地域包括支援センター、他職種、他事業所に訪問し営業活動を強化することで新規利用者獲得に努めた。新規利用者は、1年間で要介護者49名、要支援者22名を獲得できた。

2. 利用者人数の推移

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	H30	24	30	32	30	31	31	29	27	28	29	31	36	358
1.2	R1	40	46	45	42	39	42	46	44	45	47	42	40	518
	差	+16	+16	+13	+12	+8	+11	+17	+17	+17	+18	+11	+4	+160

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護	H30	105	102	104	110	109	113	115	112	116	119	115	110	1,330
1~5	R1	110	118	117	116	118	119	115	113	115	112	116	114	1,383
	差	+5	+16	+13	+6	+9	+6	0	+1	-1	-7	+1	+4	+53

3. 収入の確保

ケアマネ人数が、令和元年11月から令和2年1月まで引継ぎと退職に伴う有休消化の為、4名から5名体制に変更となった。その為、平成30年度と令和元年度の比較は単純にはできないが、収入はやや増加し、支出はやや減少している。担当人数は定員までもう少し余裕があるが、人件費の増加（非常勤職員から常勤職員に交代）が見込まれているため、今後収入が少し増加しても支出が大きく増加する。

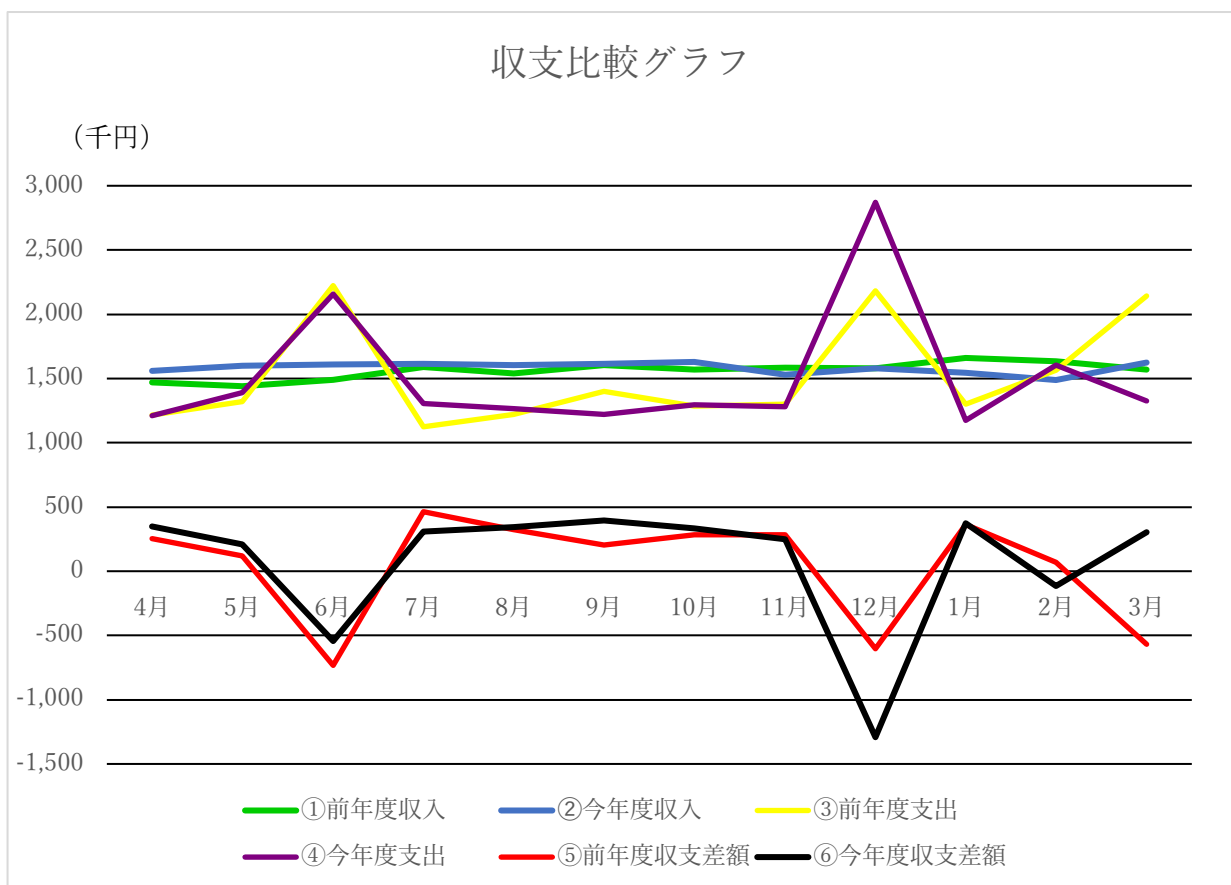
4. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	1,469	1,440	1,490	1,587	1,541	1,603	9,130	—
②今年度収入	1,560	1,599	1,611	1,613	1,606	1,616	9,605	105.2
③前年度支出	1,215	1,320	2,223	1,124	1,218	1,399	8,499	—
④今年度支出	1,211	1,392	2,155	1,305	1,265	1,221	8,549	100.6
⑤前年度収支差額	254	120	-733	463	323	204	631	—
⑥今年度収支差額	349	207	-544	308	341	395	1,056	167.4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,569	1,584	1,581	1,660	1,632	1,570	18,726	—
②今年度収入	1,629	1,528	1,579	1,545	1,488	1,625	18,999	101.5
③前年度支出	1,284	1,300	2,184	1,299	1,565	2,140	18,271	—
④今年度支出	1,297	1,278	2,871	1,174	1,602	1,324	18,095	99.0
⑤前年度収支差額	285	284	-603	361	67	-570	455	—
⑥今年度収支差額	332	250	-1,292	371	-114	301	904	198.7

収支比較グラフ



令和元年度 デイサービスサンライフ安室

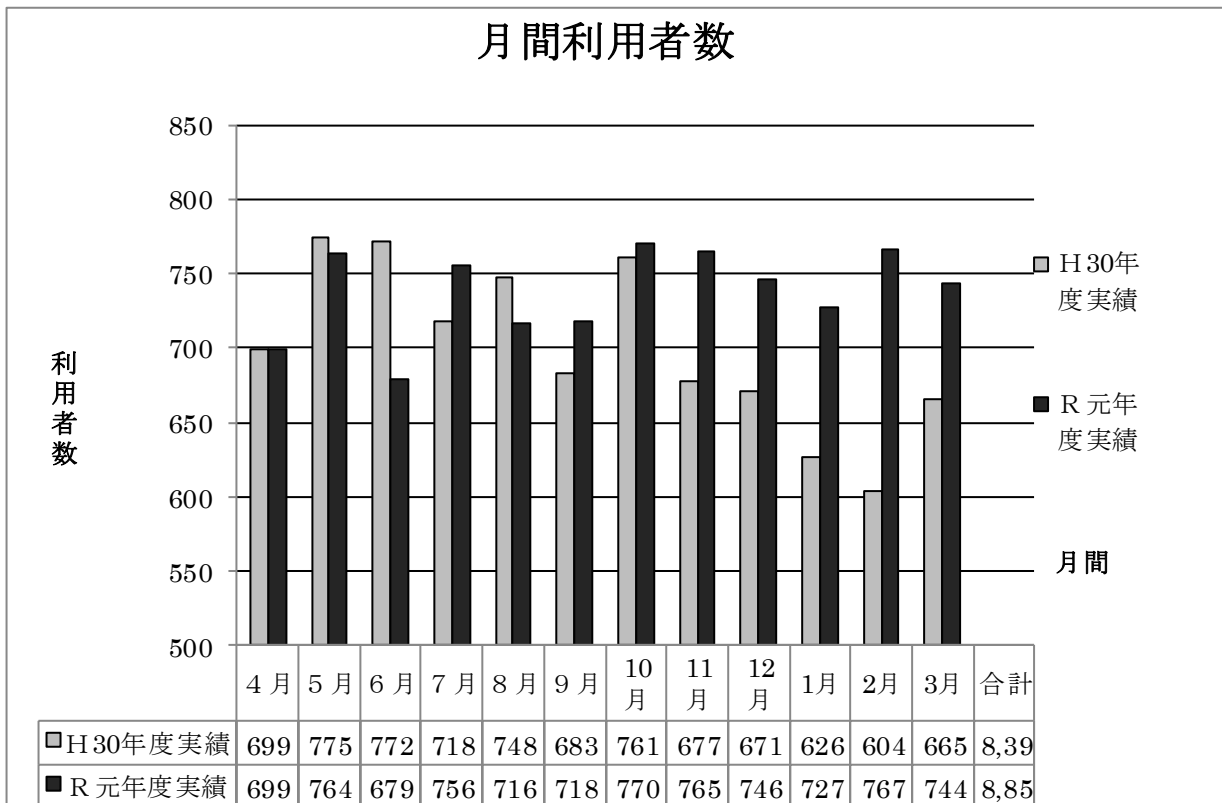
事業報告書

令和元年度は毎月 2 回の外出を実施するのと同時に、外出以外の週は、全体で行うゲームと書道、水彩画、カラオケ、手芸、工作、ゲーム等の少人数で行うグループレクリエーションの週を企画し、利用者様を飽きさせない工夫を行った。その事により、見学された際に興味を持ち、ご利用を希望される新規の利用者様が増えた。しかし、利用人数が増えたことで、事故件数が増え、骨折の事故が 2 件発生した。

介護職員の業務の見直しとして、新しいレクリエーション企画を減らし職員の負担軽減を行ったことで、全職員が有給休暇を 5 日以上取得することができた。

利用人数については、理学療法士がおり一日過ごせるデイサービスとケアマネジャーに認知され、見学や新規依頼が以前に比べ増加し、平均利用人数は月平均 27.2 名から 28.4 名と増え、収入増となった。しかし、ハイエースの購入やパソコンの入れ替えによる支出があり、収支差額は前年度に比べマイナスとなった。次年度は、事故を繰り返さないよう安全に配慮し、更なるサービスの質の向上を図っていきたい。

1. 利用者数

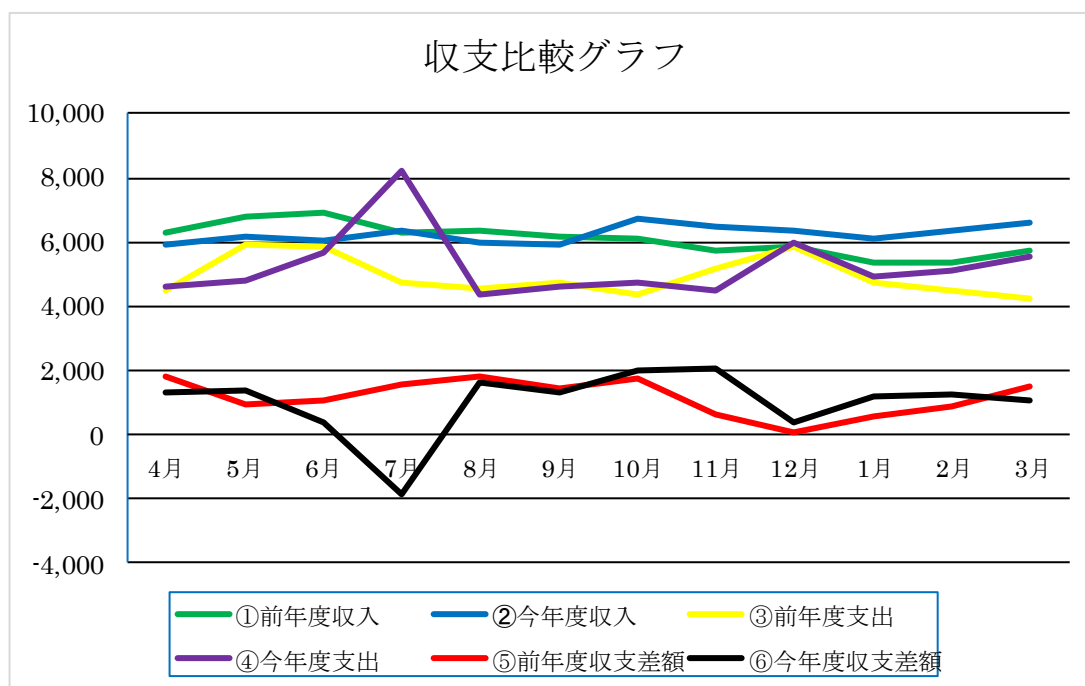


2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	6,272	6,803	6,892	6,312	6,374	6,185	38,838	—
②今年度収入	5,937	6,160	6,053	6,354	5,967	5,934	36,405	96.6
③前年度支出	4,478	5,895	5,835	4,759	4,543	4,739	30,249	—
④今年度支出	4,627	4,788	5,666	8,231	4,368	4,606	32,286	106.7
⑤前年度収支差額	1,794	908	1,057	1,553	1,831	1,446	8,589	—
⑥今年度収支差額	1,310	1,372	387	-1,877	1,599	1,328	4,119	47.9

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	6,108	5,742	5,873	5,350	5,350	5,729	72,990	—
②今年度収入	6,729	6,507	6,358	6,124	6,353	6,600	75,076	102.9
③前年度支出	4,356	5,141	5,826	4,759	4,491	4,251	59,073	—
④今年度支出	4,757	4,459	5,960	4,918	5,102	5,545	63,027	106.7
⑤前年度収支差額	1,752	601	47	591	859	1,478	13,917	—
⑥今年度収支差額	1,972	2,048	398	1,206	1,251	1,055	12,049	86.6



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	85.11 (6)	85.23 (8)	84.94 (9)	85.92 (11)	84.50 (9)	82.77 (9)	82.02 (10)	83.48 (8)	83.86 (8)	84.21 (8)	85.19 (8)	86.40 (6)	84.40 (100)
要支援 2	84.44 (16)	84.13 (17)	83.63 (18)	84.30 (19)	84.88 (20)	86.31 (20)	86.60 (17)	85.23 (18)	85.95 (17)	85.98 (17)	85.47 (19)	85.63 (20)	85.22 (218)
要介護 1	82.56 (24)	82.70 (23)	82.74 (22)	82.45 (21)	83.08 (21)	83.29 (23)	82.63 (24)	83.40 (27)	82.90 (31)	83.03 (32)	83.09 (32)	82.47 (27)	82.87 (307)
要介護 2	88.79 (15)	89.09 (15)	89.72 (14)	87.01 (17)	87.57 (16)	88.47 (15)	88.75 (18)	88.94 (17)	87.66 (16)	87.16 (15)	87.32 (14)	87.74 (14)	88.16 (186)
要介護 3	79.12 (9)	80.24 (10)	78.44 (9)	78.53 (9)	79.09 (8)	79.71 (10)	79.35 (11)	79.43 (11)	79.11 (10)	79.74 (13)	80.25 (14)	80.74 (14)	79.57 (128)
要介護 4	87.17 (4)	87.25 (4)	86.69 (3)	86.22 (3)	82.11 (3)	82.19 (3)	78.63 (2)	77.67 (1)	77.75 (1)	80.08 (2)	80.17 (2)	82.50 (1)	83.62 (29)
要介護 5		75.17 (1)	75.25 (1)	75.33 (1)	75.42 (1)	75.50 (1)	75.58 (1)	75.67 (1)	75.75 (1)			93.58 (1)	77.47 (9)
合計	84.27 (74)	84.32 (78)	84.05 (76)	83.93 (81)	84.08 (78)	84.36 (81)	84.08 (83)	84.25 (83)	83.92 (84)	83.87 (87)	83.94 (89)	84.19 (83)	84.10 (977)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています

4. 職員充足度 (R2年3月現在)

職員 19 名 (正職員 2 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 14 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員/ 日	職員 一人対	職員/ 日	職員 一人対
4月	26	699	1,834	26.9	10.9	2.5	9.9	2.7
5月	27	764	1,833	28.3	10.9	2.6	10.0	2.8
6月	25	679	1,819	27.2	10.8	2.5	9.9	2.8
7月	27	756	1893.5	28.0	11.3	2.5	10.2	2.7
8月	26	716	1957.5	27.5	11.7	2.4	10.7	2.6
9月	25	718	1,895	28.7	11.3	2.5	10.3	2.8
10月	27	770	2,025.5	28.5	12.1	2.4	11.1	2.6
11月	26	765	1,932	29.4	11.5	2.6	10.5	2.8
12月	26	738	2,101	28.4	12.5	2.3	11.6	2.5
1月	25	718	2,171	28.7	12.9	2.2	11.9	2.4
2月	25	767	2,052	30.7	12.2	2.5	11.2	2.7
3月	26	744	2,116	28.6	12.6	2.3	11.6	2.5

令和元年度 姫路市安室地域包括支援センター

事業報告書

国が目標とする「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けて、ますます地域包括支援センターの機能強化が求められてくるなか、令和元年度においても、相談件数は増加しており、年々地域に出向いていく件数も増加している。今年度は、地域のネットワーク強化や中央保健センターの連携強化に取り組むことができた。また、姫路市地域包括支援センターふれあい祭りを担当地区で開催し盛況だったので、今後は地域の介護予防教室につなげていきたい。

I. 運営に係る業務

人員配置においては、令和元年度は高齢者が 6,000 人を超え、人員増員が必要だが、加配することができなかった。事業所内の連携については、今年度も毎日朝礼でミーティングを実施し、事業所内での情報共有を確実に行った。また、月 1 回職員会議も定例化でき、各職員が責任をもって開催することで、知識の向上やスキルアップに繋がっている。相談ケースについては、確実に対応できるよう定期的に終結の確認を行った。

II. 権利擁護・総合相談・支援業務

今年度も、センター便りを 3 ヶ月に 1 回、地域役員向け活動報告書を 2 ヶ月に 1 回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んだ。今年度は、商店回りを重点的に行い、リーフレットを作成し、置いてもらいやすい工夫をすることで、地域のネットワーク強化に取り組んだ。

虐待対応については、今年度も継続支援の分も含め 12 件あり、姫路市及び関係機関と迅速な対応・連携を取り、対応できた。

認知症に対する地域支援としては、引き続き、認知症高齢者等の見守り・SOS ネットワーク事業についての啓発活動を行った。安室中学校区では現在 10 名の登録となっており、登録時には状況把握を行った。また、個別対応については、市や中央保健センターとの連携もさらに促進できた。

認知症サロンについては、既存の 1 グループの開催支援を継続して行っており、認知症サロンの登録にはまだ至っていないが、来年度は登録となる予定のサロンも新規立上げとなった。今年度、姫路市での認知症サロンの在り方の議論があり、来年度への課題となっている。

III. 介護予防ケアマネジメント事業

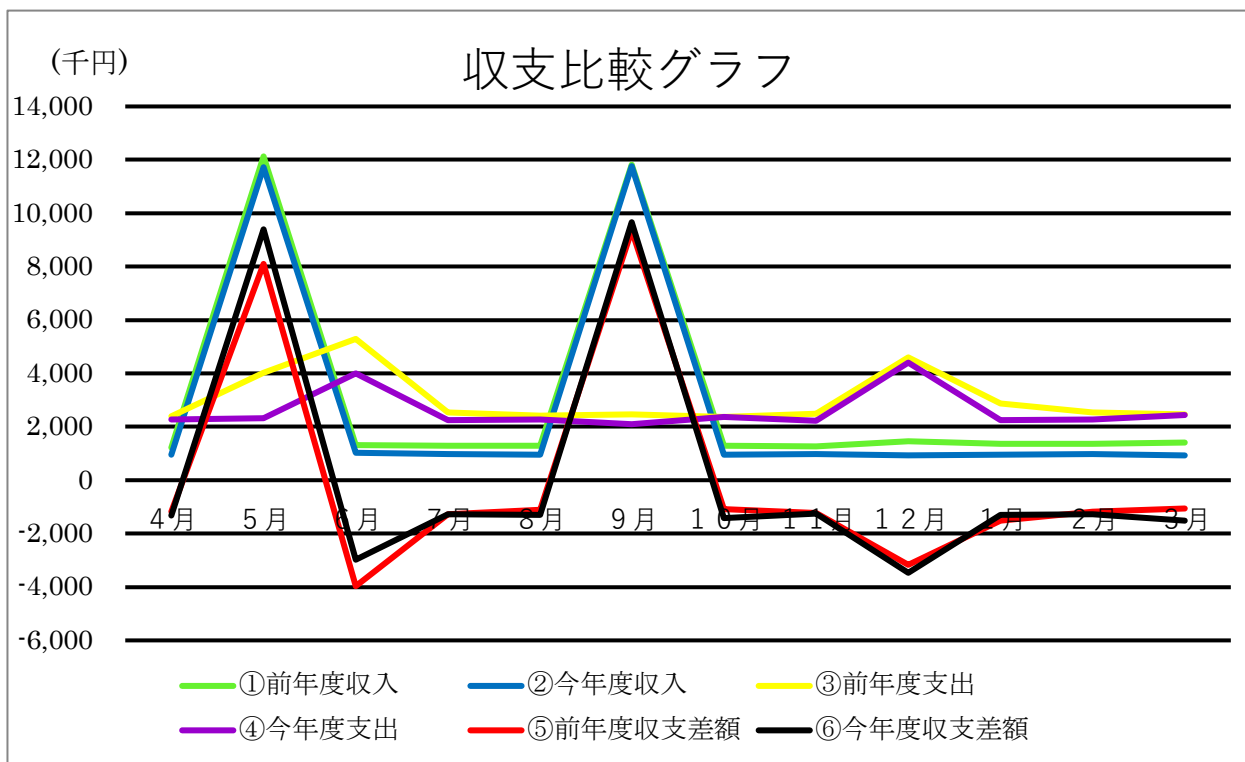
介護予防については、いきいき百歳体操の状況把握時にチラシを作成し、説明・配布しているが、今年度は認知症啓発チラシを作成し、啓発した。また、いきいき百歳体操については、新規参加者増員等継続支援を行った。

年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	1,220	12,129	1,325	1,282	1,293	11,815	29,064	—
②今年度収入	949	11,726	1,020	972	967	11,762	27,396	94
③前年度支出	2,398	4,026	5,293	2,546	2,408	2,460	19,131	—
④今年度支出	2,283	2,327	4,000	2,241	2,266	2,098	15,215	80
⑤前年度収支差額	-1,178	8,103	-3,968	-1,264	-1,115	9,355	9,933	—
⑥今年度収支差額	-1,334	9,399	-2,980	-1,269	-1,299	9,664	12,181	123

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,290	1,274	1,453	1,358	1,364	1,413	37,216	—
②今年度収入	960	980	937	967	988	929	33,157	89
③前年度支出	2,370	2,500	4,612	2,872	2,548	2,464	36,497	—
④今年度支出	2,373	2,225	4,405	2,258	2,274	2,436	31,186	85
⑤前年度収支差額	-1,080	-1,226	-3,159	-1,514	-1,184	-1,051	719	—
⑥今年度収支差額	-1,413	-1,245	-3,468	-1,291	-1,286	-1,507	1,971	274



令和元年度 特別養護老人ホームサンライフ土山

事業報告書

今年度、サンライフ土山では、職員全員が責任を持って最後までやり抜くことをモットーに常勤職員及び EPA 職員も責任を与え行動を行なった。職員の資質向上の為に、内部研修（リーダー職員対象、介護職員対象、全体職員対象）を計画通りに実施し、委員会活動においては、EPA 先輩職員から後輩への指導することが出来ており、2 年目以前に入職している EPA 職員に関しては、個別機能訓練計画書の原案作成にも携わるようすすめることが出来た。間接業務の簡素化・合理化においては、今まで介護職員でしていた作業（エアコンのフィルター、窓掃除）を掃除担当者に任せ、家族様への物品購入や簡単な連絡においては、面会時にわかるよう、各居室に家族様への連絡事項の用紙を貼るようにし、職員が対応で手が止まる、伝達忘れがないよう工夫した。メモだけになり、コミュニケーションが少なくならないよう留意した。また、介護記録についても、内容が薄くならないよう配慮しつつ、介護ソフトの入力項目の見直しをおこない時間の短縮をはかった。そして、実習生については、ソーシャルワーク実習 6 名、介護福祉実習 3 名の受け入れをおこなった。

介護事故については、A ランクの事故は 5 件から 3 件に減少したが、今年度はヒヤリハット報告で挙げていた皮膚剥離や内出血等の事故すべてを C ランクの事故に含め、報告書に記載したため、C ランクの事故が 158 件から 244 件へと大幅に増加した。

下半期は、ケアプランを作成するにあたり、会議開催の場が少なかったことを課題に挙げ、これまでは部署間の個別的なやり取りが多く、書類の確認が主であった現状から、他部署が集まり話し合う場を、計画的に組み実施できるよう準備をおこなった。来年度に実行予定である。

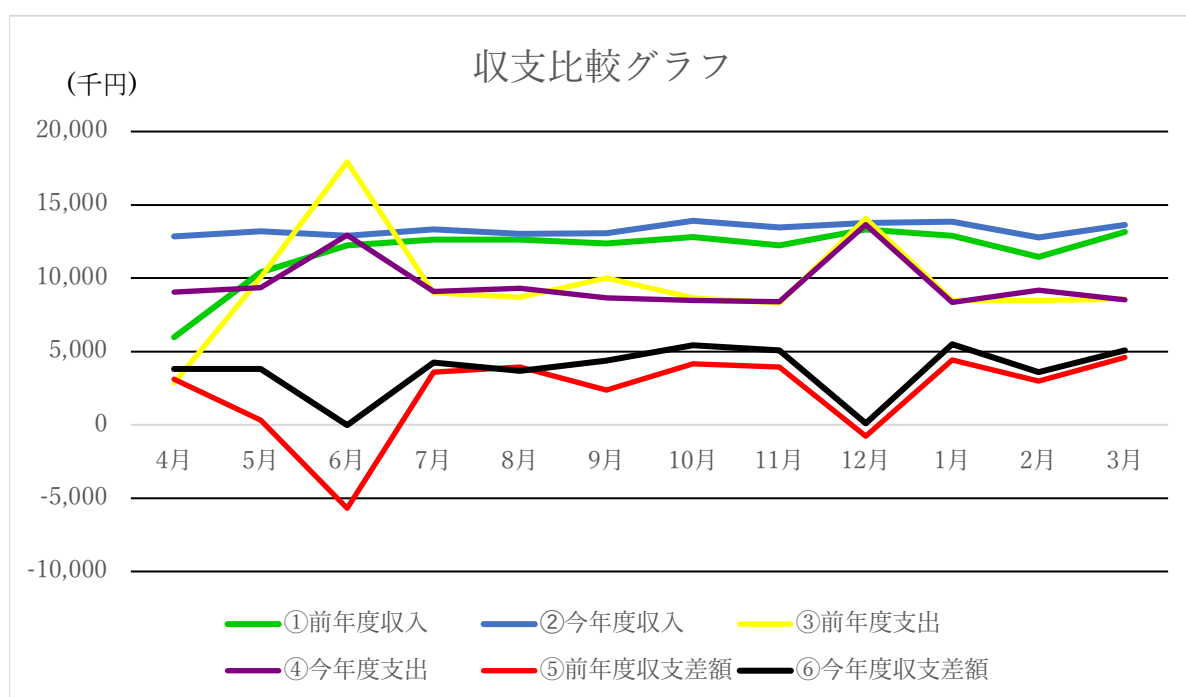
昨年度の利用者実績は 24,906 人で今年度は 24,416 人となり 490 人減少した。収入も、53 万 4 千円減少したが、支出については 377 万 1 千円抑えることができた。収支差額は約 8850 万円となり、昨年度比較すると、323 万 7 千円の増額となった。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	29,250	30,999	29,475	30,778	30,721	29,489	180,712	—
②今年度収入	31,396	30,092	29,948	30,150	29,794	28,350	179,729	99.5
③前年度支出	20,958	24,861	35,347	20,380	19,674	20,837	142,057	—
④今年度支出	20,417	21,035	29,877	21,391	20,465	22,452	135,637	95.5
⑤前年度収支差額	8,293	6,138	-5,872	10,398	11,047	8,652	38,655	—
⑥今年度収支差額	10,978	9,056	71	8,760	9,329	5,898	44,092	114.1

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	30,735	29,487	30,160	29,597	26,712	29,956	357,359	—
②今年度収入	30,045	30,017	29,348	29,047	27,695	30,943	356,825	99.9
③前年度支出	23,203	19,621	28,245	19,916	21,049	18,004	272,095	—
④今年度支出	20,914	19,944	31,149	20,067	20,853	19,760	268,324	98.6
⑤前年度収支差額	7,532	9,866	1,915	9,681	5,663	11,952	85,264	—
⑥今年度収支差額	9,132	10,073	-1,800	8,980	6,842	11,183	88,501	103.7



2. 利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
30年度実績	2,041	2,170	2,056	2,156	2,140	2,049	12,612
元年度実績	2,073	2,141	2,056	2,091	2,085	1,964	12,409
前年度との差異	32	-29	0	-65	-55	-85	-203
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	2,146	2,057	2,097	2,049	1,858	2,087	24,906
元年度実績	2,082	1,987	1,982	1,958	1,907	2,090	24,416
前年度との差異	-64	-70	-115	-91	49	3	-490

3. 入院日数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
30年度実績	56	0	36	5	30	46	173
元年度実績	19	19	29	54	86	75	282
前年度との差異	-37	19	-7	49	56	29	109
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	22	23	65	103	79	56	521
元年度実績	77	84	179	174	80	76	952
前年度との差異	55	61	114	71	1	20	431

4. 稼働率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
30年度実績	97.3	100	97.9	99.3	98.6	97.5	98.4
元年度実績	98.7	98.7	97.9	96.3	96.0	93.4	96.8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	98.8	97.9	96.6	94.4	94.8	96.1	97.5
元年度実績	95.9	94.6	91.3	90.2	93.9	96.3	94.1

5. 令和元年度別要介護度別利用者数

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満	0	54 (2)	0	54 (2)
65歳以上～75歳未満	0	244 (8)	475 (16)	719 (24)
75歳以上～85歳未満	699 (24)	2791 (96)	2288 (81)	5778 (201)
85歳以上～95歳未満	2046 (71)	6762 (237)	5111 (177)	13919 (485)
95歳以上	628 (21)	1763 (59)	583 (20)	2974 (100)
100歳以上	732 (24)	0	240 (9)	972 (33)
合計	4105 (140)	11614 (402)	8697 (303)	24416 (845)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています。

6. 令和元年度 事故分類別発生者数

	A	B	C	合計
合計	3	5	244	252

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

【Aランク】

- ・M様 意識消失し、車いすごと左側臥位に転倒される。

・Y様 左脛骨近医骨折。11/21 0:00 パット交換時、ズボンを下し、足を屈伸させた際、右膝の痛みの訴えあり。確認すると、0.5cm大の内出血と青あざあり。触ると痛み(+)屈伸痛み強(+)腫れ(+)熱感(+)。転倒・転落事故はなし。11/20 AM家族様と日赤に受診され、検査を受けられる。また、家族送迎にて帰園される。その際、車椅子⇔車の移乗介助されており、施設側でなったのか、病院でなったのか、家族様介助でなったのかは不明。

・N様 1/3 8:30 パット交換時に左側臥位に向けようと右足を触ると痛いとの訴えあり。確認するも内出血はなし。痛みが継続の為、八家病院受診すると、右足大腿骨頸部骨折の診断。手術の為、入院となる。

1/2 20:00の排泄交換時にも痛みの訴えがあり。1/2 PMリフト浴での入浴～1/2 20:00までの間に、何らかの負荷があったと思われる。転倒等の事故はなし。

7. 令和元年度 退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	0	1	2	1	0	5	9
病院	1	1	0	1	0	1	4
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	2	2	2	0	6	13
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	1	0	0	0	0	0	10
病院	0	0	0	3	1	0	8
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	3	2	1	7
合計	2	0	0	6	3	1	25

令和元年度サンライフ土山ショートステイ

事業報告書

今年度は職員1人1人の介護技術・責任感の向上、忘れ物の減少、事故の減少を目標とした。介護技術に関しては、自分たちが教える立場となることで、責任感や知識の増加に繋がったが、研修の実施を忘れることが度々見られ、職員間の意識の差が明確になった。リーダーに対しての研修はリーダー会議後に実施することができ、必要な知識の習得に役立ったと感じる。

忘れ物に関しては、荷物チェックアプリを導入し、チェック方法を紙から写真を使つての記録に変更した。iPadのカメラを使用することで、紙に手書きで記入していた時よりも時間の短縮がはかれ、写真と現物を見比べてチェックできるため効率が上がった。しかし、忘れ物自体の数は大きく減少することは無く、チェックした後にカバンにしまい忘れたり、薬品のチェックをし忘れたりという単純ミスが見られた。今後同じミスをしないよう指導を行った。

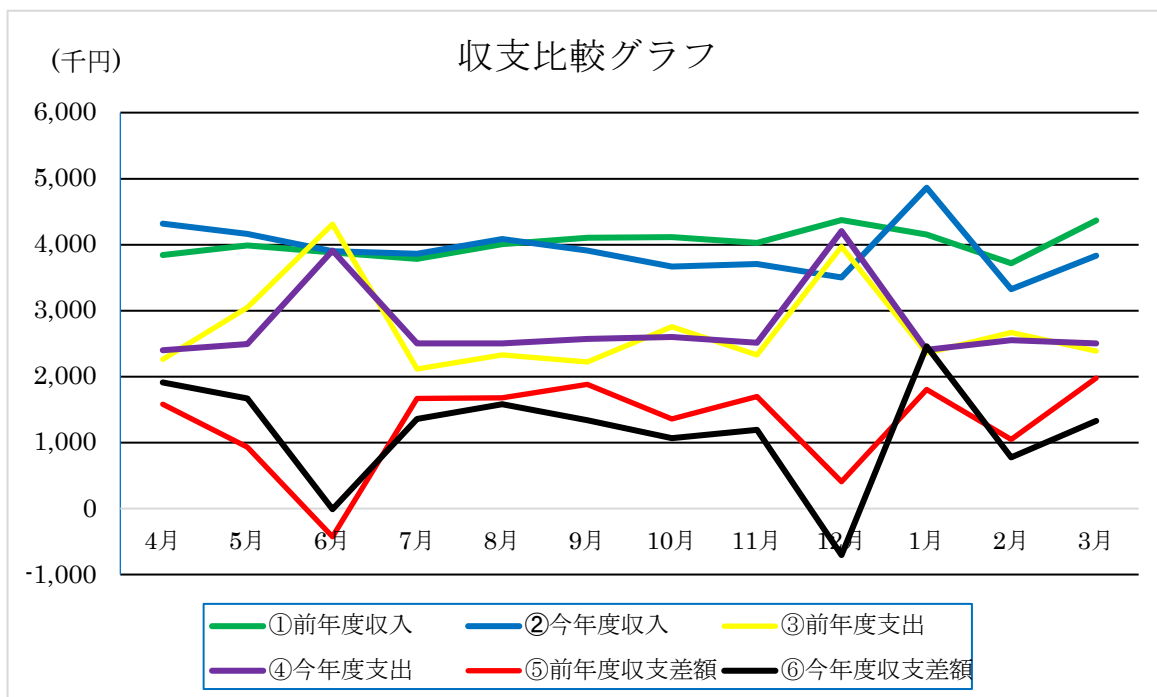
今年度の事故件数は74件で昨年度の42件を大きく上回ってしまった。皮膚の弱い利用者様の内出血や剥離、服薬拒否の強い利用者様の服薬確認ミスが主な内容となっている。骨折事故が3件起こったため、同じような事故を起こさないよう原因の追究と対策を部署で話し合い、再発防止に努めた。

収入面では、目標である稼働率98.5%を達成することが出来ず、今年度の平均稼働率は95.9%。利用人数・宿泊人数・収入すべてが前年を下回る結果となった。今年度、ロングから土山特養入所者23名。特に10月に5名、2月に4名ロングの方が特養入所された後、スムーズに次のロングの方を入所させることが出来なかったのが収入減の原因と考える。また要介護3の利用者が増え、要介護4・5の利用者が減少してきていることも、収入減の一因と考える。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,839	3,985	3,883	3,785	4,004	4,102	23,598	—
②今年度収入	4,314	4,166	3,904	3,863	4,083	3,906	24,236	102.7
③前年度支出	2,260	3,051	4,310	2,115	2,329	2,225	16,290	—
④今年度支出	2,399	2,495	3,912	2,504	2,501	2,572	16,383	100.6
⑤前年度収支差額	1,579	934	-427	1,670	1,675	1,877	7,308	—
⑥今年度収支差額	1,915	1,671	-8	1,360	1,582	1,334	7,854	107.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	4,114	4,024	4,372	4,157	3,717	4,367	48,349	—
②今年度収入	3,672	3,705	3,500	4,862	3,324	3,834	47,133	97.5
③前年度支出	2,754	2,328	3,964	2,353	2,671	2,389	32,749	—
④今年度支出	2,603	2,513	4,205	2,403	2,549	2,507	33,163	101.3
⑤前年度収支差額	1,360	1,696	408	1,804	1,046	1,978	15,600	—
⑥今年度収支差額	1,069	1,192	-705	2,459	773	1,325	13,967	89.5



2. 平成 30 年度・令和元年度 利用人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
30年度実績	285	298	305	288	312	300	1,788
元年度実績	298	313	297	289	311	295	1,803
前年との差異	13	15	-8	1	-1	-5	15
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	312	306	330	313	302	324	3,675
元年度実績	268	272	306	308	257	297	3,511
前年との差異	-44	-34	-24	-5	-45	-27	-164

3. 平成 30 年度・令和元年度 宿泊人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
30年度実績	254	277	279	267	290	274	1,641
元年度実績	274	287	277	258	287	270	1,653
前年との差異	20	10	-2	-9	-3	-4	12
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度実績	283	277	302	287	283	297	3,370
元年度実績	236	247	283	285	229	264	3,197
前年との差異	-47	-30	-19	-2	-54	-33	-173

4. 平成30年度・令和元年度 月ごとの稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率(30年)	95	96.1	101.6	92.9	100.6	100	
稼働率(元年)	99.3	101	99	93.2	100.3	98.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(30年)	100.6	102	106.5	101	107.9	104.5	100.7
稼働率(元年)	86.5	90.7	98.7	99.4	88.6	95.8	95.9

5. 令和元年度年齢別・介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満					40 (2)	6 (1)		46 (3)
65歳以上～ 75歳未満							14 (2)	14 (2)
75歳以上～ 85歳未満	2 (1)	19 (5)	4 (2)	27 (1)	214 (19)	263 (14)	146 (7)	675 (49)
85歳以上	17 (2)		337 (41)	282 (40)	943 (72)	1010 (52)	187 (16)	2776 (223)
合計	19 (3)	19 (5)	341 (43)	309 (41)	1197 (93)	1279 (67)	647 (25)	3511 (277)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています

6. 平成30年度・令和元年度 事故件数比較

	A	B	C	合計
事故件数(30年)	1	1	40	42
事故件数(元年)	2	2	70	74

A: 入院加療を要する事故 B: 受診・通院を要する事故 C: 受診・通院を要さない事故

R元年度Aランク事故

- A ①ベッドからのずり落ちによる圧迫骨折で入院。
②原因不明の圧迫骨折にて入院。

令和元年度特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

事業報告書

令和元年度サンライフ土山は、医療と介護を必要とする入居者に、他職種と協働し互いの役割を理解し、安全で質の高いサービスが提供できるよう取り組んだ。普段から入居者、家族様との信頼関係を保てるようコミュニケーションをはかるようにした。また、看取り期にも、家族様と面談し、15名の施設での看取り希望があり、本年度10名看取った。

平均要介護度4.16と高く、入居者の高齢化、重度化している状況の中、他職種と情報共有・チームケアをし、入居者の身体・精神状態や生活機能をアセスメントし、介護度が重度化しないよう、生活機能が維持できるよう支援した。しかし、入院者数は、45名、延べ入院日数952日、稼働率95.6%となった。肺炎での入院が14名と非常に多く、尿路感染症5名、蜂窩織炎3名、脳梗塞3名、腸閉塞2名であった。同一入居者様の同疾患の入院が多くあった。利用者様の高齢化、機能低下により繰り返される入院は、今後も考えられるが、これに関しては、肺炎予防に努め、施設で実施できる医療処置（点滴、在宅酸素の等）の説明を行い本人および家族の同意の下、できるだけ施設内で対応していきたい。自力喀痰喀出できない入居者に、4名の介護職員（認定特定行為業務従事者）と連携し、必要時吸引ができていたので入居者様の誤嚥や窒息、肺炎予防につながっていると思われる。また、適切な時期に、受診につなげる判断や、必要に応じて日頃から嘱託医に、入居者様の状態を適切に報告するようにした。

想定外の事故や骨折8件、誤薬が4件あった。リスク委員の開催、安全管理のためのマニュアル、業務手順の見直し、職員の再教育・研修を実施し再発防止にむけて安全管理に取り組んだ。研修においては、心肺蘇生法の実施研修を10月に実施した。

職員の健康（健診、メンタルヘルス対策、腰痛予防等）の保持増進にも配慮した。日頃から感染防止対策を徹底し、感染性胃腸炎・インフルエンザ・新型コロナウイルス等の感染症発症はなかった。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、入居者様の日頃からの健康状態の把握、職員に対しては、出勤前の体温測定と発熱等の症状が認められる場合に出勤を行わない事、換気、共同使用のドアノブ、パソコン、机、床等の消毒等も徹底し行った。3月より面会禁止とし、外部から施設に立ち入る前の問診表の作成をした。嘱託医から家族様への説明時や看取り時等には、家族様に来て頂き対応した。

業務の簡素化・効率化をはかるため介護職員が行える医療行為や坐薬の挿入等依頼し安全にできている。日々の70名の内服薬の準備、確認、配薬、仕分け等、薬にとられている時間が長く、また嘱託医が替り、薬の変更も多くなったため抜薬等も医務が行っている現状があったが、3月よりかもめ薬局に代わり、薬にかかる時間が短縮し、業務の効率化につながった。今後、他科受診の薬も定期薬につけてもらえるよう等薬局と調整をしていきたい。

ユニット毎の看護師の担当等決められなかったが、医務室で毎日、カンファレンスしており、全員が方向性を共有し、責任をもって入居者様の異常の早期発見や日々の細やかなケアに繋がっているのではないかとと思われる。また、このことを目指した看護体制が築いていけるよう努力していきたいと考えています。

1. 褥瘡

項目	令和元年9月末	令和2年3月末日
褥瘡者	2名	2名

2. 看取り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R1年	0名	1名	2名	2名	0名	3名	0名	1名	1名	0名	0名	0名	10名

3. 利用者数・稼働率・入院者数・延べ入院日数・退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数 (人)	2073	2141	2056	2091	2085	1963	2082	1987	1982	1958	1907	2090	24415
稼働率 (%)	98.7	98.7	97.9	96.3	96.1	93.5	95.9	94.6	91.3	90.2	93.9	96.3	93.7
入院者数 (人)	2	2	3	3	5	3	4	3	10	5	3	3	46
延べ入院 日数	19	19	29	54	86	75	77	84	179	174	80	76	952
退所者 (人)	1	2	2	2	0	5	1	2	0	4	3	0	22

I. 肺炎予防の対策として、上野歯科と連携し、口腔内をいつも綺麗にしておくことや寝る姿勢等日常生活の工夫をし、誤嚥しないように唾液腺マッサージや嚥下体操を施行し肺炎予防に努めた。

4. 令和元年度 事故

	Aランク	Bランク	Cランク	合計
事故件数	3	5	244	252

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

Aランク：意識消失にて、車椅子より転倒。全介助入居者の右脛骨近位骨折 全介助入居者の右大腿骨頸部骨折 Bランク：全介助の入居者の左上腕骨通果骨折 ベッドから歩行し転倒左大腿骨転子部骨折 歩行されている入居者の肋骨骨折 全介助入居者の右第3趾基節骨骨折 全介助入居者の右第7肋骨ひび Cランク：誤薬4件 薬の飲み忘れ等26件

5. 研修

		参加人数
6月	バイタルサインについて	10人
9月	尿路感染について	13人
10月	褥瘡予防について	3人
11月	感染症予防	15人
1月	看取りについて	2人
3月	基礎疾患について（肺炎）	16人

令和元年度特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

事業報告書

令和元年度は、異物混入の防止と配膳ミスをなくすことに力を入れた。

異物混入については、仕事前のコロコロの徹底や下処理時に蓋付き容器に入れラップの使用を控えることで、髪の毛やラップの混入は防止できたが、ペーパータオルやビニール片の混入が起きてしまった。ビニール片は温泉たまごの調味液の切れ端が混入してしまっていたことから、調味料の開け方を袋入り調味料の場合・小さい使い切りの調味料の場合等、個別にマニュアル化し徹底するようにした。

また、異物混入ではないが賞味期限が1日過ぎた牛乳を利用者様に提供してしまうミスがあった。1週間前にバナナのみキサー食に使用し、その使いかけの牛乳を再びバナナのみキサー食に使用してしまった。原因としては、賞味期限の切れた牛乳を廃棄していなかったことと使用時に賞味期限の確認が不十分であったことが挙げられる。対策としては、厨房で使用し余った牛乳はユニットに上げて使用してもらい、使いかけを厨房には置かない、この方法で再発を防いでいる。

デイサービスの配膳ミスについては、仕事始めに人数・食種・禁止食品等を声に出して確認している。また、刻み食や代替品は色の違うトレーにまとめて置くことで、後から間違いなく配膳できているか確認しやすいようにした。しかし、極刻み食やみキサー食といった普段提供の少ない食種の提供ミスが無くならなかった。第三者の目で確認(盛付け担当以外の職員が確認)するよう決めていたが、時間に追われ確認できないまま提供に至っていることも原因の一つとなっている。作業にもう少し余裕ができるよう作業工程の見直しを検討する。

栄養ケアマネジメントについては、令和2年3月時点で、低リスク33名・中リスク33名・高リスク3名となっており、高リスクの理由は、褥瘡1名と大幅な体重減少2名となっている。体重減少の2名は退院後に大幅な体重減少が見られた。栄養補助食品を提供し対応している。

12月17日に和歌山県にある医療法人整友会に「見た目のおいしさ」と「食べやすさ」を両立した「やわめし」の見学に行き、硬い食材を軟らかくする方法を学んだ。方法は、野菜の下茹で時に酵素を入れて煮るだけであるが、食材によって濃度や煮る時間で出来上がりが変わってしまうため、濃度や時間を変えながら試行錯誤している。

ケアマネジメント

(人)

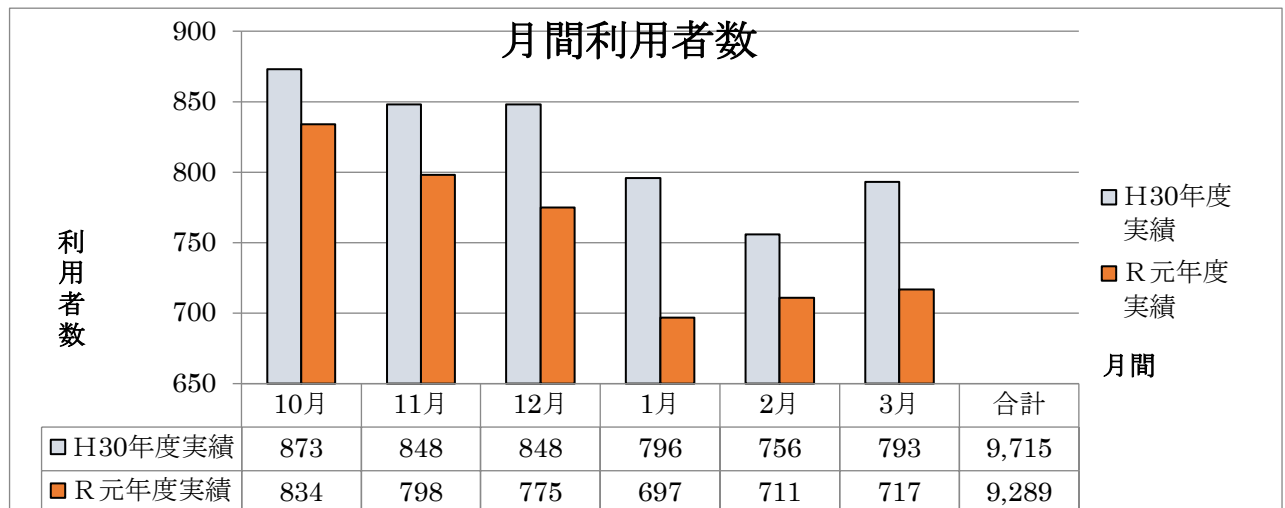
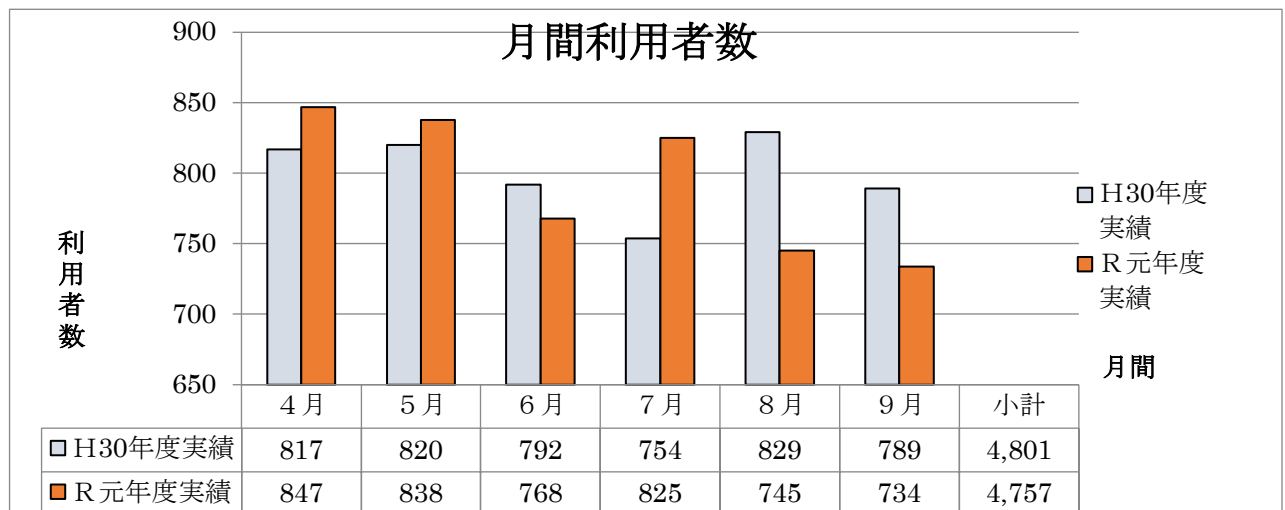
	低リスク	中リスク	高リスク
(目標)令和2年3月	34	32	2
令和2年3月	33	33	3

令和元年度 デイサービスサンライフ土山

事業報告書

令和元年度は、利用者様意欲の引き出し、職員の募集、人材の育成に力を入れた。利用者様意欲の引き出しにおいては、昨年度に引き続き、ワクワク系実践講座で学んだことを活かし、デイサービスに通う意欲や楽しみが持てるように支援した。人材面では、介護職員の業務負担増により、新たなサービス提供が出来ていないことが一番の課題となっている為、介護補助として、障害者雇用 1 名採用した。また、看護師による送迎や外出同行を行い、介護職員の負担軽減を図った。収支に関しては、人件費等支出面は減少となったが、収入面では、大幅に利用率が低下してしまい、目標としていた月平均 32.5 名を下回り 29.9 名の受け入れとなり収入減となった。引き続き、利用人数増加を図りつつ、多職種連携とチームワークの強化を図り、事故防止に努め、安全で快適なサービスを提供していきたい。

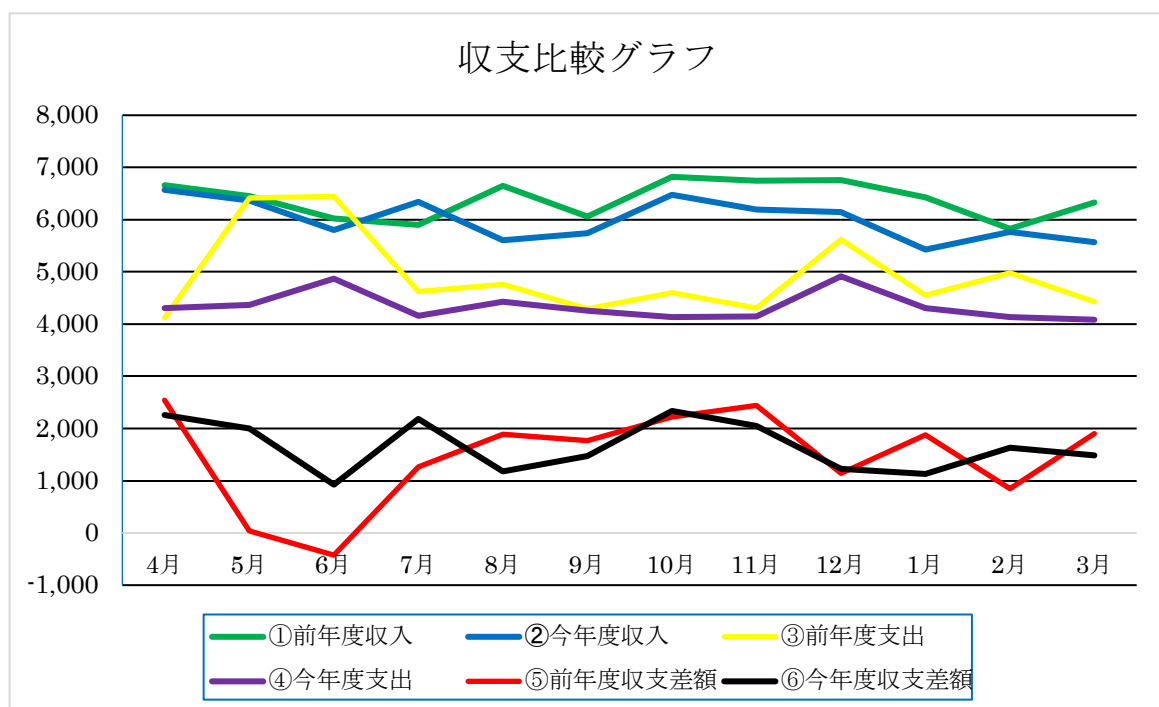
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	6,660	6,451	6,020	5,897	6,646	6,056	37,730	—
②今年度収入	6,571	6,370	5,797	6,343	5,611	5,737	36,429	96.6
③前年度支出	4,118	6,415	6,445	4,627	4,754	4,291	30,650	—
④今年度支出	4,311	4,372	4,872	4,154	4,430	4,261	26,400	86.1
⑤前年度収支差額	2,542	36	-425	1,270	1,892	1,765	7,080	—
⑥今年度収支差額	2,260	1,998	925	2,189	1,181	1,476	10,029	141.7
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	6,820	6,751	6,754	6,430	5,825	6,329	76,639	—
②今年度収入	6,473	6,194	6,141	5,427	5,769	5,575	72,008	94.0
③前年度支出	4,603	4,309	5,613	4,554	4,978	4,430	59,137	—
④今年度支出	4,136	4,150	4,915	4,302	4,132	4,084	52,119	88.1
⑤前年度収支差額	2,217	2,442	1,141	1,876	847	1,899	17,502	—
⑥今年度収支差額	2,337	2,044	1,226	1,125	1,637	1,491	19,889	113.6



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
65歳未満									
65歳以上 ～75歳未 満			154 (20)	416 (44)	27 (4)		111 (12)		708 (80)
75歳以上 ～85歳未 満		201 (50)	651 (81)	1292 (106)	792 (69)	79 (9)	77 (10)	156 (21)	3248 (346)
85歳以上		302 (77)	625 (82)	2715 (246)	557 (73)	761 (60)	196 (29)	177 (13)	5333 (580)
合計		503 (127)	1430 (183)	4423 (396)	1376 (146)	840 (69)	384 (51)	333 (34)	9289 (1006)

前半の数字は延べ回数、()内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度 (R2年3月現在)

職員 18 名 (正職員 2 名 非常勤看護師 4 名 非常勤介護職員 12 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4月	26	847	1947	32.6	10.5	3.1	9.5	3.4
5月	27	838	2011.5	31.0	10.7	2.9	9.7	3.2
6月	25	768	1856	30.7	10.0	3.1	9.0	3.4
7月	27	825	2084.5	30.6	11.4	2.7	10.4	2.9
8月	26	745	2059	28.7	10.8	2.7	9.8	2.9
9月	25	734	1916	29.4	10.2	2.9	9.2	3.2
10月	27	834	2095	30.9	11.1	2.8	10.1	3.1
11月	26	798	2154	30.7	11.8	2.6	10.8	2.8
12月	26	775	2068	29.8	11.0	2.7	10.0	3.0
1月	25	697	1952	27.9	10.2	2.7	9.2	3.0
2月	25	711	1916	28.4	11.1	2.6	10.1	2.8
3月	26	717	2017.5	27.6	10.6	2.6	9.6	2.9

令和元年度 サンライフ土山居宅介護支援事業所

事業報告書

令和元年度は、職員が1名増えたことで収入も増えたが、設備等の準備の為、支出も多かった。新規利用者獲得の為、全体で月平均25件の営業活動を行なった。下半期の営業総件数157件に対し新規の依頼が32件あった。営業活動の約2割が新規獲得に繋がる結果となった。認定有効期間が最長3年と長くなった事もあり、まだまだ要支援の利用者が多いが、地域包括支援センターとの、常日頃の連携により、要介護者の新規依頼も確実に増えてきている。困難事例であっても、各事業所・地域包括と連携し解決出来るように、事業所全体で取り組みを行なってきた。今後も地域で必要とされる居宅介護支援事業所になるよう、介護支援の専門職であると意識し、営業活動に取り組んでいくと共に、利用者のニーズに沿ったプランが提供できるように継続して取り組みを行なう。

1. 営業・新規獲得実績

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
営業実績	22	15	20	24	36	29	146
新規獲得	2	3	7	9	9	10	40
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業実績	27	22	24	40	26	18	303
新規獲得	13	7	2	3	2	5	72

2. 居宅介護料収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成30年度	635	636	714	728	736	705	4,155
令和元年度	904	898	894	915	884	900	5,398
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	907	879	936	928	868	993	9,670
令和元年度	1,034	955	925	913	1,000	966	11,194

3. 予防委託料収入

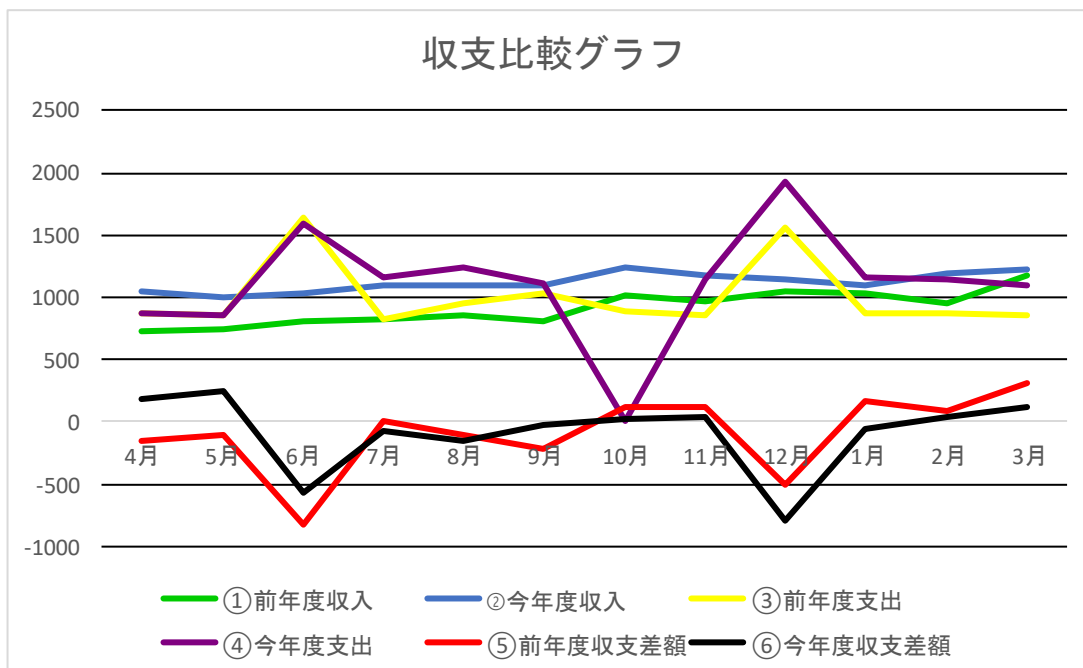
(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成30年度	78	92	96	81	99	86	535
令和元年度	81	92	85	119	143	153	676
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	89	92	82	82	81	86	1,050
令和元年度	180	180	170	173	174	174	1,730

4. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	725	741.	814	832	849	807	4,768	—
② 今年度収入	1,049	1,001	1,029	1,092	1,094	1,089	6,354	133.3
③ 前年度支出	877	850	1,640	825	948	1,025	6,167	—
④ 今年度支出	871	861	1,594	1,158	1,240	1,115	6,841	110.9
⑤前年度収支差額	-152	-109	-826	7	-99	-218	-1,399	—
⑥今年度収支差額	178	240	-565	-66	-146	-26	-487	287.3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	1,020	975	1,048	1,038	956	1,169	10,974	—
② 今年度収入	1,234	1,183	1,137	1,098	1,186	1,219	13,411	122.2
③ 前年度支出	893	854	1,557	868	869	856	12,067	—
④ 今年度支出	12,04	1,145	1,937	1,163	1,139	1,097	14,529	120.4
⑤前年度収支差額	127	121	-509	170	87	313	-1,093	—
⑥今年度収支差額	30	38	-800	-65	47	122	-1,118	97.8



令和1年度 リハビリデイサービス サンライフ御立西

事業報告書

令和1年度ささゆり会経営スローガンである「助け合って難局を乗り越える」に基づき、職員に対して働きやすく、やりがいある職場環境を整えていくと共に、利用者様に対してのサービスの質の向上を目指し運営を行った。

1. 業務の簡素化・効率化

2018年度よりアプリの導入を実施しているが、業務の簡素化・効率化の実現には至っていない。しかし、遠方のご家族との連絡ツールとしてメールを活用したり、また利用者様のデイサービスでの様子を確認できたりと、ご家族にも好評を得ることができた。

2. 職員が働きやすい環境作り

令和1年度の有給取得目標として年8日取得（フルタイム職員の場合）を掲げていたが、その他の職員を含めても平均7.2日と目標を達成することができ、有給取得しやすい職場として職員にも定着することができた。

3. 新規利用者数の確保

管理者・相談員の変更、また度重なる短期間での正規職員の異動もあり、上半期は営業活動を全く行う事ができなかった。夏以降利用者様の施設入所が重なり、急激な利用者減少となったため、下半期は月の営業目標を立て、積極的に営業活動を行い、新規利用者の確保に努めた。

4. 食事内容・価格の見直し

施設オープン以来利用していた宅配弁当の値上がりにより、別業者への変更を余儀なくされた。また、消費税増税に伴い食事代金を450円から550円に変更し、その代わりにお茶菓子のバリエーション・クオリティの改善を行い、利用者様には好評を得ることができた。

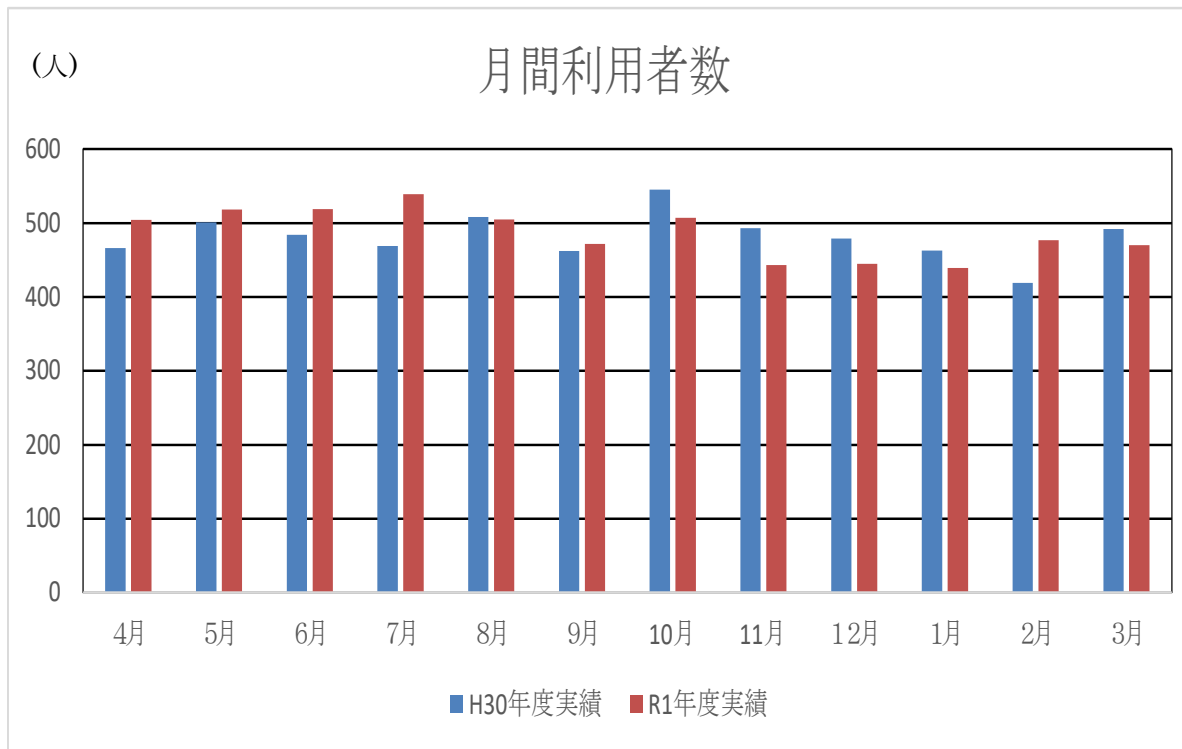
年間比較収支

(千円)

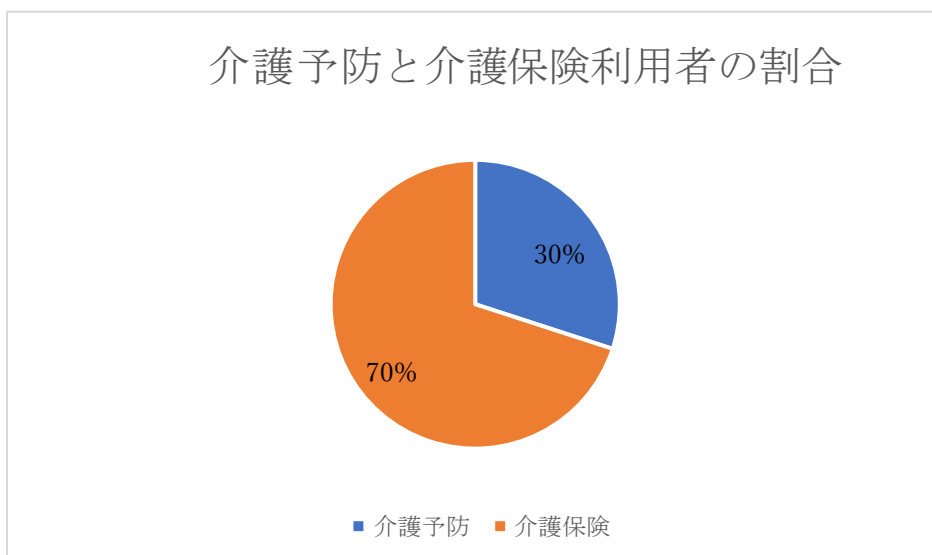
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,768	3,961	3,818	3,765	4,001	3,782	23,095	-
②今年度収入	4,141	4,235	4,178	4,434	4,043	3,881	24,912	107.9
③前年度支出	3,159	4,790	4,478	3,346	3,563	3,420	22,756	-
④今年度支出	3,388	3,498	4,074	3,734	4,954	3,898	23,546	103.5
⑤前年度収支差額	609	-829	-660	419	438	362	339	-
⑥今年度収支差額	753	737	104	700	-911	-17	1,366	402.9
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	比率
①前年度収入	4,397	3,836	3,781	3,864	3,383	3,911	46,267	-
②今年度収入	3,941	3,778	3,662	3,590	4,203	3,741	47,827	103.4
③前年度支出	3,386	3,070	4,099	3,322	4,143	3,368	44,144	-
④今年度支出	3,871	3,762	4,528	3,860	3,908	3,612	47,087	106.7
⑤前年度収支差額	1,011	766	-318	542	-760	543	2,123	-
⑥今年度収支差額	70	16	-866	-270	295	129	740	34.9

(千円)

令和元年度利用者数



令和元年度介護予防と介護保険利用者の割合



令和元年度 特別養護老人ホームサンライフ西庄 事業報告書

経営スローガンである「助け合って難局を乗り切る」をもとに、人材の確保が困難な中、入居者様本位のサービス向上に繋がるよう教育体制の強化・研修の充実により人材育成を図ると共に家族・ユニット・他職種が連携し個別ケアを協働で実施出来るように連携を行いサービスを実施した。

1. ユニットケアの充実

ユニット・フロア内の問題に対し連携がとりにくい為、毎月1度会議を行い対策徹底に繋がっているが、決定事項の徹底が困難となった。

また有給取得については今年度の有給発生時期を確認し計画的に取得を心掛けているが人員確保が困難なことにより計画的な有給取得が難しい状況にある。また、食事などの職種間を超える問題には他職種協働による対策を行った。

2. リーダー・居室担当強化

I. リーダー能力向上

リーダーへの事故分析・ユニット指導及び職員のフォロー・徹底能力・問題提起・問題解決能力・ユニット外連携能力向上を目指すと共に、リーダーより指導を行うようにしたが、ユニット内でのサービスの徹底が、職員の意識・能力等により困難な状況である。また、指導力等に関してもリーダー毎にバラツキが生じている。

II. 居室担当の強化

居室担当と入居者様・家族様との信頼関係を強化する為、居室環境の確認や入居者様の日常の変化やニーズなどを捉え、家族様に伝えていき、居室担当としての責任を持てるよう目標としたが、コミュニケーション能力などによりバラツキが生じており担当意識の強化が求められている。

また、居室担当によるケアプランの原案作成には施設長からの研修を実施し職員に2度原案を作成させ、入居者様等の理解が出来ているかを把握した。

3. QCサークル活動の開始

初のQCサークル活動では、「誤薬を減らす。」をテーマに1ヶ月1件以内を目標として実施したが昨年度の24件に対し19件と減少したものの同じ職員による誤薬数が多く目標達成には至らなかった。

4. 日中のサービス充実

I. レクリエーションの強化

夜勤体制を3名から2名（2ユニットに1人）の業務体系を築いたが、常時ユニットのプロ

アに1名の体制であるが1月1回のおやつレクや、ユニットやフロア共同での実施が行える日も増えてきている。

II. 個別機能訓練の強化

生活機能向上連携加算を算定し厚生病院の理学療法士と機能訓練計画や評価を実施している為、介護職からも日常動作等について施設の機能訓練士と連携し入居者様にあった個別の機能訓練を実施した。看護師の不足により8月だけは算定出来なかった。

III. 口腔衛生の強化

歯科衛生士により研修及びユニット毎に入居者様毎の口腔ケアの方法を職員に個別指導を実施すると共に口腔ケアの実施方法を居室に貼付けし基本毎食後の口腔衛生を実施した。9月より歯科衛生士が異動となったが、現在は毎食後、実施できるようになっている。

IV. 運転業務の指導

運転業務について、ハイエース等の運転が出来ない職員が多い為、研修は行えたが、練習をする人員と時間がなく受診等の送迎は看護師・施設長・相談員で実施している状態のままとなっている。

5. 施設内研修の実施

研修委員会を立ち上げ、全職員対象に4月より毎月2度、虐待防止・介護技術などの施設内研修を実施した。研修終了後にはミニテストなどで研修内容の把握の強化も確認している。介護福祉士が取得できなかった者にプリントを配布し採点を行い3名中2名が合格した。

6. 地域貢献

リストランテ・ヴォーノは毎月1回（長期休みは2回）実施し8月は夏休みの宿題を助けるため3時から開始するなどしたが、8月より参加人数の減少が見られるため対策が必要となっている。

また、イキイキ100歳体操は毎週1回地域に開放して実施しているが地域の保育園等との交流は実現出来ていない。地域貢献事業については、コロナウィルスの影響で3月からは地域貢献事業を中止している。

7. 収入の確保

4月～7月は栄養マネジメント加算8月は個別機能訓練加算・生活機能向上連携加算の算定出来なかったが、9月からは個別機能訓練加算を看護体制加算Ⅱに取得を変更し、10月からは特定処遇改善加算の算定が行えた。

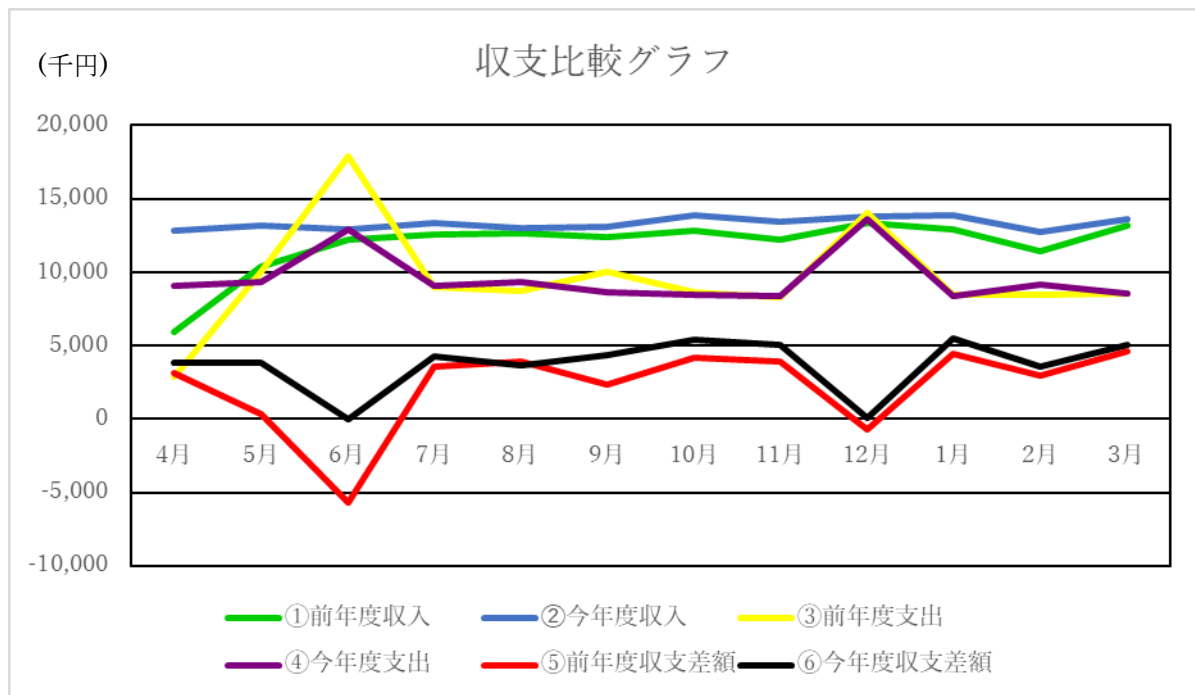
また、入院時にはショートステイ・病院・家族との連携を行い早期退院に繋げ、毎食後の口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防や、施設内での異常の早期発見を行い、早期の施設での点滴投与を実施することにより、医療力を高め入院を防ぎ入所率98%以上を目指し99%を達成出来た。目標より5,328千円収入を確保することが出来た。

年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	5,972	10,407	12,236	12,612	12,632	12,382	66,241	—
②今年度収入	12,847	13,198	12,901	13,326	13,002	13,062	78,336	118.3
③前年度支出	2,854	10,075	17,925	9,007	8,704	10,005	58,570	—
④今年度支出	9,047	9,368	12,924	9,078	9,326	8,679	58,422	99.7
⑤前年度収支差額	3,118	332	-5,689	3,605	3,928	2,377	7,671	—
⑥今年度収支差額	3,800	3,830	-23	4,248	3,676	4,383	19,914	259.6

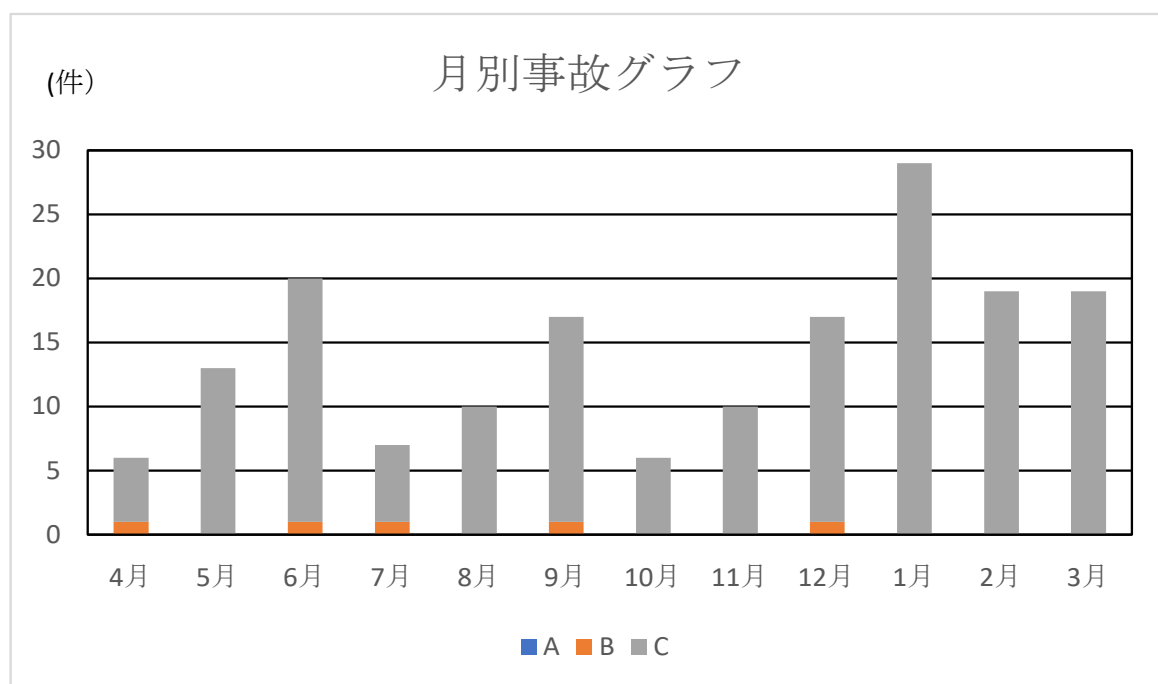
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	12,825	12,238	13,319	12,888	11,447	13,175	142,133	—
②今年度収入	13,913	13,471	13,769	13,844	12,778	13,623	159,734	112.4
③前年度支出	8,674	8,314	14,073	8,461	8,479	8,578	115,149	—
④今年度支出	8,475	8,379	13,654	8,348	9,195	8,529	115,002	99.9
⑤前年度収支差額	4,151	3,924	-754	4,427	2,968	4,597	26,984	—
⑥今年度収支差額	5,438	5,092	115	5,496	3,583	5,094	44,732	165.8



事故件数

(単位：件)

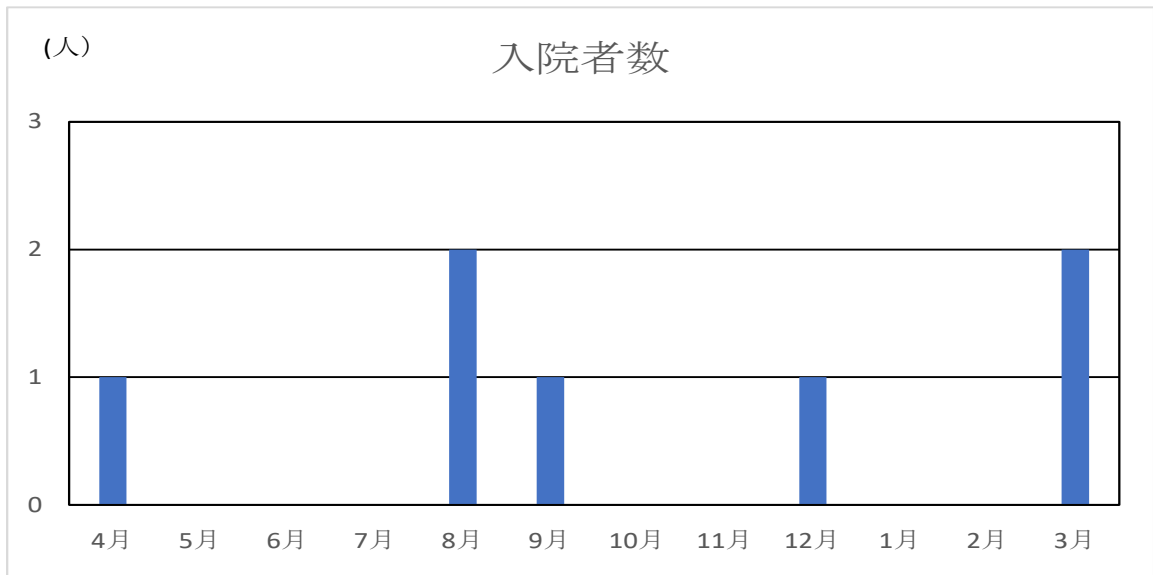
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
総数	6	13	20	7	10	17	73
A	0	0	0	0	0	0	0
B	1	0	1	1	0	1	4
C	5	13	19	6	10	16	69
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総数	6	10	17	29	19	18	172
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	1	0	0	0	5
C	6	10	16	29	19	19	167



入院者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和元年度	1	0	0	0	2	1	4
理由	肺炎				肺炎・下血	褥瘡	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	0	0	1	0	0	2	7
理由			胆石			敗血症 脳梗塞	

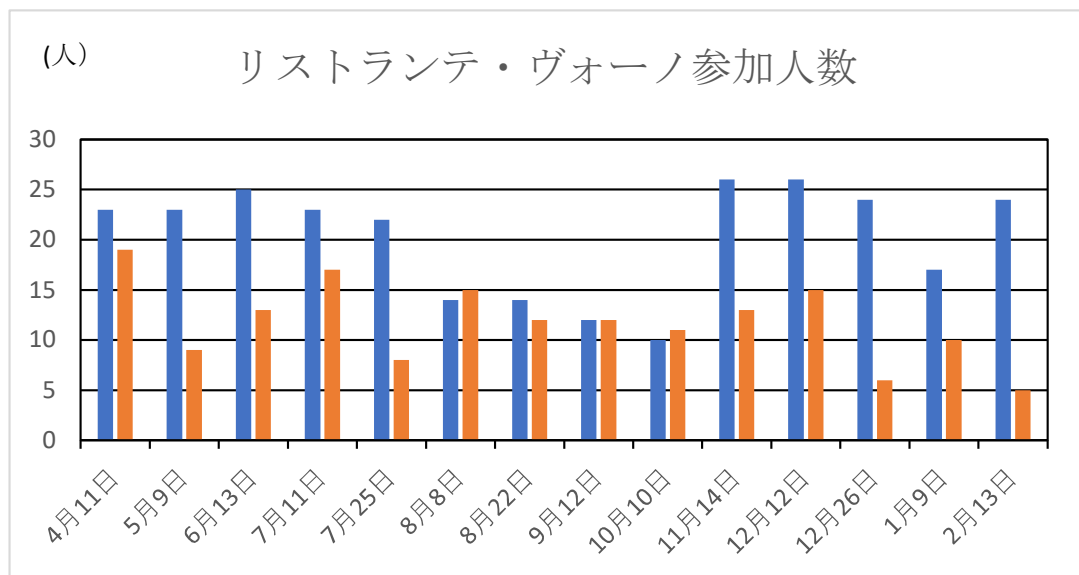


レストランテ・ヴォーノ参加状況

(人)

	4月11日	5月9日	6月13日	7月11日	7月25日	8月8日	8月22日	合計
子ども人数	23	23	25	23	22	14	14	144
ボランティア	19	9	13	17	8	15	12	93

	9月12日	10月10日	11月14日	12月12日	12月26日	1月9日	2月13日	合計
子ども人数	12	10	26	26	24	17	24	283
ボランティア	12	11	13	15	6	10	5	165



令和元年度 ショートステイサンライフ西庄 事業報告書

度経営スローガンである「助け合って難局を乗り切る」をもとに、人材の確保が困難な中、サービス向上と職員の資質向上の為、定期的な研修会を行うと共に、研修のチェックを行うことにより現場で実際に学んだことを活かせるようにした。また、各職員が責任を持ち業務に当たれるように工夫し、家族・ユニット・他職種が連携し協働で個別ケアを行えるようにした。

1. ユニットケアの充実

ユニット・フロア内の様々な問題に対し、体制的に連携がとりにくい為、毎月1度会議を行い対策徹底に繋げた。また有給取得については今年度の有給発生時期を確認し計画的に取得を心掛けているが人員確保が困難なことにより計画的な有給取得が難しい状況にある。また、食事などの職種間を超える問題には他職種協働による対策を行っている。

2. リーダー・居室担当強化

I. リーダー能力向上

リーダーへの事故分析・ユニット指導及び職員のフォロー・徹底能力・問題提起・問題解決能力・ユニット外連携能力向上を目指すと共に、リーダーにより分担を決め、各職員が責任を持ち、次の職員の事を考え動いている。

II. 居室担当の強化

居室担当と入居者様・家族様との信頼関係を強化する為、居室環境の確認や入居者様の日常の変化やニーズなどを捉え、家族様に伝えていき、居室担当としての責任を持てるよう目標としたが、コミュニケーション能力などによりバラツキが生じている。

3. QCサークル活動の開始

「誤薬を減らす。」の目標に取り組んだが、一部の職員の飲み込み確認の徹底が出来ていないことにより、同じ事故が繰り返され、「意識」に対する再対策が必要となった。

4. 日中のサービス充実

I. レクリエーションの強化

毎月もおやつレクや誕生会を実施すると共に毎日おやつ前にラジオ体操を取り入れご入居者様も習慣化され毎日参加されている。

II. 個別機能訓練の強化

身体機能の低下を防ぎ個別に、歩行訓練や可動域訓練・日常動作訓練・軽作業などを個別で実施している。また本格的なリハビリを希望される方も居られるため、家族と協議し医療保険でのリハビリを実施するなど利用者様のニーズに応えられるように対応をした。

Ⅲ. 口腔衛生の強化

歯科衛生士や歯科医師からの指導を受け実施するだけでなく、一人一人に合った、口腔用品を使用し毎食後に口腔ケアを実施できている。

Ⅳ. 運転業務の指導

運転業務について、ハイエース等の運転が出来ない職員が多いが、指導する時間帯がなく受診等の送迎は看護師・施設長・相談員で実施している状態のままとなっている。

5. 施設内研修の実施

研修委員会を立ち上げ、全職員対象に4月より毎月全体会議終了後に2度、口腔衛生・虐待防止・介護技術などの施設内研修を実施した。研修終了後にはミニテストなどで研修内容の把握の強化も確認している。介護福祉士が取得できなかった者にプリントを配布し採点を行っている。

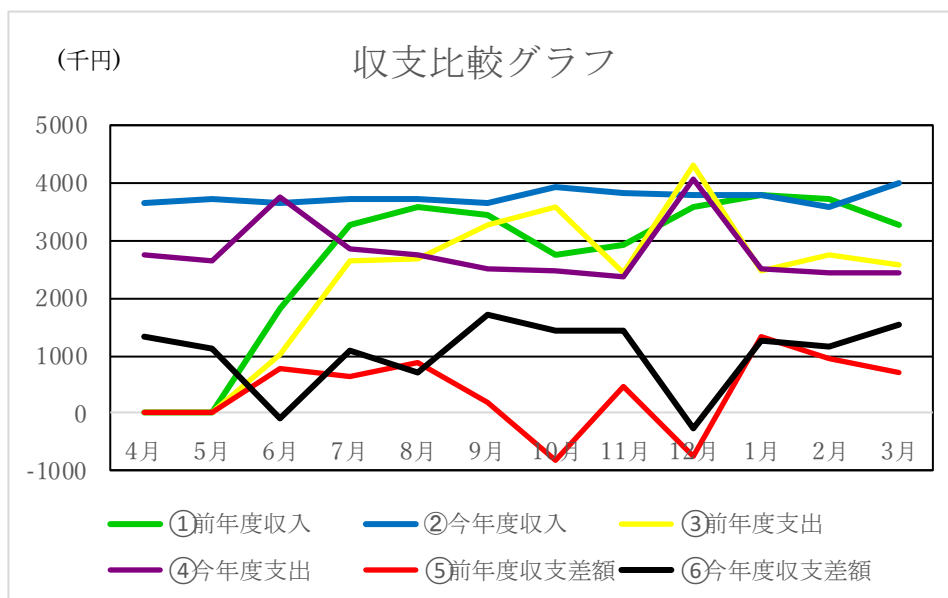
6. 収入の確保

介護福祉士の割合で5月よりサービス提供体制強化加算を取得し、病院・家族との連携を行い早期退院に繋げた。また、毎食後の口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防や、施設内での異常の早期発見を行い、早期の施設での点滴投与を実施することにより、医療力を高め入院を防ぎ入所率98%以上を目指したが97%にとどまった。しかし、収入は目標より1,873千円収入を確保することが出来た。

年間収支比較

(千円)

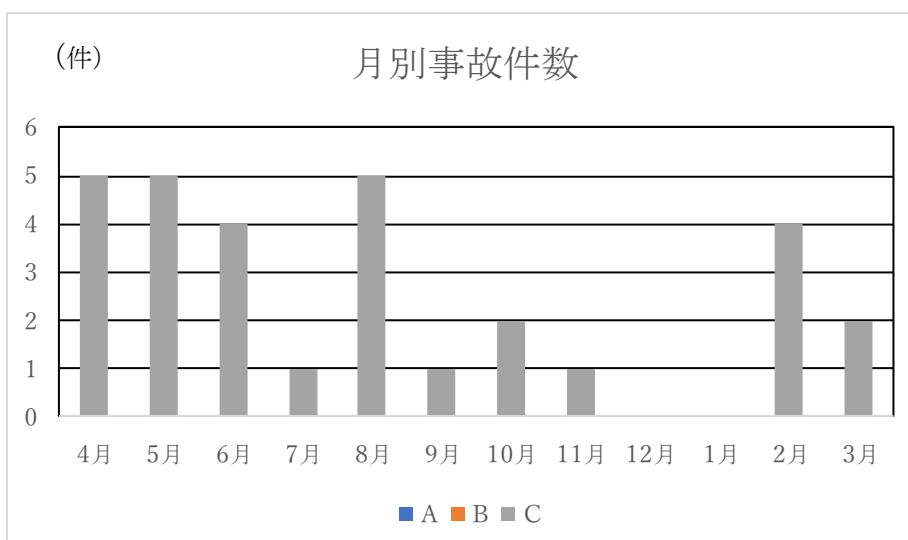
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	—	—	1,812	3,291	3,594	3,452	12,149	—
②今年度収入	3,677	3,723	3,677	3,723	3,723	3,677	22,200	182.7
③前年度支出	—	—	1,031	2,650	2,700	3,273	9,654	—
④今年度支出	2,750	2,644	3,776	2,874	2,767	2,517	17,328	179.5
⑤前年度収支差額	—	—	781	641	894	179	2,495	—
⑥今年度収支差額	1,342	1,135	-82	1,083	713	1,725	5,916	237.1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	2,759	2,928	3,582	3,801	3,714	3,295	32,228	—
②今年度収入	3,926	3,820	3,800	3,784	3,603	4,004	46,181	143.3
③前年度支出	3,589	2,446	4,331	2,464	2,754	2,593	27,831	—
④今年度支出	2,474	2,365	4,065	2,517	2,452	2,445	33,646	120.9
⑤前年度収支差額	-830	482	-749	1,337	960	702	4,397	—
⑥今年度収支差額	1,452	1,455	-265	1,267	1,151	1,559	12,535	285.1



事故件数

(単位：件)

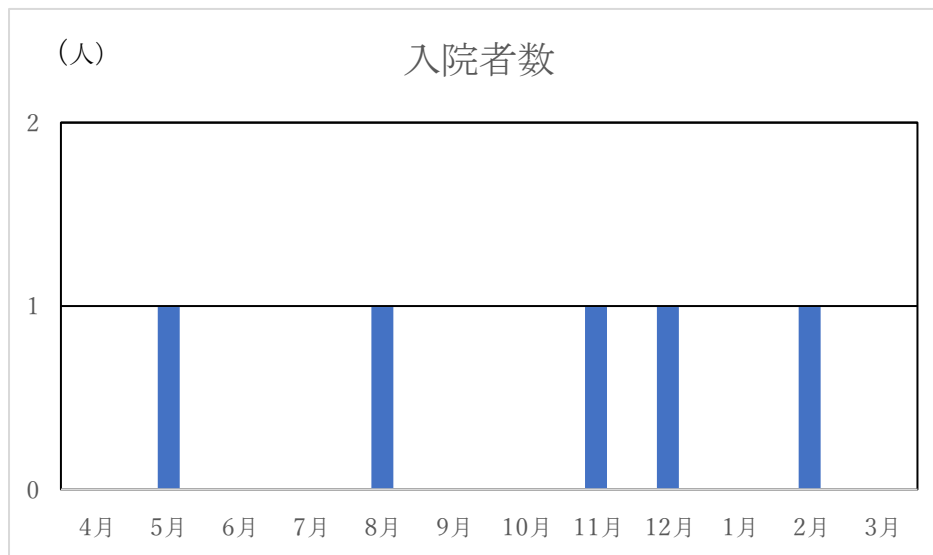
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和元年度	5	5	4	1	5	1	21
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	0	0
C	5	5	4	1	5	1	20
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	2	1	0	0	4	2	30
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	0	0
C	2	1	0	0	4	2	30



入院者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
入院者数	0	1	0	0	1	0	2
理由		検査			検査		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院者数	0	1	1	0	1	0	5
理由		高血圧性脳症	肺炎		食事量低下		



令和元年度 グループホーム サンライフ西庄 事業報告書

グループホームが開設し1年を迎えた。職員の怪我や病気による休職や退職が相次いだ。また、経験の浅い職員入職への指導の強化が必要な状況であったが、サービスの質の向上のため施設内外研修の充実や日常生活における機能維持・レクリエーション活動などを家族様と協働して取り組んだ。

I. サービスの充実

1. レクリエーション活動

9月に紅葉外出を家族様参加で企画実施、5組参加される。2回目の家族参加の外出企画という事もあって、「家族同士が仲良くなれた」「家族が話せる場があって嬉しい」と喜びの声をいただいた。長時間一緒に外出する事で利用者様の認知症状や身体機能を知り、グループホームでの生活の理解を得るいい機会となった。

2. 機能維持について

ラジオ体操や棒体操を実施している。屋外の活動としては、天気の良い日に屋上や近隣への散歩をしている。職員への意識づけとして生活の中で出来る事を考えて、声掛けによりフロアの歩行を増やし下肢筋力維持を重点においた運動を取り入れているが、下肢筋力の低下が懸念される。

II. 職員の意識・質の向上について

1. 会議について

毎月ユニット会議を実施、情報の共有や業務と見直しや再確認を行う事でチーム力の維持を図っている。事故対策や入居者の対応について話し合いの場を設けて意見を伝える事でチーム力は向上した。

2. 内部研修について

特養と共に毎月2回施設内研修を実施した。グループホームは更に専門性を高める為、研修を行いたいが上半期は施設内に加えてキャリアパス研修、介護支援専門員更新研修で日程の確保が困難であった。下半期は認知症ケアに加えて、虐待や身体拘束の学びの場を設けた。

3. 事故対策について

事故委員会により毎月事故予防啓発ポスターを掲示した。予防できた事故については職員同士で話し合い、予防意識や知識の向上につながった。服薬事故の対策としては、名前、日付、いつの確認を怠らない事を徹底。服薬忘れ防止については、服薬準備・服薬者・服薬後の確認者を決めた。薬が床に落ちていた事故に対しては、必ず服薬後までの確認の周知と、錠剤をまとめたカップで提供した。しかし、食前薬の服用忘れが続けて見られたため、食事提供前の服薬確認者も決めて対応した。

4. 実習生受け入れについて

今年度より介護福祉士実習の受け入れを行っている。学生への指導を行う為に技術の見直し、指導力の向上へと繋がった。

Ⅲ. 休暇について

年5日の有給休暇と生活支援休暇は取れた。今後、生活支援休暇対象の職員が増えるため続けて取得するには安定した人員の確保が必要である。

Ⅳ. 事業運営について

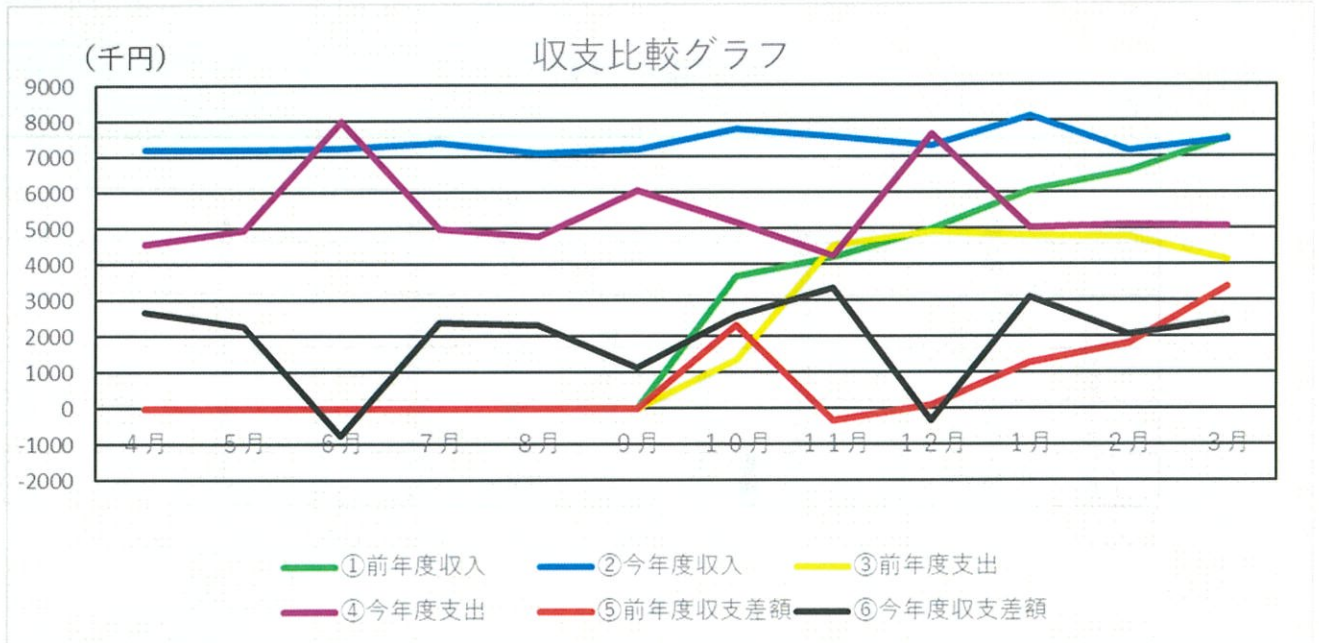
転倒事故による入院は2件、服薬事故が2件発生した。体調不良による入院は病院や家族様と連携を図り早期に退院へと繋がった。服薬事故に関しては、いずれも服薬介助時の職員の確認不足であったため服薬マニュアルの徹底を行う。また、人員については減算対象になり得る月もあったが、他事業所からの応援により回避できた。人員の確保と同時に紹介会社による紹介料や派遣職員、常勤職員の人数による人件費が大きな出費となった。稼働率は目標の99%を確保できた。

年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	—	—	—	—	—	—	—	—
②今年度収入	7,214	7,222	7,244	7,375	7,114	7,199	43,368	
③前年度支出	—	—	—	—	—	—	—	—
④今年度支出	4,553	4,949	7,999	4,981	4,786	6,075	33,343	
⑤前年度収支差額	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥今年度収支差額	2,661	2,273	-755	2,394	2,328	1,124	10,025	—
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	3,688	4,197	5,000	6,078	6,598	7,524	33,085	—
②今年度収入	7,769	7,587	7,307	8,142	7,161	7,512	88,846	268.5
③前年度支出	1,357	4,519	4,907	4,818	4,777	4,139	24,517	—
④今年度支出	5,187	4,240	7,632	5,026	5,104	5,071	65,603	267.6
⑤前年度収支差額	2,331	-322	93	1,260	1,821	3,385	8,568	—
⑥今年度収支差額	2,582	3,347	-325	3,116	2,057	2,441	23,243	271.3

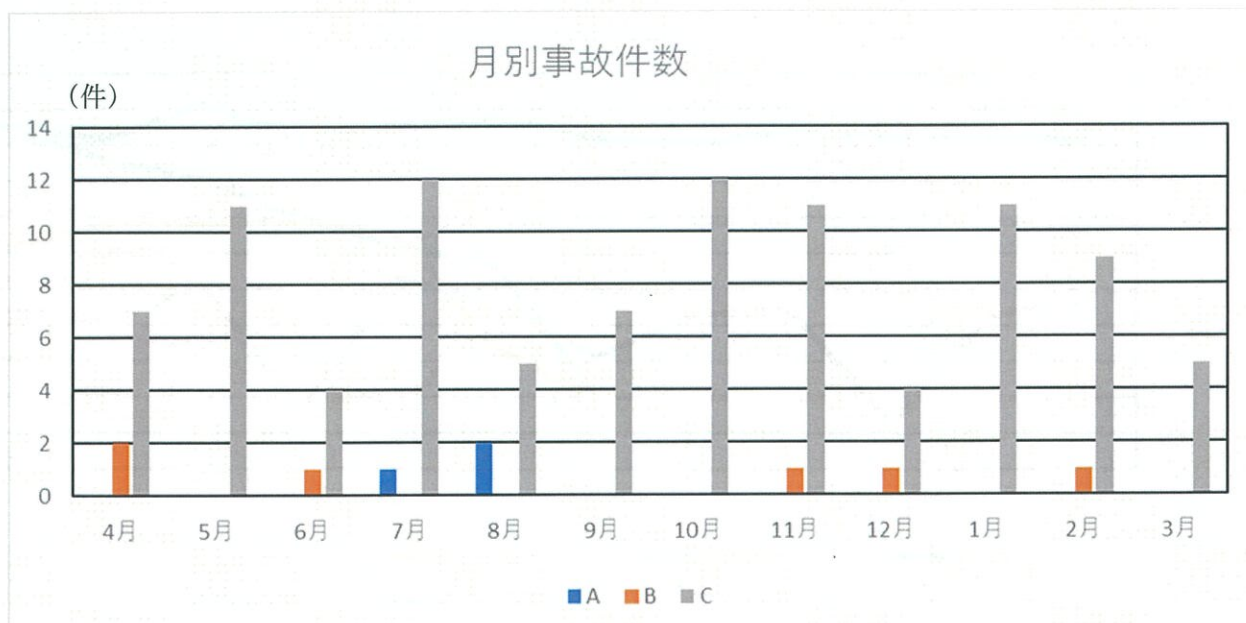
(千円)



事故件数

(件)

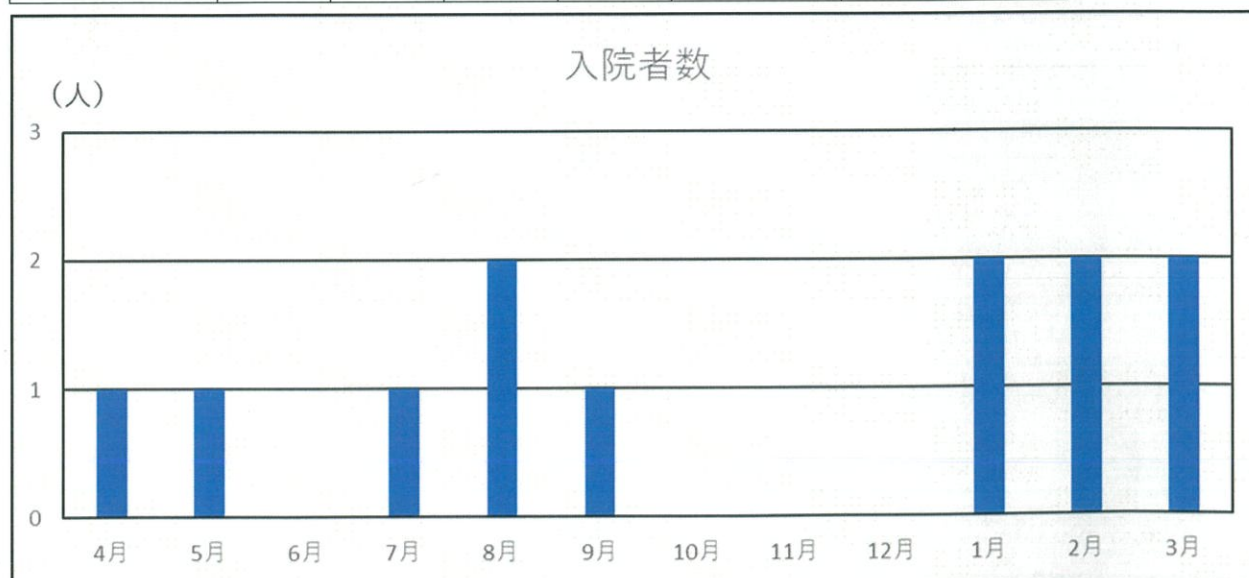
令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
A (入院加療を要する事故)	0	0	0	1	2	0	3
B (受診・通院を要する事故)	2	0	1	0	0	0	3
C (痛み・外傷を伴わない)	7	11	4	12	5	7	46
合計	9	11	5	13	7	7	52
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A (入院加療を要する事故)	0	0	0	0	0	0	0
B (受診・通院を要する事故)	0	1	1	0	1	0	3
C (痛み・外傷を伴わない)	12	11	4	11	9	5	52
合計	12	12	5	11	10	5	55



入院者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R1年度	1	1	0	1	2	1	6
理由	不整脈	気管支 炎		骨折	低ナトリウ ム血症・硬膜 下血腫	肺炎	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R1年度	0	0	0	2	2	2	6
理由				高血糖 肺炎	肺炎 精神不安定	肺炎 頸椎症	



施設内研修

実施月	研修内容	参加人数	実施月	研修内容	参加人数
4月	理念・サービス規程	6名	10月	感染症対策	5名
5月	認知症ケア	4名	11月	感染症テスト	14名
6月	身体拘束・虐待	5名	12月	看取り	5名
7月	介護保険	8名	1月	身体拘束・虐待	6名
8月	衛生管理	8名	2月	記録	4名
9月	介護技術	5名	3月	他職種連携	3名

<ボランティア>

虹色の風 様 (2020.1.18)

令和元年度 特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

事業報告書

1、便秘の軽減

上半期は2名の治療に必要な褥瘡が発生していたが褥瘡0を目指し、介護士とともに利用者様の状態変化に対し密に連携し、発生リスクが高くなる時には早急に対策を話し合い実施し処置が必要な物は1名に減少できた。

入居者様の状態や排便状況によって医師と連携し、下剤の変更や軽減などは実施している。

しかしながら下剤を減らせる人もいれば、利用者様の状態で増量する人もいる状況である。

2、連携強化とベッドコントロール

異常がみられたときには早めの受診や往診医への相談を行うように努め早期で発見、受診の結果、施設での点滴加療や内服での治療が可能にしており、入院が必要な状態まで利用者様に苦痛を伴うようなことはないように努めた。

また、入院での加療が必要となった利用者様においては状態などを施設長、相談員の協力のもと病院と密に連絡をとり利用者様の状態の把握に努め、施設での加療が出来るような状態であれば、家族様の意向も確認しながら出来るだけ早く退院、帰園できるように調整した。

今後も異常の早期発見に努め、利用者様の苦痛の軽減に努めていくとともに、入院が必要にならないよう早め早めの対応に努め、特別養護老人ホームでは年間7名、ショートステイにおいては年間5名の入院者数に抑えることが出来た。

3. 日常機能訓練の強化

機能訓練指導員不在のため7、8月は実施できていなかったが、9月からは個別機能訓練加算の算定から厚生病院のPTと連携し生活機能向上加算の算定に変更し、より専門的な個別機能訓練が実施できるようになった。

ポジショニングやADLでの変化について現場の介護職からの相談内容に理学療法士と連携し、その都度の変化に合わせた介助方法や福祉用具使用を導入することが出来ている。

令和元年度 特別養護老人ホームサンライフ西庄（厨房）

事業報告書

昨年度は人員不足により管理栄養士業務が滞った時期もあったが、令和元年度は新規職員を採用し、調理業務と管理栄養士業務を円滑に行うことができた。

また、子供食堂では参加者よりカレーライス以外の希望もあり、新たにエビチャウダーや焼きそば等を取り入れ、バラエティに富んだメニューの提供を行った。

I 人材の定着・育成

令和元年度は、新規で調理師2名・管理栄養士1名を採用、定着した。また、現職の非常勤職員の人材育成として、食材毎のまな板・ボウルの使い分け、清潔・不潔の区別等、大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生指導を行った。

II 献立の充実

昨年度は献立がパターン化していたのが課題であったが、人員の定着・調理技術の向上・献立作成を行う管理栄養士の採用により、充実した食事を提供できた。管理栄養士・調理師が個々で動くのではなく、声を掛け合い相談しながらより良い食事を提供できるように協力することができた。また、管理栄養士・調理師が定期的に入居者様の食事介助に参加することにより、どのように食べておられるか、味や食べやすさ等の率直な意見を聞くことができ、献立や調理に活かすことができた。

そして味のばらつきも課題であったが、調味料の分量を決め、味見も厨房職員全員で行うことにより改善された。実際、入居者様や職員からは「食事が美味くなった」との声を頂くことが増えた。

III 衛生管理

令和元年度は、虫・髪の毛・石などの混入の報告はなかったが、魚に骨が混入していることがあった。業者にはその都度報告し、注意を促した。それに加え、盛り付け時にも「骨が残っているかもしれない」という意識を厨房職員全員が持つようにした。

在庫に関しては、昨年度は厨房での在庫が多く無駄が多かったが、在庫管理表を作成し在庫量を把握、在庫品を献立に盛り込む等在庫管理を徹底することで無駄を減らすことができた。また、食材の予定使用量を下回ったときは必ず管理栄養士に報告するよう徹底し、次回使用時にまわす等工夫を行った。

しかし、各フロアの食材や調味料の賞味期限の把握はできておらず廃棄することがあった。

そして衛生管理に関しては、8月に手洗いの重要性について施設内研修を行い 厨房職員にもより一層衛生管理に留意するよう指導した。

IV 食事形態

前年度、退院後は食形態が落ちている方が多かったことや義歯の調整等が多かったことにより刻み食の喫食者が増えていた。

令和2年3月時点での食事形態は以下のとおりである。

	普通食	刻み食	極刻み食	ミキサー食	経管栄養
H31年3月	8名	11名	5名	5名	0名
R2年3月	14名	4名	4名	7名	0名

令和元年度は施設長・看護師・相談員・介護士・管理栄養士の多職種でミールラウンドを行い、食形態のアップを図ることができた。また、食思の低い方には必要に応じ栄養補助食品を提供し必要栄養量の確保に努めた。

V 子供食堂の充実

令和元年度は参加者からの希望で、第10回～カレー以外のメニューを取り入れた。参加者からは、「美味しい」との声が多く、何度もおかわりする参加者も増えた。参加者数は第1～9回の平均17名から、第10～14回の平均23名と増加しており材料費についても以前と比して抑えることができた。

	第1回 カレー	第2回 カレー	第3回 カレー	第4回 カレー	第5回 カレー	第6回 カレー	第7回 カレー
参加者数	23名	23名	25名	14名	22名	15名	14名

	第8回 カレー	第9回 カレー	第10回 オムライ ス	第11回 クリスマ ス会	第12回 エビチャ ウダー	第13回 焼きそば パン	第14回 五目そば
参加者数	12名	12名	26名	26名	24名	17名	24名

令和元年度特別養護老人ホームサンライフ魚崎

事業報告書

今年度は、「職員一同助けあって難局を乗り切る」をスローガンに「生産性の高い職場」を目指していく。考えた介護を実践する為に、職員それぞれが介護における技術や知識を自ら考え、根拠を持って実践できる体制を整える。職員間に意見を出し合い、伝える能力、聞く能力を向上し、チームケアの考えを中心におき全職種で協力しあえる体制を作っていく。

1. 生産性の高い職場作りへの取り組み

I. 職員育成体制の見直し

- ①新人職員及び中堅職員の育成において、チェックシートを作成し、各勤続年数に応じた、チーム内の役割、個人目標を設定し、人材育成を進めて行くことができた。チェックシートをもとに相談員との面談も3ヶ月に1回以上は個別に設け、個人の考えや想いを汲み取り、介護現場に活かせるアイディアは積極的に取り入れることができた。
- ②職員会議を2ヶ月に1回行い、情報の共有を図り、ケアの方法や部署の課題を抽出し、職員個々の意見を発信する場として、開催することができた。日々の業務や介護方法についての考えや悩みを共有できる良い機会になっている。
- ③EPA職員や技能実習生の日本語学習において、業務時間内に勉強する時間を確保し、日本語の学習する機会を設けることができた。

II. 介護方法の見直しと業務削減への取り組み

- ①直接介護の負担が大きい場面において、福祉用具を積極的に導入し、フレックスボードやスライディングボードを利用し、職員の身体的負担を軽減することができた。次年度はノーリフティングケアを目標に掲げている為、現在よりも職員に身体的負担がない介助方法を確立していきたい。
- ②定期的な業務削減を職員個々に発案してもらい、業務の簡素化や削減を行なうことができた。間接業務の必要性や介護時間の見直し等を定期的に見直すことによって、業務中心の流れから、少しずつ入居者様中心の流れに変化している。次年度はノーリフティングケアを実施するにあたり、徒手的介護方法よりも介護時間を費やすことになる為、今年度よりも間接業務及び介護時間の見直しを定期的に行っていきたい。
- ③見守りカメラの導入により、事故防止対策が向上し、夜勤者の介護負担（見守り）が軽減された。また、ナースコールを新たに交換したことにより、各階における、ナースコールの対応が可能となった。

2. 経営の安定化への取り組み

I. 年間稼働率目標値 99%以上への取り組み

①年間稼働率の 99%を達成することはできなかった。その要因として、常時男女共に 2 名以上の次期入所者確保を行っていたが、月間 3 名以上（同性）の退所者が出た月もあり、空室数が増加。入院においては早期退院を病院と連携し、病院と調整するも入院の日数の増加により目標が達成できず。次年度は常時 3 名（同性）以上の次期入所者の確保を行い、入院後の早期退院の調整を今年度よりも積極的に行っていきたい。

②ショートステイと連携し、ロングショート利用者の確保を行なうことができ、特養の空所時において、スムーズに入所を進めることができた。次年度も特養の次期入所者を者とロングショート利用者のバランスを考慮しながら、ベッドコントロールを行っていきたい。

II. 収支結果

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
H30収入	11,770	11,980	11,450	12,100	12,320	11,790	71,410
R1収入	11,810	12,060	11,940	16,690	12,140	15,000	79,640
R1支出	9,180	15,350	17,260	11,380	9,720	26,200	89,090
収支差額	2,630	△3,290	△5,320	5,310	2,420	△11,200	△9,450
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30収入	12,240	11,230	11,450	11,800	10,880	12,160	141,170
R1収入	12,530	12,070	12,400	12,010	11,640	12,280	152,570
R1支出	9,970	11,410	17,560	11,530	9,620	10,220	159,400
収支差額	2,560	660	△5,160	480	2,020	2,060	△6,830

III. 利用者数・稼働率・入院者数・空室数・入所者数・退所者数・看取り人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期
平成31年度	利用者数（人）	885	906	895	896	903	889	5374
	稼働率（%）	98.3	97.4	99.4	96.3	97.1	98.8	97.9
	入院者数（人）	6（1名）	21（1名）	5（1名）	29（2名）	12（1名）	0	73（6名）
	空室数（人）	9	3	0	5	15	11	43
	入所者数（人）	2	1	0	1	2	3	9
	退所者数（人）	2	1	0	2	2	2	9
	看取り人数（人）	2	1	0	2	2	2	9
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成31年度	利用者数（人）	930	900	899	897	867	910	10777
	稼働率（%）	100	100	96.7	96.5	99.7	97.8	98.4
	入院者数（人）	0	0	20（2名）	21（1名）	3（2名）	17（2名）	61（7名）
	空室数	0	0	11	12	0	3	26
	入所者数（人）	0	0	1	2	0	1	4
	退所者数（人）	0	0	3	0	0	1	4
	看取り人数（人）	0	0	3	0	0	0	3

3. その他

- I. 職員の心身のリフレッシュを図る為に、各職員が4日以上の休みを確保することができ、職員の有給付与数の消化率が89%（平均消化日数12日）と休暇を積極的に取り入れることができた。EPA職員が希望する期間での帰省も実施することができたが、一部感染症拡大の為、帰省が行えず。感染症が終息する時期を考慮し、実施していきたい。
- II. 看護師・介護リーダー・相談員が月1回の意見交換の場を設けることを目標にしていたが、2ヶ月又は3ヶ月に1回しか実施できず。次年度は期間を設けずとも、必要に応じて意見交換が行える環境を作っていきたい。
- III. EPA候補生及び技能実習生の職員が増加し、職員全体の約30%程度を占めている。その為、日本人職員と外国人職員のコミュニケーションを図る機会を設け、相互に働きやすい職場環境を作ることができた。次年度も継続して、働きやすい職場環境を作っていきたい。

以上

令和元年度魚崎高齢者介護支援センター

短期入所生活介護

事業報告書

今年度は、1日利用者数上限の見直し、リピーターで中長期利用されていた方々の施設入所が重なり、新規中長期利用者獲得も思う様に進まなかった為、大幅減少となったが、積極的な中長期利用者の受け入れへと方向転換。他部署との利用者獲得連携を強化し、来年度の利用者増加への布石を打つ事が出来た。

入退所者数増加や職員退職等による業務過多等の現状打破の為に、ケアの質を落とす事なく各職員が意見を出し合い、共有し、介護ケアや業務の見直し等、取り組みを行うも、利用者様に応じた既存の基本となる業務の流れを変えるに至らず。部分的な見直しのみになり、業務の効率化が課題となっている。又、各職員においても、利用者様ケアについての情報共有や意見交換は出てくる様になったが、自らの業務担当のみの仕事をする傾向が強く、職員同士の連携、声の掛け合い、助け合いが不十分であるが故に、一部の業務担当への負担が増え、利用者様へのケアにも影響が出ている為、今後は職員同士が声を掛け合い、助け合い、効率的に動いていける様、業務の抜本的な見直し、改善が必要である。

1. 日中利用者数の減少

単位 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度	625	656	643	643	693	631	633	596	631	631	589	602	7,573
平成30年度	632	664	648	711	716	689	667	620	602	550	540	591	7,630
令和1年度	590	585	575	570	562	485	527	500	549	483	514	427	6,367

前前年度比 84%

前年度比 83%

稼働率

単位 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成29年度	104%	106%	104%	104%	112%	105%	102%	99%	102%	102%	105%	97%	103%
平成30年度	104%	107%	108%	114%	115%	115%	107%	103%	97%	88%	96%	95%	104%
令和1年度	98%	94%	96%	92%	91%	81%	85%	83%	89%	78%	92%	69%	80%

- I. 1日利用者数上限の見直し、リピーターで中長期利用されていた方々の入院や施設入所等が重なり、新規中長期利用者獲得も思う様に進まなかった為、大幅減少となった。利用者数の安定化と入退所業務や送迎負担も考慮し、月20日以上利用の中長期利用者を、3分の2である13~14名を獲得する為、各居宅事業所への訪問や出来る限り新規利用要望を断らない、他部署との中長期利用獲得連携強化を行う事で、いつでも利用出来る施設であると印象付けていく。
- II. 3月末時点で、特養、ケアハウス等待機者で利用しているロングショートが5名となっている。スムーズな施設入所、利用者数安定化の為、長期利用者7名以上の利用を目指し、各相談員と連携を強化し、利用へと繋げる必要がある。

2. 「考え」「話し合い」「見直す」現状に即した業務への変革

- I. 毎月1回、職員会議を実施。日常業務、介護ケア、介護間接業務、各委員会業務等、意見交換や見直し等行い、現状に即した部分的な見直しは行えたが、既存の基礎となる業務の流れ等の見直しには至らず。又、各職員自らの担当業務のみ行い、他職員連との連携、助け合い、声の掛け合いが不足しており、一部担当業務への負担が大きくなり、利用者様へのケア不足へと繋がっている。今後は、効率的な業務の動き確立の為、職員同士が連携しやすい様に、基礎となる業務の流れ等の見直しを行っていく。
- II. 毎月、各職員より事前に課題や見直し点等を議長に提出する事で、積極的に意見を吸い上げ、課題をあぶり出し、日々の申し送り等で話し合い、スピード感を持って、見直しを行う事が出来た。
- III. リーダーを2人体制に変更。相談員が不在時にも、滞りなく動ける様に、一部相談員業務を行うリーダーと現場専任のリーダを分ける事で、滞る事が少なくなったが、業務分担が曖昧で、リーダー同士、相談員との連携も不十分な面もあり、リーダーとしての責任や指導等が上手い出来ない場面も多くみられた。今後は、リーダー、相談員で連携をとれる場を2週~3週毎に設け、部署としての課題、方向性を常に見直していける様にしていく。
- IV. 9月に新しいナースコールシステムと見守りカメラを導入。以前の特養との兼用からショート専用のナースコールシステムとなった事で、利用者様を待たせる事や危険場面への素早い対応へと繋がった。
又、見守りカメラ導入で、効率的な見守りや危険行為への対応負担軽減、転倒等への効果的な対応策検討の為の検証等、職員への負担軽減、サービスの質の向上へと繋がった。
- V. ショート直通の外線電話に変更。履歴、留守番機能を付ける事で、相談員不在時にも、他職員や事務所等の負担なく、対応する事が出来るようになった。
- VI. 職員の健康増進の為、連続リフレッシュ休暇を検討するも、職員退職等もあり、実施できず。連続休暇希望職員には、出来るだけ連続休暇ができる様調整を行った

3. 事故件数と重大事故報告

A：入院加療を要する事故

B：受診・通院を要する事故

C：受診・通院を要さない事故

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A					1								1
B												1	1
C	11	16	14	19	15	12	12	11	21	12	12	12	168
合計	11	16	14	19	16	12	12	11	21	12	12	12	170

- I. 事故件数については、前年度の 204 件と比べ、減少している。各職員、利用者様のケアについての情報共有、対応策の検討等を行う機会を増やした効果だと考えられる。
- II. 重大事故報告。女性 88 歳。8/16、12:50 頃、自ら杖歩行で戻ろうとした所、自居室扉付近にて転倒。最初は左頭部を打ったとの事で、救急病院受診するも、大きな問題なしで帰園。ただ、同日から 2 日間程股関節の辺りの痛み続いた為、再度受診。股関節骨折が判明。リハビリも含め、1 か月の入院となる。

4. 収支金額

収入目標と実績

単位千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成 30 年度収入実績	7,318	7,843	7,512	8,303	7,909	8,021	46,906
令和 1 年度収入実績	6,971	6,946	6,739	6,807	6,072	5,732	39,267
令和 1 年度支出実績	5,874	5,698	9,917	6,264	5,168	13,039	45,960
収支差額	1,097	1,248	-3,178	543	904	-7,307	-6,693

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 30 年度収入実績	7,873	7,256	6,768	6,430	5,962	6,760	87,955
令和 1 年度収入実績	6,343	6,113	6,571	5,812	5,991	4,980	75,077
令和 1 年度支出実績	5,339	5,508	10,118	6,185	5,365	5,684	84,159
収支差額	1,004	605	-3,547	-373	626	-704	-9,082

以上

令和元年度特別養護老人ホームサンライフ魚崎

特養・短期入所 医務

事業報告書

今年度は、新型コロナ肺炎の流行によりまさに、「職員一同助け合って難局を乗り切る」を目標に、介護・看護で共通の認識を持ち、予防の介護・看護を目指してきた。

1. 感染について

秋～初冬にかけては熱発される方もほとんどなく、こもり熱や水分不足によるものであったが、2月、3月に発熱・鼻汁・乾性咳嗽を主症状とするものが10件、うち肺炎による入院1件、発熱・嘔吐・下痢を症状とするものが3件あった。

新型コロナ肺炎の流行で施設での面会全面中止等本格的な感染対応を行うようになってからの発症であったことから、職員個々の感染対応が万全ではないと判断し、通常の感染対応マニュアルの改正、新型コロナ肺炎疑い発症時の感染対応マニュアル作成と共に、手洗い、環境整備、感染対応解除後の片づけ等細かいところまで再々の発信、徹底をした。

特養とショートステイが同フロアで共存している事から、有事にいかに感染拡大を防いでいくかが今後の大きな課題である。

2. 褥瘡について

仙骨に難治性、繰り返している方があったが、治癒し、3月末でゼロとなった。

発赤ができた時点で、座位の時間を調整したり、小パットを使用する、排泄ごとに陰洗を行う等のプランがスタッフ間ですぐに立てられ、実行できるようになっている。今後も継続していきたい。

3. 事故について

特養ショート合わせて薬関係の事故14件、うちのみこぼし5件、いずれも特定のスタッフによるものであったため、個別にも注意喚起し改善している。

昨年度は骨折が多発し、その後の通院によるNsの受診付き添い件数が増加したが、今年度は半減し、転倒・転落による骨折事故は無く、ケア中の骨折が1件であった。

又、スキンケアも減少し、テガダームやラップキュア等衛生材料の消耗も激減した。介護技術の向上、二人介助、ノーリフトが功を奏していると考ええる。

足の爪の事故は続いている為、こまめなカットと必要に応じた保護、介護時の丁寧な手技が今後の課題である。

4. 特養・ショートステイ看護及び研修状況

(1) 疾病発生状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
発熱・風邪罹患者数	33	0	0	2	0	10	3	48	102
その他の疾患罹患者数	74	2	3	1	1	0	0	81	61
Ns付き添い受診回数	19	0	1	3	0	2	0	25	50
(2) 入院・退院・入退所者数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
入院者数	4	0	1	3	1	1	1	11	122
退院者数	4	0	0	3	2	1	2	12	133
退所・死亡者数	9	0	0	3	0	0	1	13	185
入所者数	9	0	0	1	2	0	1	13	165
(3) 特変緊急対応の回数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養	2	0	1	2	0	1	0	6	120
ショートステイ	3	0	0	1	1	0	1	6	200
(4) 医療診療件数（受診・往診）・診療人数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養ショート件数	198	24	32	36	34	30	20	374	76
特養ショート人数	724	117	129	99	120	114	98	1401	97
(5) 研修受講状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
外部件数	3	1	0	2	0	1	0	7	116
外部人数	3	1	0	2	0	1	0	7	116
内部件数	10	2	2	2	2	1	0	19	86
内部人数	10	6	6	8	8	4	0	42	50

以上

令和元年度 魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

事業報告書

今年度のデイサービスは、経営スローガンでもある「職員一同助け合って難局を乗り切る」をもとに、怪我・病気・子供の病気等で欠勤が出ても、職員一人一人がお互いを助け合い、働きやすい、現場復帰しやすい環境づくりに努めた。業務に関しても、一人に仕事が偏らないよう配分を行った。現場業務に関してもその都度、削減できないか変える必要がないか、リーダーを中心に考え、残業にならないよう、業務を組み立てることができた。5日以上連続の休暇を確保する事は出来なかったが、お正月休暇、生活支援休暇の活用、年間5日以上の有給休暇を活用し、職員の休暇確保に努めた。10月の遠足までは外出を行うことができたが、2月下旬より新型コロナウイルスによる感染が徐々に増加し、3月に入るとより一層の感染予防強化が必要となり、デイサービス利用を自粛される方が増え、利用者数・収入ともに減少となった。

1. 利用者獲得への取り組み

- (I) 毎月1日には実績及び報告書を事業所へ訪問し届けた。1ヶ月の予定表を毎月作成し事業所廻りの際に配布し営業活動を実施した。
- (II) 体験ご利用終了後、担当ケアマネージャーへ当日中、又は次の日にご利用時の状況を報告し、新規のご利用検討の依頼を行った。

2. 人材育成・リフレッシュ休暇・残業ゼロへの取り組み

連続5日間の休暇を行う事は出来なかったが、正月休暇・生活支援休暇・年間通して5日以上の有給休暇を使用し職員1人1人の休暇を確保する事は出来た。

3. 介護福祉士・介護支援専門員等の資格習得

1月より非常勤職員1名、介護福祉士資格取得講座受講。進捗状況の確認を適宜行っている。

4. 感染対応

(I) 新型コロナウイルス感染予防の取り組み

- ① 職員の休日外出自粛。マスク着用。朝・夕の検温記録実施。1作業1手洗いの徹底。
- ② 2月24日に厚生労働省より利用者様に対して送迎前の検温の実施の通達があり翌日より送迎車に乗る前に検温を実施、37℃以上の場合はその時点で利用中止とした。また、家族に対しても症状があれば利用を中止とした。
- ③ 利用者様の玄関での入念な手洗い（出来ない利用者様には消毒）・うがいの徹底。食事前・おやつ前の手指消毒の徹底。

- ④ 利用中の利用者様全員マスク着用。施設からガーゼマスクを配布し消毒・洗浄を実施し利用中のみ着用。
- ⑤ 手すり・トイレ等の1日3回の消毒実施。
- ⑥ 1～2時間おきの換気の徹底。
- ⑦ 家族様、居宅事業所へ、体調管理・感染予防・利用自粛等の適宜状況に応じた手紙の通知。

今年度は職員1名、家族様のインフルエンザの発症はあったが、利用者様のインフルエンザ発症はなかった。

- (Ⅱ) 12月より玄関にて検温実施し、発熱がある場合はフロアへは入らず、その時点でご自宅へお送りさせて頂き利用を中止とした。
- (Ⅲ) 11月より家族様に向けて感染症の注意喚起のお手紙を配布し、体調不良時にはご利用を控えていただく事と、早めの受診を依頼した。また、家族様の体調不良時も同様利用を控えて頂くよう通知を行った。

5. 外出レクの取り組み

(Ⅰ) 外出レクの取り組み

- ① 桜ドライブ (芦屋周辺) (桜の開花が早かった為3月下旬より開始)
4/1～4/9 計76名参加
- ② 岡本バラ園 (岡本バラ園)
5/15～6/4 計58名参加
- ③ 秋の遠足
神戸どうぶつ王国 11/12～10/21 (うち4日間) 計25名参加
須磨水族園 11/1～11/5 (うち5日間) 計20名参加
- ④ 紅葉ドライブ (芦屋から住吉川周辺)
11/18～12/2 計45名参加
- ⑤ 梅ドライブ (岡本梅林公園)
2/18～2/27 計46名参加

(Ⅱ) 夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス週間の実施 (ボランティア、職員の出し物)

- ①夏祭り週間 7月1日～6日 ②敬老会週間 9月23日～28日
- ③運動会週間 10月28日～11/1 ④クリスマス週間 12/16～21

(Ⅲ) ボランティアセンターと連絡を取り、新規のボランティアの受け入れを積極的に行った。

7. 令和1年度利用者状況
 利用状況 (単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H30	月総計	717	776	759	713	756	662	
	日平均	28.6	28.7	28.1	27.4	28	27.5	
R1	月総計	752	739	678	765	786	734	
	日平均	28.9	27.3	27.1	28.3	30.2	29.3	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30	月総計	778	744	720	577	617	764	8,583
	日平均	28.8	28.6	28.8	26.2	25.7	29.3	27.9
R1	月総計	772	725	711	657	668	604	8,591
	日平均	28.5	27.8	28.4	27.3	26.7	23.2	27.7

平成30年度 収入・支出 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H30 年度収入	6,496	7,073	6,911	6,560	6,998	6,030	
R1 年度目標	6,567	6,937	6,468	6,820	6,820	6,197	
R1 年度収入	6,810	6,723	6,309	7,219	7,413	6,485	
R1 年度支出	5,418	5,200	6,967	5,547	5,539	5,336	
収支差	1,392	1,523	-658	1,672	1,874	1,149	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30 年度収入	7,064	6,792	6,529	5,285	5,437	6,873	80,048
R1 年度目標	7,063	6,802	6,468	6,295	6,089	6,332	78,858
R1 年度収入	7,312	6,625	6,305	6,305	6,083	5,467	79,061
R1 年度支出	5,104	4,931	6,603	5,095	8,355	4,708	68,808
収支差	2,208	1,694	-298	1,210	-2,272	759	10,253

※2月は機械浴を購入

以上

令和元年度フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

事業報告書

上半期に2件看取りケアをおこない、対応に追われたがよい経験となった。退居件数が6件と多かったが、入居申し込みが少なく入居者確保困難で対応に追われた。又、入院9件138日と多く、空日数が増加してしまった。令和2年に入り、コロナ感染症流行の為、面会・外出制限や予防対策の徹底に努めながらも、入居者様のストレス軽減の為、日光浴や体操・廊下歩行・レクリエーション等楽しみ作りを多くおこなうよう努めた。

1. 人員確保

- I 人員は安定傾向だが、それぞれ勤務条件が多く、日により不安定となることも多くあった。（他施設からの応援者2名が年度末で終了となり産休1名。）

2. 業務の簡素化・改善

- I 入退院・入退居業務等に追われ、責任者の事務時間が確保できず、業務マニュアルの見直し・改善による業務削減は進まなかったが、来年度に仕事の割り振り計画実施。
- II 昼食出前や調理器具の導入による時短の検討にも取り組めていない為課題。

3. 介護保険法遵守の為の進捗状況。

- I ケアプラン3ヶ月に一回見直し作成実施。居室担当者会議は上半期は難しかったが、下半期は取り組めた。
- II 認知症研修は職員会議で実施。夜勤者等は資料のみもあり。会議回数が少なかった。身体的拘束適正化研修全職員実施。

4. 事故予防対策

- I 事故委員の分析はできているが、事故予防啓発が弱い為、今後も課題。
- II ヒヤリハット・気づきを増やし事故を防ぐ取り組みは、上半期は中々進まなかったが、下半期は啓発し、少し意識して取り組めてきている為、今後も継続に努めていく。

5. 利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	464	496	5856
利用日数 (日)	H30年度	480	496	480	485	474	480	496	470	465	496	448	485	5755
	R1年度	459	463	451	490	465	471	496	472	461	452	464	454	5598
入院 (日)	H30年度	0	0	0	11	18	0	0	10	5	0	0	11	55
	R1年度	21	33	0	0	0	0	0	0	24	26	0	34	138
空室(日) (退居)	H30年度	0	0	0	0	4	0	0	0	26	0	0	0	30
	R1年度	0	0	29	6	31	9	0	8	11	18	0	8	120
稼働率 (%)	H30年度	100%	100%	100%	97%	95%	100%	100%	97%	93%	99%	100%	97%	98%
	R1年度	95%	93%	93%	98%	93%	98%	100%	98%	93%	91%	100%	91%	95%

I 入院9件…病気6件・骨折3件

II 退居6件…入院し退居3件・老衰2件・特養に転居1件

6. 事故発生状況と対策

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	H30年度	6	4	4	4	2	2	5	3	3	1	4	4	42
	R1年度	2	3	2	4	0	1	4	1	3	5	3	1	29
転落	H30年度	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	R1年度	0	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	5
内出血	H30年度	20	18	32	35	16	26	17	15	15	22	18	22	256
	R1年度	15	5	13	4	1	6	11	6	7	6	3	1	78
擦り傷 裂傷	H30年度	0	2	4	3	3	5	2	1	2	6	8	2	38
	R1年度	1	5	1	1	3	9	6	1	3	0	1	0	31
異食	H30年度	1	0	2	1	3	1	2	0	0	0	1	0	11
	R1年度	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
薬ミス	H30年度	1	1	0	1	1	0	2	1	4	4	2	3	20
	R1年度	0	1	0	0	1	0	2	3	0	0	0	1	8
その他	H30年度	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
	R1年度	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
合計	H30年度	28	26	42	44	26	34	28	20	25	33	33	33	370
	R1年度	20	15	17	9	6	16	24	11	15	12	7	4	156

I, 転倒…大腿骨骨折入院3・鎖骨ひび1件 II, 内出血…3cm以下の原因不明の内出血が多い
III, 異食…ビニール・花・ティッシュ V, その他…扉で指をはさむ1件・他者の歯ブラシ使用

7. 令和元年度収支結果

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
H30 収入	5,256	5,309	5,239	5,212	5,284	5,188	31,488
R1 収入	5,149	5,080	5,204	5,443	5,324	5,279	31,478
R1 支出	5,192	5,078	7,307	5,343	4,682	4,723	32,325
収支差額	-43	2	-2,103	100	642	556	-847
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30 収入	5,408	5,114	5,240	5,392	4,991	5,263	62,896
R1 収入	5,598	5,241	5,172	5,381	5,311	5,200	63,381
R1 支出	5,248	5,011	8,064	5,908	5,180	5,464	67,200
収支差額	350	230	-2,892	-527	131	-264	-3,819

以上

令和元年度 介護型ケアハウス サンライフ魚崎

事業報告書

「職員一同助け合って難局を乗り切る。」をスローガンにし、入居者様・家族様・職員同士の繋がりの強化に努めてきた。少しずつではあるが入居者様の役割作りは進んできており、入居者様同士の関係性も深まってきている。情報交換や情報収集の意識付けの強化は今後の課題であり、担当職員だけでなく全員がフロア入居者様の状況を正確に把握し、家族様とのやりとりにばらつきが出ないようにしていきたい。

8月に入職した2名を含めたEPA候補生においては、進捗に大きな差は見られず順調にレベルアップしてきている。日頃のコミュニケーションを大事にしながら職員の役割を徐々に増やしていきたい。

1. 人材育成

- I. 職員同士の挨拶において名前を呼んで挨拶をするという取り組みを行った。初心に戻る事でお互いに気持ちの切り替えができた。家族様・見学の方が来訪された際の明るい挨拶にも繋がっている。
- II. 入居者様の状況把握については職員によりばらつきが見られた。職員個々の意識や業務の捉え方の違い、コミュニケーションが足りていない場面もあった。必要な職員に関しては相談員・リーダーが毎月1回、面談する時間を設け業務上のアドバイスや指導、悩んでいる事の聞き取りを行った。
- III. 8月にEPA候補生2名の受け入れを行った。2年目の候補生は相談員、1年目の候補生はリーダーが中心となり学習の指導を行った。業務は大きな差なくステップアップできており、モチベーション高く業務に従事できている。
- IV. 歯科衛生士実習4名(5日間)、教員体験実習6名(5日間)、社会福祉士実習1名(24日間)、介護福祉士実習2名(17日間)、高等特別支援学校トライやる・JOB実習1名(5日間)の受け入れを行った。各フロアの職員に満遍なく担当についてもらう事で説明の仕方の工夫や知識の再確認に繋がった。
- V. 介護福祉士国家試験については2名受験したが、合格する事はできなかった。次年度も受験予定になっており、基礎的な事項からの学習を促していきたい。

2. 入居者様確保

- I. 年間通して入院が重なった結果、入院日数は前年度210日に対し今年度は318日と増えてしまった。その中でも医療機関・家族様と連携し可能な限り早期退院ができるよう連絡・調整を行った。

- II. 前年度に比べ退所者が7名から10名になった事、退所が重なる事による円滑な入居ができなかった事もあり、空床日数は前年度65日に対し142日と増加した。
- III. 引き続き相談員・看護主任と可能な限り待機者面接に行っている。必要に応じてショートステイと連携しロングショートに繋げる事で、スムーズな入居ができるよう努めた。

3. 活力ある職場作り・業務改善

- I. 偶数月にケアハウス職員会議及びフロア会議を行った。出来る限り職員が発言できる機会を設け、受け身の会議にならないように工夫した。
- II. 毎月、相談員・リーダーでリーダー会議を昨年度に引き続き行った。職員育成の進捗状況等の確認等、情報共有を行う事で事前対策実施においての良い機会になっている。
- III. 3~4日程度の連続した休暇に関しては、ほとんどの職員が取得する事ができた。
- IV. 必要と思われる職員についてはメンタルカウンセラーに繋ぎ、助言を求めた上で可能な範囲での勤務・業務の調整を行った。
- V. 労働環境改善支援事業の申請を行い、離床センサー内蔵ベッド3台を購入した。

4. その他

- I. 備品の老朽化が進んでいる中で、可能なものについては相談員が修繕を行った。
- II. 平成30年度、事故件数501件に対して、令和元年度は438件と削減する事ができた。ほぼ半数が内出血に関する事故であった。
- III. 重大事故については入院に至らない骨折事故が2件、入院に至った骨折事故が1件発生した。

5. 年間収支結果

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
H30 収入	18,218	18,675	18,395	19,198	19,419	19,012	112,917
R1 収入	19,214	19,263	18,614	19,135	19,731	18,812	114,769
R1 支出	15,011	14,326	23,692	16,311	15,564	17,295	102,199
収支差額	4,203	4,937	-5,078	2,824	4,167	1,517	12,570
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30 収入	19,401	18,422	19,253	19,577	17,835	19,701	227,106
R1 収入	19,757	19,368	19,862	19,968	19,316	20,222	233,262
R1 支出	15,193	14,256	25,549	16,791	21,082	13,938	209,008
収支差額	4,564	5,112	-5,687	3,177	-1,766	6,284	24,254

6. 利用日数・稼働率・入院日数・外泊日数・入退所人数・看取り人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
日数	1,440	1,488	1,440	1,488	1,488	1,440	8,784
利用日数	1,397	1,420	1,378	1,427	1,462	1,374	8,458
稼働率	97.0%	95.4%	95.7%	95.9%	98.3%	95.4%	96.2%
入院日数	35	60	41	26	11	37	210
外泊日数	5	3	2	3	8	5	26
空室数	2	5	19	32	7	24	89
退居者数	0	1	3	0	1	2	7
新規入居者数	1	1	0	3	0	2	7
看取り人数	0	0	2	0	1	2	5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	1,488	1,440	1,488	1,488	1,392	1,488	17,568
利用日数	1,446	1,408	1,446	1,457	1,389	1,467	17,071
稼働率	97.2%	97.7%	97.2%	97.9%	99.8%	98.5%	97.1%
入院日数	14	25	35	24	0	10	318
外泊日数	2	4	0	1	3	0	36
空室数	26	3	7	6	0	11	142
退居者数	1	0	1	0	0	1	10
新規入居者数	1	1	0	1	0	0	10
看取り人数	1	0	1	0	0	1	8

以上

令和1年度介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

事業報告書

<スローガン>「助けあって、難局を乗り越える」

1. 令和1年度受診・往診・入院・救急・看取り件数等

月	往診 件数	受診 件数	入院 件数	救急 件数	看取り 件数	薬管理 件数	入居数	退所	入所
4月	94	24	4	1	0	45	46	1	1
5月	104	26	2	1	0	45	46	0	0
6月	93	22	0	0	2	44	45	3	0
7月	100	19	1	0	0	47	48	0	3
8月	96	25	1	0	1	45	46	1	0
9月	99	18	2	0	2	45	46	2	2
10月	139	18	0	0	1	46	47	1	1
11月	95	20	1	1	0	46	47	0	1
12月	85	16	1	1	1	44	45	1	0
1月	88	21	0	0	0	47	48	0	1
2月	94	19	0	0	0	47	48	0	0
3月	77	9	1	0	1	46	47	1	0
合計	1163	237	13	4	8	547	559	10	9

2. 令和1年上半期度 看護支援業務の総括

多職種と連携し、利用者様の健康増進あるいは維持・悪化防止に努めてきた。夜間はオンコール体制となるため、介護職員と情報交換を行い、夜間の状態把握に努めた。下記にその取組について報告する。

1) 健康管理

- ① 入居希望者様の面接へ相談員に随行して医療的な状態の把握やアセスメントを行い、安心して入居して頂く事が出来た。
- ② 担当フロアの巡回を行い日々の入居者様の体調確認に努めた。開田医院と連携し定期往診時には状態を的確に報告し指示を仰いだ。急な状態変化時には速やかに

医師に連絡し指示に従って対処することが出来た。2月25日から感染予防のため定期受診も状態安定している方については電話診察や処方のみに対応にさせていただくよう手配した。

- ③ 看護主任は毎月主治医に医療連携報告書を提出し医師との情報交換に努めた。
- ④ 状態変化時や往診後に医務室カンファレンスを実施し、看護師間で情報共有を行った。指示変更等あれば介護職にも分かりやすいように伝達した。
- ⑤ 口腔衛生管理体制加算算定に基づき、2か月に1回の口腔ケアカンファレンスを実施した。3月よりコロナウイルス感染予防のため衛生士による口腔ケアと歯科往診も中止となったため、チェックリストを作成し、週に1回スタッフが口腔内の点検を行い異常の早期発見と口腔内トラブル予防に努めた。
- ⑥ 2020年4月から調剤薬局変更に伴い、あらかじめ薬局に取り決め事項や情報提供を行いスムーズに移行が出来るようにした。

2) 看取り対応

看取り介護への移行時期を見極め、早めにご家族と看取りについて相談をさせていただくようにしたことで、病院ではなく穏やかに居室で最期を迎えることができた。

3) 感染対策

インフルエンザ・感染性胃腸炎等の従来の感染症に加え、コロナウイルス流行に伴い感染防止対策を徹底した。施設の決定で2月25日より入居様は面会や外出外泊を禁止とし、急を要さない受診は控えることで外部との接触をなるべく減らした。現在感染者はゼロであり、今後も継続していくよう引き続き感染対策を行っていく。

4) 虐待防止・身体的拘束防止について

年に2回の研修に参加し、ゆとりを持った看護で虐待防止することを学び、利用者様への対応に努めた。

5) 看護職員の健康管理について

12月より看護主任就任し、看護体制の見直しを行っている。現在オンコールを2名の看護師で分担しているため、片方に負担がかからないよう公平に分担している。今後5日以上有給休暇、連続リフレッシュ休暇取得が出来るよう調整していく。

以 上

令和元年度 サンライフ魚崎（厨房）

事業報告書

今年度も、ささゆり会の経営スローガンである「職員一同助け合って難局を乗り切る」を実現するため、職員の定着・人材育成に重点を置き、取り組んだが、4月に入社した新卒管理栄養士2名とも退職し、管理栄養士1名体制となった。また、長年勤務された早出非常勤職員も1名退職となり早出職員不足となっていたが、11月に早出非常勤職員1名入社となった。ただし、来年度6月より産休に入る事となる。また、厨房設備等劣化により、機器の故障、厨房内の衛生問題等、職場環境問題が多発した。

季節に応じた旬の食材を提供するため、定期的に地元の業者に伺い、新鮮でその時期に最も安価で美味しい食材の購入に努め、数値的には食材費のコスト削減となったが、実際には新型コロナウイルス感染拡大における緊急事態宣言による利用者様人数減少や食材費価格高騰の影響も受け、実際には思うように進まなかった。

1. 職員の定着・人材育成

- I. 今年度より常勤職員として管理栄養士2名が入社したが、2名とも退職となった。従来の基本となる調理業務等の給食関係業務を重視した指導を主とせず、本人の希望に沿った資格を活かした給食関係等の事務業務と並行し、個人の能力やスピードを重視した指導を行ったが、コミュニケーション・情報共有が不十分だった事もあり、退職となった。来年度は今年度の反省を生かし、十分なコミュニケーションをとっていく。
- II. 厨房職員は比較的年配の非常勤職員（約半数が65歳以上、そのうち2名が70歳以上）が多いため、労働時間の配慮・温度環境の整備に加え、業務全体の補助や業務内容について具体的に分かりやすく統一・掲示するなど、長期間働きやすい環境を整えた。また、上半期の事故件数が4件（うち3件が労働災害案件）と多発したが、下半期の事故件数は1件（労働災害案件）であった。来年度は事故・労働災害ゼロを目指す。
- III. 厨房朝礼（月間目標・挨拶・本日の献立復唱・連絡事項）を今年度も継続し、「笑顔と大きな声で挨拶」の定着と、職員同士が声をかけあい協力しあえる雰囲気作りと、当日の業務内容の把握によるアレルギー等の事故防止・調理方法の統一等に努めた。
- IV. 中止していた部署研修を下半期から再開予定であったが、厨房内業務・事務業務の日常業務全般の遅延、新卒管理栄養士の退職、新型コロナウイルス感染予防等により、実施することが出来なかった。

2. 衛生管理の徹底

- I. 異物混入等の事故防止の為、今年度も継続して、春季・秋季清掃以外にも2ヶ月に1回は手の届かない所の清掃を行った。また、厨房同様の、ケアハウスのキッチン周辺の見回り・状況把握は行うことが出来なかった。

3. コスト削減対策

- I. 鮮魚の業者には、旬で安価な魚の確認(2~3ヶ月に1回)を行い、主仕入先とは1回以上は、旬の食材・食材料費等について双方から提案しあい、安全・良質で、安価な食材確保に努めた。数値的には食材費のコスト削減となったかのように思えたが、実際には、上半期は天災や異常気象の影響による利用者様人数減少、下半期は新型コロナウイルス感染拡大における緊急事態宣言による利用者様人数減少や食材費価格高騰の影響を受けた結果となった。

〈令和元年度食材料費実績〉(円)

	令和元年度	平成30年度	差額	増減(%)
4月	3,162,393	3,084,648	77,745	+2.5
5月	3,011,219	3,129,373	-118,154	-3.8
6月	2,900,583	3,074,403	-173,820	-5.7
7月	3,045,848	3,201,936	-156,088	-4.9
8月	3,130,810	3,224,572	-93,762	-2.9
9月	3,084,582	3,266,453	-181,871	-5.6
10月	2,841,918	3,115,374	-273,456	-8.8
11月	2,984,198	2,964,544	19,654	0.7
12月	3,175,262	3,260,735	-85,473	-2.6
1月	2,918,536	2,917,949	587	0.02
2月	2,775,362	2,712,320	63,042	2.3
3月	2,973,565	2,981,775	-8,210	-0.3
計	36,004,276	36,934,082	-929,806	-2.5

〈令和元年度上半期 1食当たりの平均金額〉(総額/延べ食数)((円)

	R1年度	H30年度	増減(%)
4月	229	218	+5
5月	214	214	0
6月	215	217	-0.9
7月	218	219	-0.5
8月	223	217	+2.8
9月	234	230	+1.7
10月	205	213	-3.8
11月	221	218	1.4
12月	231	236	-2.1
1月	217	213	1.9
2月	211	213	-0.9
3月	223	208	7.2
平均	220	218	+0.9

※小数点以下、四捨五入

4. 入居者様個々の状態に応じた対応

- I. ケース記録により入居者様の日々の様子や、体重減少率・食事摂取量等を把握し、多職種連携を取りながら、入居者様個々に応じた的確な対応を行った。

〈令和元年度食事形態推移〉(名)

※3月末付合計人数 30名

食事形態	人数 (%)	前年度人数 (%)
常食	9 (30%)	9 (30%)
刻み食 (小刻み食含む)	16 (53%)	15 (50%)
ゼリー食	5 (17%)	6 (20%)

- II. 2ヶ月に1回の口腔ケアカンファレンス時、介護・看護と連携し食事形態の見直しを行った。また、日常業務遅延の増加・新型コロナウイルス感染予防等により、積極的に栄養士が現場に出向き、多職種と協働し、情報の共有と意見交換を行う事が出来なかった。来年度は感染症が落ち着き次第、利用者様の状況観察に努めたい。

5. 食事サービスの充実

- I. 給食委員会等で、職員との連携強化し、ニーズの把握に努め、食事レクリエーション、おやつレクリエーション、選択食などの内容を充実させ、楽しんでいただけるようなサービスの実施を行った。

6. その他

- I. 厨房設備等劣化により、給気ファンのモーター・洗浄機等の機器の故障、厨房内の衛生問題等の職場環境問題が多発した。来年度は感染症が落ち着き次第、厨房改修内容の検討に努めたい。
- II. 今年度は厨房職員の入退職者が多かったが、業務に支障のない範囲で有給休暇を取得できるよう勤務の調整を行うことが出来た。

以上

令和元年度 サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

事業報告書

令和元年 8 月に介護支援専門員 1 名、12 月に認定調査員 1 名が退職した。さらに 2 月には管理者が退職した。急遽 3 月から特養・ケアハウス施設長が管理者を兼務する体制を作り、令和元年度の事業を何とか終えることができた。

経営スローガンである「職員一同助け合って難局を乗り切る」を目標とし、事業所内ではチームとしてケアマネージャー同士が助け合いながら全体のスキルアップが図れる関係構築に努めたが、結果的には、利用者様の他事業所への移管などで大幅収入減に至った。加えて、1 月下旬中国武漢で発症したとされる新型コロナウイルス感染が 2 月に入ると日本でも、東京首都圏・大阪兵庫近畿圏を中心にとして流行しだし、3 月中旬には東灘区の通所介護施設でも集団感染が発症した。この影響で、当居宅介護支援事業所員の担当利用者様が感染していることが判明し、15 分程度面談した担当職員を 1 週間自宅待機させる事態に陥った。訪問面談等をマスク着用で 15 分程度の短時間とし、利用者様宅の面談場所の窓開放や 2m 離れての対応・面談後職員の身体消毒など感染防止対策を図りながら慎重に行った。3 月 1 日からは、モニタリング・サービス担当者会議等は自宅を訪問せず、電話・メールなど活用する方法により、何とかこの期中の感染は逃れることができた。ただし、認定調査は 4 月 1 日から電話にて行うことになった。大変な 1 年であった。来期は、新しく入職した介護支援専門員と一緒に明るい活気ある職場を構築しなければならないと思っている。

1. 利用者様獲得

- ① 前半は、魚崎南部あんしんすこやかセンターからの新規依頼は原則受け入れた。
- ② 前半は他のあんしんすこやかセンターとも連携し新規の受け入れ、予防の委託は積極的に受け入れた。後半は退職者も出てケアマネ 3 人で業務をこなした。
- ③ しかし後半、あんしんすこやかセンター・病院等の新規依頼、を人数超過の為受け入れを止めた。

2. 職員一同助け合って難局を乗り切る

- ① 事業所内での連携を強化する為、毎月 2 回会議を開催、部署内での利用者様の情報共有を図り、各自の悩み事や困っていることを話し合った。
- ② 研修や行事への参加を積極的に行い、スキルアップを図れるようにしたかったが、結果として参加状況はよくなかった。

3. 法令遵守

- ① 業務確認表を各ケアマネージャーが毎月作成し、管理者が確認を行い、加算時は書類の確認を行い必要書類に不備がないか確認した。
- ② 基準や加算について不明な点があればケアマネージャー同士で相談し合い、神

戸市への問い合わせ等で確認し、法令遵守に努めた。

③ 加算要件の書類整備等、会議にて確認、特定事業所集中減算の要件に該当するサービスは所定の手続きを行い減算を回避した。

④ 3月には、神戸市介護指導課へ介護保険事業所の自己点検シートを提出した。

4. 利用者数及び居宅収入、研修報告

○ 利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
H30年度実績	99	99	96	98	98	96	586
令和元年度実績	98	100	94	95	92	90	569
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
H30年度実績	97	98	95	97	94	95	1,162
令和元年度実績	91	88	88	85	63	61	1,045

○ 収入（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）

(単位：千円)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成30年度	支援費	要介護	1,261	1,253	1,203	1,237	1,238	1,204	
		要支援	11	18	11	11	11	24	
	認定調査委託料		108	104	108	95	113	90	
	調査委託料(他市)		10	6	23	4	11	3	
	小計		1,390	1,381	1,345	1,347	1,373	1,321	8,157
令和元年度	支援費	要介護	1,280	1,208	1,225	1,171	1,131	1,162	
		要支援	26	26	23	23	26	26	
	認定調査委託料		127	117	81	133	181	113	
	調査委託料(他市)		3	11	18	10	4	11	
	小計		1,436	1,362	1,347	1,337	1,342	1,312	8,136
			10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	支援費	要介護	1,268	1,308	1,228	1,204	1,243	1,280	
		要支援	23	26	23	26	23	23	
	認定調査委託料		63	104	154	136	172	117	
	他市調査委託料		11	14	7	16	10	11	
	小計		1,365	1,452	1,412	1,384	1,448	1,431	16,649
令和元年度	支援費	要介護	1,132	1,101	1,077	825	762	710	
		要支援	26	30	30	7	3	3	
	認定調査委託料		131	149	189	129	170	106	
	他市調査委託料		0	4	13	4	11	8	
	小計		1,289	1,284	1,309	965	946	827	14,756

○ 収支 単位：千円

平成30年収入	16,649
令和元年収入	14,756
令和元年支出	19,275
収支差額	-2,626

○ 研修報告

研修日	研修名	場所	参加者
4/10	認定調査員研修	勤労会館	村上
5/28	介護予防ケアマネジメント研修	神戸交流センター	村野
6/5	認定調査員研修	勤労会館	鈴井
6/7	認定調査員フォローアップ研修	勤労会館	村上
6/20	事例検討会	在宅福祉センター	村野
7/21	PTとOTの違い	のじぎく会館	村野
9/4	認定調査員現認者研修	勤労会館	鈴井
9/10	介護予防ケアマネジメント研修	神戸交流センター	島田
9/12	自殺予防研修	のじぎく会館	村野
9/28	災害対策研修会	のじぎく会館	村野
2/26	神戸市入退院時連携がトライン	神戸交流センター	柳本
2/26	災害時要援護者への取り組みについて	神戸交流センター	柳本

以上

令和元年度 地域包括支援センター

魚崎北部あんしんすこやかセンター

事業報告書

「利用者と共に生活を考える介護職になろう」

「思ったこと、感じたことを伝えてみよう、伝えよう」

「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」

センター内のいつも協調して声掛けあっているのは「挨拶を徹底し、個人情報には注意しながら連携を図り、気持ちよく楽しく仕事ができるような職場にしていく」である。9月初旬地域支えあい推進員が産休に入るため、プランナーであった職員を6/1から地域支えあい推進員に配置。3カ月引継ぎ期間があり、3年間包括の手伝いをしてきたこともあり、スムーズに移行出来た。

プランナー2名交代となり新しい職員になったが、チームで対応を検討し問題なく戦力となっている。

令和1年度センターのモットーである「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」を実践できた。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

- ・7/17：事業者連絡会：成年後見制度活用における本人情報シートの扱いについて情報提供した。横屋会館にて、参加者31名。
- ・7/16のすみれサロン（白石邸にて、参加者15名）と7/30の介護リフレッシュ教室（ケアハウス4階にて、参加者10名）にて、高齢者虐待防止のために身近にできる事を紹介。
- ・9/12：運営推進会議：地域密着型デイ（レコードブックにて、参加者5名）にて虐待予防や困難事例の早期発見、解決のためにデイの送迎での観察が重要であることを広報。
- ・11/20：「元氣いきいき講座」として、司法書士の藤井芳典先生を招いて、講座「住み慣れたまちで暮らし続けるための成年後見の使い方」を開催。現在の地域での生活を続けるために後見制度を使って頂きたい、使えるということを理解していただく意図で実施。参加者19名。
- ・2/19：運営推進会議：小規模多機能（うはら多機能ホームにて、参加者7名）にて、新型コロナウイルスに係る特殊詐欺への注意喚起を広報。
- ・2/20：魚北給食会ご利用の高齢者を対象に新型コロナウイルスに係る特殊詐欺への注

意喚起のチラシを配布した。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進(5万円助成金あり)

- ・7/17：第1回目「お魚の会」兼「地域ケア会議」合同開催。
「脳の健康を保ち、いきいき生活する秘訣とは！！」をテーマに公文教育研究会、学習療法センターの加藤知美様による講演。横屋会館で実施。参加者32名。
- ・10/31：第2回目「お魚の会」兼「地域ケア会議」合同開催。
『まずは声掛け「こんにちは」気になる高齢者 いたら声掛けできますか？』
昨年参加率の低かった北青木住民が参加しやすいように西青木総合会館で実施。
参加者44名中、北青木住民10名。「この地域で声掛け訓練できて良かった。」と感想。
- ・介護予防普及啓発事業（神戸市年間80万円委託料あり）
- ・9/18：神戸市フレイル予防支援事業として、シンコースポーツによる筋肉や身体のゆがみ測定、講話、健康体操などフレイル対策健康セミナーを実施。参加者18名。
- ・11/20：「元気いきいき講座」として、司法書士の藤井芳典先生を招いて、講座「住み慣れたまちで暮らし続けるための成年後見の使い方」とにじいろクリニック担当者を招いて、スクエアステップを中心に介護予防体操を実施。参加者19名。

3. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議の推進。(神戸市から1回に付6,000円委託料あり。)

- ・7/17：第1回目「地域ケア会議」兼「お魚の会」合同開催。
「脳の健康を保ち、いきいき生活する秘訣とは！！」参加者32名。
- ・7/17：事業者連絡会開催。「看護小規模多機能居宅介護」について。
やさしい手看護小規模多機能の方による講演。参加者31名。
- ・10/31：第2回目「地域ケア会議」兼「お魚の会」合同開催。
「まずは声掛け「こんにちは」」参加者44名。
- ・10/31：事業者連絡会開催。「小規模多機能居宅介護」について。
「定期巡回・随時対応型訪問介護訪問看護サービスについて」
- ・3/18：第3回目「地域ケア会議」事例検討。 **コロナウイルス感染予防の為中止**
- ・包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ等支援）
ケアマネ等支援の為の連絡会、研修会を、ほぼ隔月テーマを変えて開催できた。
東灘区あんしんすこやかセンター合同にてケアマネ支援の立場から研修会実施。
- ・6/12 医療と介護の連携～入退院時の連携の在り方について考える～
- ・9/25 口腔内研修会。
- ・10/30 感染症研修
- ・3/5 障害者福祉を勉強しよう！ **コロナウイルス感染予防の為中止**

4. 単身高齢者・老々世帯の孤立化を防ぎ、地域に出かけていけるように。地域支え合い推進員の地域での見守りと居場所づくりの推進。

- ・コミサポ事業として、居場所の後方支援実施。

事業名	実施日と内容					
囲碁将棋の会	4月24日	5月22日	6月26日	7月24日	8月休み	9月25日
	10月23日	11月27日	12月休み	1月22日	2月自粛	3月自粛
かしまし処	4月11日 茶話会	5月9日 茶話会	6月13日 茶話会	7月11日 茶話会	8月休み	9月12日 講習会
	10月10日 ことば遊び	11月14日 ポチ袋作り	12月12日 クリスマス会	1月9日 お正月遊び	2月13日 音読	3月自粛
園芸の会	4月12日 22日23日 土壌づくり	5月7日 31日 あじさい すいか	6月12日 14日	7月2日	8月6日 すいか 収穫祭	9月26日 春菊 ラディッシュ
	10月 1日10日 18日20日 23日28日	11月6日 29日	12月13日 23日 ラディッシュ 春菊収穫	お休み	お休み	3月27日 ハーバリウム制作 コロナ自粛で中止。
魚崎つどいばめぐり(つどい場)	4月15日 実行委員会	8月26日 実行委員会	9月9日 30日 実行委員会	10月25日 ボランティア交流会	新しく冊子作成し5000部発行。広報場所を増やした。	スタンプラリー実施。つどい場に新規利用者93名以上あり。

・コミサポ以外の居場所である、らくらく体操、川井喫茶、UMEのつぶやき、ぽっぼくらぶ、サロンさかなちゃん、リバーサロン、すみれサロン、西青木映画会、レッツゴー体操、魚崎ご近助さん、東灘こどもカフェの後方支援を実施。

・法人事業として、「ふれあい喫茶カフェ魚崎」をケアハウスの4階で引き続き行った。

開催月	内容	参加者	ボランティア
5月25日	ジャズ演奏	18名	9名
7月27日	歌謡演奏	11名	10名
9月28日	フルート・ピアノ	16名	7名
11月30日	朗読と紙芝居	18名	11名

※7月27日は台風の影響で参加者が少なかった。

※3月28日はフルート演奏を企画していたが、コロナ自粛で中止となった。

・ **介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高36万円委託料あり。**

・介護者を対象にした介護リフレッシュ教室企画開催

- 4月26日：「10歳若返ろう」 8名参加
- 7月30日：「ハーバリウム」 10名参加
- 10月30日：「フラワーアレンジメント」 9名参加
- 1月15日：「自分でできる脳のリフレッシュ教室」 9名参加

5. 介護予防マネジメント 総合相談支援

令和2年3月末現在、サービス利用者219件（受託154件、委託65件）（前年比105%）
委託割合30%。委託事業者（法人含む）契約件数17件。

介護予防支援147件。総合事業72件。

H31年度：新規件数51件。要介護に移行した件数42件。中止件数68件。

表.1 H31年度 収入 (単位：円)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
H30年収入	2,335,105	2,497,304	4,205,217	3,465,426	2,415,839	2,313,579
R1年収入	2,308,791	2,530,196	4,248,295	3,513,642	2,466,846	2,367,887
R1年支出	2,257,197	2,522,539	4,171,587	3,314,495	2,433,828	2,332,858
収支差額	51,594	7,657	76,708	199,147	33,018	35,029
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,312,686	2,216,877	4,152,096	2,364,137	2,259,957	2,434,726	32,972,949
2,385,366	2,294,627	4,184,593	2,383,378	2,283,807	2,473,708	33,441,136
2,338,470	2,245,945	4,083,170	2,325,882	2,031,071	2,425,512	32,482,554
46,896	48,682	101,423	57,496	252,736	48,196	958,582

6. 平成30年度研修

《外部研修と復講研修》

日付	研修名	参加者	復講研修 (人数)
5/15	神戸市介護予防カフェ説明会	岩佐	7名
5/24	お結びの会	岸	7名
6/18	兵庫県困難事例対応力向上研修	野田	7名
7/4	新任者向け高齢者虐待対応に係る研修	岩佐	7名
7/19	お結びの会	岸	7名
7/25	保健師看護師カフェ連絡会	野田	7名
8/1	六甲アイランド甲南病院神戸市認知症疾患医療センター事例検討会	奥田	7名

8/9	神戸市介護予防フレイル予防対応研修	奥田	7名
8/21	兵庫県高齢者虐待対応向上D研修	奥田	7名
8/23	神戸市高齢者虐待対応に係る初動期研修	岩佐	7名
8/27	テーマ別研修 地域マネジメント	奥田	7名
8/30	近弁連・高齢者・障害者の権利協議会	奥田	7名
9/19	障害者支援制度について事例	岸	6名
9/28	第2回東灘区在宅医療塾	野田	6名
10/11	お結びの会	岸	6名
10/25	神戸市高齢者虐待対応に係る研修（初動期）	岩佐	6名
11/1	あんしんすこやかセンター新入者研修	岩佐	6名
11/6	困難事例対応力向上研修	野田	6名
11/7	高齢者虐待と対応について	野田 岩佐	6名
11/14	神戸市認知症地域支援推進員研修	奥田、野田	6名
11/27	法テラス兵庫協議会	奥田	6名
12/2	定期巡回随時対応型訪問介護看護充実支援研修	奥田	6名
12/3	認知症地域包括ケア推進員研修	野田	6名
12/4	高齢者虐待対応に係る研修会（対応期&最終期）	岩佐	6名
12/6	DV被害者支援関係機関担当者向け合同研修会	奥田	6名
12/18	排泄ケアのイノベーション	村上	6名
12/19	神鋼記念病院主体交流会	野田	6名
1/16	地域診断研修	奥田	6名
2/12	神戸市あんしんすこやかセンター説明会	岩佐	6名
2/20	東灘区多職種カフェ	野田	6名

《内部研修》 復講研修以外

月	内容	参加者
5月	新入社員研修	川上
5月	虐待研修（全体会議）	野田・岸・岩佐・奥田・臼井 鈴木・川上
6月	新入社員研修	岩佐
7月	新入社員研修	村上

9月	虐待研修（全体会議）	野田・岩佐・奥田
10月	虐待研修（全体会議）	岸、村上、川上
1月	身体的拘束（全体会議）	野田・岸・岩佐・奥田・ 村上・川上

以上